

# 川柳塔

創刊大正十三年 通卷一一四〇号



第10回 春の川柳塔まつり誌上大会

No.1140

五月号

日川協加盟

## 暑中見舞広告募集

本誌七月号に掲載する暑中見舞広告を募集いたします。同人・誌友ならびに各句会(川柳会)のアピール及び誌上名刺交換の場として、積極的にご利用をお願い申し上げます。

★個人 一口 1/9頁 二、〇〇〇円

1/6頁 三、〇〇〇円

(巻末の台紙に原稿を貼付または記入してお申込み下さい。)

★団体 次の四種といたします。

① 1/3頁 六、〇〇〇円

② 1/2頁 九、〇〇〇円

③ 2/3頁 一二、〇〇〇円

④ 1頁 一八、〇〇〇円

▼原稿締切 五月二〇日

川柳塔社

## お知らせ

昨年10月から郵便物(手紙・葉書)ゆうメールの土曜日配達は休止されています。それに伴い、川柳塔への投句締切・毎月15日必着を10月号でお願いしました。

最近締切後に到着する郵便物が大変多くなりました。それらを主幹・理事長・副主幹その他の選者の方々のご厚意により選をさせて頂いておりますが、今後は締切後に到着分は川柳塔・水煙抄は翌月号に掲載、それ以外の投句は残念ながら選の対象外になります。

締切は毎月15日必着。郵便事情をお含みの上余裕をもって投函されますようお願い致します。

## 竹原探訪

小島 蘭 幸

私の住む竹原市には、町並み保存地区があります。多くの映画、テレビドラマのロケ地になっています。先日、NHKの「アニメ聖地旅たまゆら」という番組で、熱心なアニメファンとして知られるキスマイの宮田俊哉が竹原市を旅した模様が放送されました。デビュー当時に心を癒されたというアニメ「たまゆら」の舞台をカメラで撮影しながら探訪する、キスマイ宮田の弾けた笑顔が印象的でした。

### 竹原が大好き普明閣に立つ

蘭 幸

写真好きな高校一年生、沢渡楓が友だちと談笑するアニメ「たまゆら」の一シーン、普明閣は竹原の町が一望できます。

女優、原田知世のデビュー作、映画「時をかける少女」では、普明閣の下が通学路になっています。

原田知世も時も止まったままである

蘭 幸

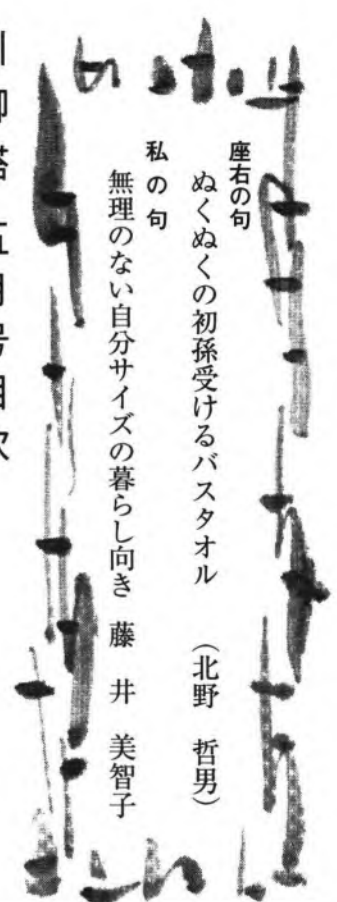
私は、保存地区で撮影中の原田知世を間近で見ました。ちっちゃくてとても可愛かったです。町並みを歩くと、あの時の制服とショートカットが今でも鮮やかに甦ります。

小京都ミステリー「安芸奥の細道殺人事件」では、竹原川柳会から15名がエキストラとして参加しました。私は俳人の一人としてペンと作句帳を持って普明閣に立ちました。普明閣に続く石段を降りると、アニメ「たまゆら」の聖地の一つ、お好み焼ほり川があります。かつては醤油醸造場だったほり川は、「時をかける少女」の舞台にもなっています。

これも愛勝った日に買うスポーツ紙 伸子  
生き様も酒も親父にまだ勝てぬ 昭紀

町並み保存地区には、朝ドラ「マッサン」の生家、竹鶴酒造があります。毎年、秋に開催されるお祭り「憧憬の路」の二日間、竹鶴酒造の格子に短冊8句を飾らせて頂いています。

冒頭のNHK番組には、アニメ「たまゆら」の佐藤監督も出演されていて、初めて竹原駅に降り立った時、タイトルに書かれた「おかえりなさい」の文字に一瞬で心を奪われたそうです。



座右の句

ぬくぬくの初孫受けるバスタオル

(北野 哲男)

私の句

無理のない自分サイズの暮らし向き 藤 井 美智子

## 川柳塔 五月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「花博記念公演 鶴見緑地」

### ■巻頭言 竹原探訪

クラウドファンディング

小島 蘭 幸 ……(1)

清 博 美 ……(2)

川柳塔(同人吟)

小島 蘭 幸 選 ……(4)

川柳塔の川柳讃歌<sup>⑩</sup>

木津 川 計 ……(37)

自選集

戸 田 古 方 ……(38)

句集の森

戸 田 古 方 ……(41)

温故知新

川 上 大 輪 選 ……(41)

水煙抄

川 上 大 輪 選 ……(42)

西尾葉句集「水鶏笛」

吉 村 侑 久 代 ……(58)

英語 de Senryu<sup>⑫</sup>

吉 村 侑 久 代 ……(59)

誹風柳多留一三篇研究 21

新 家 完 司 選 ……(60)

愛染帖

新 家 完 司 選 ……(62)

檸檬抄「ユニーク」

栗 原 道 夫・久 保 田 千 代 共 選 ……(66)

## クラウドファンディング

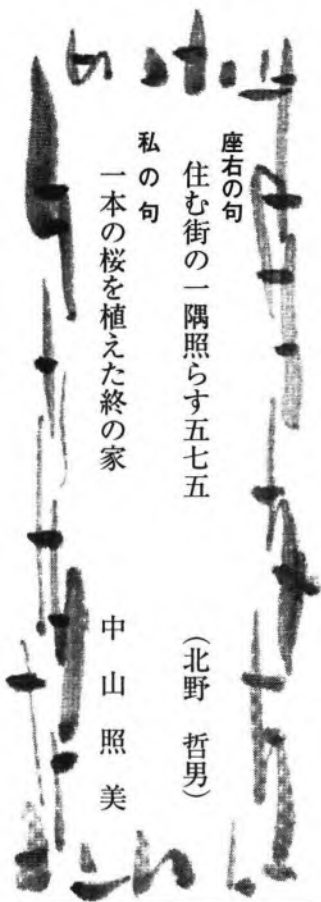
清 博 美

年配の方々には聞き慣れない言葉かと思  
いますが、パソコンのインターネットを通  
じて事業資金を調達するシステムです。

今、川柳の原典である「川柳評前句付万  
句合」全13巻のテキストを刊行しているの  
ですが、五巻まで刊行して、いよいよ資金  
不足に陥っています。最初から赤字覚悟の  
スタートでしたが、その後思うように刊行  
冊数が伸びないのが原因です。

そこでクラウドファンディングでの資金  
調達を試みた次第です。幸にも、REDY  
FORという会社が引き受けられて、すで  
にインターネット上で公開されています。  
しかし、年配の方々がインターネットを開  
く機会は少なく、苦戦を強いられています。  
「川柳評前句付万句合」は、江戸雑俳の  
基本資料であり、絶対に残して置かなけれ  
ばならないものです。そして、これを出来  
るのは、今の処、小生だけです。  
ですから小生には、これを完全な形で残

一路集「重い」……………	糞谷和郎選 ……(70)
「とにかく」……………	工藤千代子選 ……(71)
初歩教室「ほっこり」……………	高瀬霜石 ……(72)
川柳塔鑑賞……………	吉村久仁雄 ……(74)
水煙抄鑑賞……………	永見心咲 ……(76)
■追悼文(山口弘委智さんを偲んで)……………	伊達郁夫 ……(77)
せんりゅう飛行船 <sup>㊤</sup> ……………	新家完司 ……(78)
■エッセー(二上山)……………	山下じゅん子 ……(79)
第十回 春の川柳塔まつり誌上大会……………	大西泰世 ……(80)
インスピレーション・ナビ 印象吟……………	……………(102)
各地柳壇(佳句地十選/片山かずお・緒方美津子)……………	……………(104)
五月各地句会案内……………	……………(116)
柳界展望……………	……………(118)
■編集後記(ひとこと/金子美千代)……………	朱夏・道夫 ……(120)



座右の句

住む街の一隅照らす五七五

(北野 哲男)

私の句

一本の桜を植えた終の家

中山 照美

して置く責任があるのです。本来ならば、学者の仕事ですが、学者は動いてくれません。個人の川柳愛好者はもとより、大学の文学部や図書館で架蔵して貰わなければならない学術資料です。

また、現代川柳作家にも、一度は目を通して貰いたい文芸資料であります。サラリーマン川柳も結構、しかし時事吟はすぐ消え去る運命にあります。それでもいいと言われるかも知れませんが、折角作句するので、将来に残る作品を産んで貰いたいです。

今のところ「川柳評前句付万句合」を残したいと必死になっているのは、小生のみですが、現状の資金不足は如何ともし難く、ご理解ある方々のご支援を仰がざるを得ない状況です。是非、インターネットを開いて載いて、REDFYFORを覗いて戴きたいと思えます。そして、なにがしかのご支援を賜れましたら、この出版を滞りなく完成させることをお約束致します。

たかが川柳です。されど川柳です。この事業必ずや成し遂げなければ成りません。皆様がお力をお借りて。



小島蘭幸選

堺市 栗原道夫  
旅の始めの水だと思いながら飲む  
観光船降りてしばらく漂いぬ  
峠まで来て思い出す恋敵

球根をやたらたくさん持たされて  
里山の竹の疎林のいさぎよさ  
ライオンの去りゆく姿こそ永久に

三原市 笹重耕三

艶のある話に古傷が疼く  
正論を吐くと相手にしてくれぬ  
不器用に生きて遠回りが過ぎる  
はたらき蜂も仕事の鬼も居た昭和  
夕焼け小焼け空き家が目立つ夢ヶ丘  
軸足を後期に据えたのは確か

鳥取県 細田裕花

梅咲いてほっこり春の文が来た  
おひな様飾って冬にさようなら  
ワクチン3度もういいでしょうコロナ

芸風の違う二人で咲いている  
未来図に認知症など外しとく  
もう一問解けば光の春が来る

松山市 宮尾みのり

ど忘れの極致「ゴッホ」を三回目  
占いも手相も助けてはくれず  
アナログな脳で昭和が生きている  
まず今を生きねば鬼に嗤われる  
切なくて恋に恋した過去も持ち  
会いたい人はみな向う岸千の風

大阪市 谷口義

戦争反対体の中にある柱  
お答え致します八十七歳になりました  
敵もさるもの調味料も進化した  
時は流れて聴こえる方の耳でできさ  
さあ韓流でも見ようかと退院する  
病院の料理もまずはお品書

大阪市 平井美智子  
まだ恋もできませんという兎跳び  
風吹けば風に傾く春の耳朶

言えぬこと抱えマスクにこもる熱  
耳遠い友に葉書を書いている  
泣き終えた人から去ってゆくベンチ  
アブラカタブラきつと元気になつてくる

羽曳野市 吉村久仁雄

平和への意志を固めている無口  
背伸びして明るく明日を垣間見る  
追いつけぬ夢だがシッポ放さない  
正直に生きて息切れひどくなる  
掘り出しもの同士の二人仲がいい  
節約に励み夫婦の募金額

藤井寺市 太田扶美代

無口な人へ任せきつて余命表  
わたくしを独りぼっちにしない窓  
脇役に見せて主役も務めます  
老いてゆく手順の中にわらべ唄  
余生楽しくわたしも知恵を絞らねば  
コロナ蔓延悲しみは続く

尼崎市 山田耕治

ひとり住む父喋らせに来たらしい  
りん鳴らしみかんを一つもらったよ  
八十の恋は看護師さんにする

冬の夕陽施設の姉も見てるだろ  
皆出席6B二本いただいた  
子の巣立ち蒲団袋の宛名書く

犬山市 金子美千代

熱量が段々減っていく籠もり  
生き方のお手本高齢化団地  
無人駅になってやさしくないホーム  
戦争など信じられない路の臺  
人間の業の深さよ独裁者  
クロツカスぱつと平和を祈ります

阿南市 小畑定弘

あの世へは誰も一人でゆくのです  
今年また見向きもされず散る桜  
ペン一本持つと強気なボクになる  
冬日向茶呑みといえどこれも恋  
レンジには昨日の爛が鎮座する  
古時計鳴った気がする仏間から

今治市 永井松柏

菜の花の海を駆け抜ける750  
自画自賛も提灯持ちもまっぴらだ  
匿名の声に鋭い棘がある  
ライバルの背が少しずつ遠ざかる  
サヨナラを言うためだけの墨をする  
世に媚びて蜜柑は甘くなるばかり

枚方市 栃尾 奏一子

風翠ワタシ補助輪外される  
弟は抱きしめられて撫でられて  
母の膝生まれ順には逆らえず  
母さんにワタシ写っているのかな  
弟は上手に白旗をあげる  
降参をしたら頑張りなさいって

大阪市 小野 雅美

いい夢を見ようシートに香り足す  
いい出会いありそう春の服下ろす  
昨日より三割増しにする笑顔  
華やかな過去に縋って生きている  
誰もいない信号待ちにスクワット  
凶器にもできず包丁また仕舞う

鳥取市 岸 本 宏 章

ウクライナ思えば胸が張り裂ける  
プーチンの狂気の沙汰へ厳罰を  
言い訳の上手な人だ信じない  
たまに来るバスの時刻は忘れない  
重い物持つなど腰が指図する  
将棋指す感覚で見るカーリング

越谷市 久保田 千代

序破急があつてこの世の旅の中  
越谷の川柳部屋も落ち着いて  
覚悟決め老々介護の生活へ

ちよつといい話に混ぜた軽い嘘  
遠い日の夕焼け母の声がする  
飾り物外して春の風に乗る

西予市 西田 美恵子

幸せだったと気付いた時の不仕合せ  
今朝の鏡にうっかり置いて来た素颜  
忘れない噂を風が連れて来る  
本を読む心の毒が抜けるまで  
最終話雨がゆつくり降ってくる  
黒塗りのページは風が吹いていた

西予市 黒田 茂代

五黄の寅何かいい事あるかしら  
巣ごもりが続いて視野が狭くなる  
炬燵の中に潜り込んでた探し物  
玄関に椿 御不浄沈丁花  
今夜は天ぷら戴いた露のとう  
コロナ禍の騒ぎは知らぬ山桜

大阪市 高杉 力

雑踏に浮かべる空っぽの心  
頷いているが納得していない  
乱れない行進こわいなと思う  
内角を花束などで攻めて来る  
若いつていいな部室の自由帳  
これからのことを話そう二重虹



今年こそきつと瘦せるとまた誓う  
尼崎市 羽 奈 和 子

キエフから避難のバスで手を振る子

このタコはモーリタニアで生きていた

何だろうじいっと見たらカメラの目

踊れないけどバレエシューズは持つている

玄関に孫が集めた蟬のカラ

三原市 鴨 田 昭 紀

懇々と黙した父に叱られる

蹟いて転んで強くなる踵

あの頃ははつきり見えた未来像

合理化を進める使い捨て文化

嫌われぬようオンオフを使い分け

血圧にスロウライフを処方する

神戸市 松 倉 正 美

ほろ苦い思い出残る義理のチョコ

雑壇のあられをちよっと摘まみ食い

戦争をリアルタイムで観て恐怖

瘡蓋を剥がした跡に春の色

ポケットに三角折りのレジ袋

堺 市 源 田 八 千 代

人類も地球も破滅する怖さ

猫に鈴誰がつけるかブーチンに

シャツポ脱ぐ晩年までも本の虫

車社会ノンアルコール幅利かす

100円バス利用賑わう花見客

コロナ禍に懲り戦争に戸惑う余生

神戸市 斎 藤 隆 浩

マスク顔社長の機嫌読み取れず

「釣り要らん」今は言えないキャツシユレス

覆面パト気付いた時はもう遅い

寝顔にはごめんなさいが言えたのに

いい湯だなドリフもほくも若かった

LED俺の寿命と勝負する

河内長野市 中 島 一 彌

異国から介護委ねる天使たち

癌告知されて怯まず対峙する

エピソード聞いて重みを増すメダル

魑魅魍魎オリンピックの舞台裏

夜は辛い寒気に包まれたトイレ

相続の書類を持って義弟来る

大阪市 江 島 谷 勝 弘

楽しいななんでも吐ける五七五

二倍ほど年金あれば楽なのに

お隣は子どもが五人たくましい

雑音など気にしてませんマイペース

アハハハなにをやっても三流で

自治体がかジノ煽ってどうするの

神戸市 上田 和宏

妻元氣つい衝突をしてしまう

半歩出て今日の自分を立て直そ

身代わり不動今日も財布に鎮座する

怖いけどまだ返せない免許証

不器用で粘り粘って生きて来た

神戸市 奥澤 洋次郎

値上りに追い討ちかけるロシア軍

女房が上役だったらなんとする

こんなにもきれいやったの若い頃

郵便屋さんの敷居は高くなっている

三月を飾ろう私の誕生月

神戸市 輿水 弘

墓石洗う父の傷痕丹念に

やばいぞ八十路オウンゴールの酒ひかえ

長生きは国も家族もダメみたい

愚直に生き花野のかたち子に残す

終止符を打つまで花に水をやる

神戸市 近藤 勝正

柔道の精神汚す大統領

弱い物いじめしないよ黒帯は

持ち物を自慢するのは3歳児

我が家でも力で変わる座る場所

巢ごもりで隣保の悲報知らず過ぎ

神戸市 敏森 廣光

雛人形飾れば戻る乙女の日

母となった娘の二の腕の逞しさ

妻と僕葬送曲は決めている

別れの日風にブランコ揺れている

川柳が一人遊びの相手です

神戸市 富永 恭子

さあ春だ何を蒔こうか植えようか

言わずとも察してくれるありがたさ

三人の遺影に今日は桜餅

その先は言わずにおこう花言葉

もう三年まだ三年と襷掛け

神戸市 能勢 利子

シンプルな家電が好きアナログ派

あれこれと使いこなせずでもスマホ

朝一番ジャンクメールを削除する

三回目済んだ割には重い腰

ウクライナに手を差し伸べる術探そ

神戸市 山口 光久

一人ずつ欠けて寂しいクラス会

鈍行でゆっくり車窓楽しもう

感慨もひとしお孫の入社式

がみがみと怒鳴る鬼でもいて欲しい

寒空に野草が凜と咲いている

神戸市 山口美穂

いかなごは庶民の味から外された  
春眠はいいね二度寝もころよ  
お節介親切心があればこそ

電話帳亡姉の名前は消せなくて  
寅年の目標二日での挫折

神戸市 山崎武彦

原点に還ると気付く親の恩

短絡な男が吠える縄のれん

子供の日祝える平和ふと思う

大袈裟に褒めると雲に乗る男

観梅や昔の彼とすれ違う

明石市 梶谷和郎

長生きに自負の重さをもて余す

青春切符遠き原野を駈けめぐる

凡夫には続けることが策らしい

スニーカー試歩の軽さがお気に入り

銭の音聞けば五体に力湧く

芦屋市 竹山千賀子

目出度い日孫のタクトで祝歌

亡母の文字なぞり優しい手に変わる

夕映えが教えてくれた生きるとは

気晴らしに真つ赤な靴を買いました

無病息災願って社寺をはしごする

尼崎市 近兼敦子

二年間帰省に待ったかけられる  
姑の煮物を真似て食卓に  
中年になって夫はよく喋る

五歳児が先に挨拶してくれる  
好きなことできる平和な国に住む

尼崎市 永田紀恵

スベリ込みアウトが増えた先着順

ブラゴミも増えて海辺は国際化

坂道は承知ボツと一軒家

道標のない坂道もある余生

杖二本ほしい浮き世の下り坂

尼崎市 藤井宏造

心臓が七十五年止まらない

2人抜き5人抜かれたウォーキング

愛犬の柩も花で埋めつくす

束の間の自由楽しむシャボン玉

先細りしている僕の未来地図

尼崎市 藤岡りこ

外は冬ショーウィンドーは春の色

教育贈与孫がじいじを説きふせる

ワクチン三回打ったらやつと散髪に

十年毎に半分になる記憶力

報復がドラマのように続く国

尼崎市 藤田雪菜

泣きやまぬ猫に降参ドア開ける

水仙の気品に春が目覚ます

ストレッチ頑張り過ぎてリハビリへ

ゴミ出しの私とカラス顔馴染み

ことごとく愛を煮詰めてジャム作る

尼崎市 山田厚江

コロナ禍でも泊まって行けと母米寿

河津桜娘のラインから花見する

ガソリンが値上りしても我慢する

二年ぶり孫が大きくなっていい

断捨離はしないでいいと嫁が言う

加西市 山端なつみ

プーチンは晩節汚す侵略者

判官鼻肩応援しますウクライナ

人間の情スポーツの理想消す

3・11津波画像に震えた日

これが戦争ウクライナの惨状

川西市 山口不動

八十路坂今朝も「おはよう」言い合えた

スクワット椅子に手をかけ二十回

セーターも帽子手袋赤で行く

棟上げの槌打ち響く木の香り

「まん延防止」聞き飽きた聞き飽きた

三田市 足立つな子

冗舌の身の程しらず浮き沈み

バランスのとれたお二人ほればれと

小型車の器用にこなすお祖母さん

やっぱりね背中視線噂たつ

きつと来るマスクはずして花見会

三田市 稲角優子

忘れないあなたのためのこの笑顔

こんな時母はひとり泣いたのか

つらくても信じて決めた靴の向き

鎮魂と希望の桜咲きほこる

ふるさとにまだ夢がある鯉轍り

三田市 上田ひとみ

ピーナッツバターたっぷりこの至福

私にも少しだけあるルーティーン

変わらずにいてねなどとは言えませ

朝ごはんもう昼ごはん晩ごはん

出会えたことに感謝そして合掌

三田市 大西重男

洗い物するのを省く猫まんま

杖ついて歩く我が身が疎ましい

マスク顔素颜想像また楽し

オミクロン外へ出なくて腹が出た

古本を売ってガソリン代もなし

三月になつてもふるさと雪マーク  
雪の中ふるさと野菜笑顔連れ  
ほほえみの円空仏はあら削り  
長く生きしあわせ包む春の風  
つつましく三食食べる日の平和

三田市 尾崎 一子

人生の最期のピース埋まらない  
ありがと一言言つて終りたい  
人情と義理のはざまにいる迷い  
奥の間にでんと構えた父がいる  
アルバムが記憶の扉ノックする

三田市 九村 義徳

プーチンの狂気を誰か止めてくれ  
うぐいすの初鳴き近し耳そうじ  
スーパリーのチラシに春があふれてる  
早る気を抑えて暮らす老いの坂  
同級生と語る病歴似かよつて

三田市 住吉 美和子

黙食に慣れた夫は苦にならず  
胃カメラが嫌でバリウム検査する  
利き腕と違う左に打つ注射  
駅弁と酒で今宵は旅気分  
コロナ禍を充電中と見る思考

三田市 多田 雅尚

ダンボール薫るゼンマイ蔵  
ポップコーンはじける火がついた恋  
僕に加齢臭まわりの人が気をつかう  
好きな人をスキと言う怖いけれども  
今はこのままで別れは涙で飾るから

三田市 野口 真桜子

寒いのも暑いのも嫌八十路坂  
寅さんならどう暮らすのかコロナの世  
足して二で割つたけれども不満顔  
好奇心旺盛疲れなど見せず  
夕焼けへいい日だったと礼を言い

三田市 堀 正和

不自由を感じさせないアスリート  
寒い日はモールで刻む歩数計  
春遠しひと足先に花切手  
お水取りやつとダウンが脱げました  
替え玉を出さな眠れぬ独裁者

三田市 村田 博

楽しみは創作料理のデイケア  
しあわせな米寿ストレスない余生  
靴下も履かせてくれるデイケア  
ありがたい介助洗髪爪切りも  
戦争は嫌いタイムスリップする昔

高砂市 松尾 柳右子

宝塚市 丸山孔一

少し土付いた大根無人店  
年重ね四方四面に有難う  
登校の子等よこの国頼んだぞ  
選挙用ポスター済めばすぐ外せ  
若者の会話を孫が通訳し

丹波篠山市 北澤 稠 民

アルバムを開けば幼き日の私  
お日さまに今日も無事でと祈る朝  
満足と思つた時に芽が止まり  
指切りのままで約束忘れられ  
ときめいて渡る世間は風もなき

丹波篠山市 酒井 健 二

プーチンの大義に命凍りつく  
大義に酔うと命忘れる  
ベトナムの戦争ほんま暗かった  
冬は困る夏はずばらに生きられる  
昔なら声もかけられひとり旅

丹波篠山市 長谷川 善 輔

戦乱のもとはやっぱり独裁者  
欧州見れば周りが海の国の幸せ  
句作りのネタにもならず両側に猫  
やっぱりで終りそうだなタイガース  
ヨーロッパ時代錯誤の市街戦

丹波篠山市 藤井 美智子

戦争とコロナ平和の色変える  
あの人の投げる波紋が恐ろしい  
網渡りしているようなこの暮らし  
思い出が浮かび断捨離進まない  
マイナスをプラスに変えて生く八十路

西宮市 緒方 美津子

接し方変えろとライブルも変わる  
バラ五輪日本のみせた底力  
食養生みんな知ってるできぬこと  
立ち話二時間できた若さかな  
どうしても頑張つてほしウクライナ

西宮市 亀岡 哲子

庭いじり出来ないままの春が来た  
逢うという愉しみのあり春巡る  
マスクしてスペイン風邪を越えた祖母  
失敗も恥も懐かし過ぎた日の  
リハビリが過ぎて帰りはタクシーで

西宮市 西口 いわゑ

オリンピック泣いた笑った拍手した  
人生に忘れるというオアシスも  
孫からの雛のパーティー招待券  
雪が舞う愛しいひとに逢うような  
灘五郷生きる味方をしてくれる

西宮市 福島弘子

内裏難だけは飾って八十の春  
努力の跡光る笑顔のバラ五輪  
街中で着られぬ奇抜ファッションショー  
何はあれとにかくご飯食べてから  
コロナ後の話ばかりで進まない

西宮市 福田正彦

郵便の合理化維新泣いている  
極寒に罪な事するロシア軍  
言い訳を考えるひま今はない  
新曲を歌ってみたが場が白む  
予想論蔓延防止にシフトせず

南あわじ市 萩原狸月

同時刻いくさコロナとバラ五輪  
欧州の戦火飛び火の物価高  
ご意見はわかりますがと多数決  
おとなしく時短自粛の日本人  
幕引きはフェードアウトかポツクリか

奈良県 安福和夫

今世界取り戻したいヒューマニティー  
人命の尊さ忘れ愚に走る  
一線超すロシアを世界は許さない  
核保有脅しに使う地球の危機  
戦争は全人類で止めるべし

奈良県 谷川 憲

コロナ禍が国の弱点あぶりだす  
反対が普通に言える民主国  
変換キー慣れて漢字を忘れさす  
老化には負けぬ気力でスクワット  
独裁者が平和の道を踏みにじる

奈良県 中堀 優

安らぎの街の灯台駐在所  
コロナ禍の戦いに勝ちVサイン  
声かけてくれるのはもう貴女だけ  
よく来たなあ背中合わせの老夫婦  
好き嫌いナシ誰にでもグータッチ

奈良県 長谷川 崇 明

咲いて散る独り舞台の寒椿  
松明の散らす火の粉が春を呼び  
八十路きて潤う趣味というサブリ  
無位無冠しかし正直生きた自負  
断捨離と本捨て棄置く書棚

奈良県 渡辺 富子

虹色の夢をポツケにウォーキング  
反論ヘンヤーブに的を突く息子  
夜が明ける速さで哀が消えていく  
よしよしと聞いていたのが運のつき  
消えそうな愛を継ぎ足し生きのびる

奈良市 宇賀史郎

哀も悲も言葉にならぬウクライナ

停電に電池も切れた音の闇

不器用を絵に金槌を持つ夫

退院後ハザードだらけ身の廻り

実力と努力不足を不運だと

奈良市 大久保眞澄

ヒートテックはよくてババシヤツ疎まれる

大発見たれ目ちやうやんパンダの目

無事接種途中で捻挫して帰る

いびきかく自分が怖い眠れない

プーチンの頭百年ズレている

奈良市 加藤江里子

誕生日買った帽子は春の色

ひな祭り娘を持たぬ淋しさも

うまくゆかぬことばかりでも春は来る

椿の寺夕陽が沈むまで居ます

閉ざされた高き門にも春の風

奈良市 高橋敬子

並ぶ母大きさも値も驚かせ

コロナ明けの予定はちぼち組んでみる

電車に乗れば肘つきの席さがして

案内のスマホに任せ枝垂れ梅

友と会う期待で元氣保たれる

奈良市 辻内げんえい

きつとある世界大戦避ける知恵

核ボタン誰も押さぬと信じてる

憧れのスターも皆んなおじいさん

おもちゃ箱断捨離せずひ孫待つ

多数派のハズレの方にいつもいる

奈良市 米田恭昌

取り敢えず挨拶しとくマスク顔

後期高齢労働ありあつて同期会

五欲まだめらめら燃えていて米寿

八十路翁も時に夢見る母の膝

主役にはなれぬが端役にも誇り

生駒市 飛永ふりこ

バステルも春を呼び込み弾ませる

ぐずぐずと脱皮たじろぐあかんたれ

日毎です蓄の桜夢馳せる

蛋白質いやに気になる齢なり

お見舞がまさか最期になるなんて

香芝市 大内朝子

春はいい生きる希望が湧いて来る

然りげ無く下見している紙おむつ

今度こそその意欲あるうち大丈夫

向日葵の奇麗な国が今戦火

ラジオから計先生のいい話



香芝市 山下 じゅん子

声変わり孫に男の兆し見え  
ウグイスの初鳴き聞いて歩を止める

鎌倉殿歴史マンガで予習する

病んで知る家族団結ありがたさ

病院の待合室で聴くシヨパン

桜井市 安土 理恵

病食に付き合いわたしやせました

片方しかないじいちゃんのズック

悔しいが今が良妻演技じどき

泣ける話コラムに慰められた朝

二つ並んだ杖さえ威張る男もの

和歌山市 上田 紀子

春遍路御大師様に導かれ

銃声に爆音逃れ生き地獄

大願成就やつと男の顔になる

深呼吸私の覇気を入れ替える

焦らずにこの足頼りゴールまで

和歌山市 柏原 夕胡

庭掃除千円札が飛んできた

令和二年ネコという孫出来ました

素手でへび掴んだ事もありました

ボケットのガサゴソ論吉顔を出す

何もかも許して心新っぴん

和歌山市 松原 寿子

開封の指も鼓動を聴いている  
歩くのは元氣印の源だ

遠い日と呼びよせ春の野に遊ぶ

あるがまま綿毛のように生きている

ばかだなあ素直になつて筆を取る

海南市 小谷 小雪

じゃんけんも無欲でいると楽しめる

ラジオ聴き命のような毛糸編む

一本でどの模様にも編める糸

温室の中で苦さがわからない

淡色が春のパズルを埋めてゆく

橋本市 石田 隆彦

病一つ老いの道へと誘い込む

五七五文字の浅瀬で溺れてる

ふる里に育てた果樹のある名残

おつまみは自慢話のてんこ盛り

健康体だからシンプル食べて出す

京都市 清水 英旺

正気とは思えぬ戦の仕掛け人

弥生という語感にひそむあたたかみ

石投げの水紋が春を描いてる

大あくび一つ勃然と沸くやる気

1足す1が3になるのが理想的

京都市 藤井文代

断捨離をしても捨てない自尊心

此処だけは我がテリトリーだとスマホ

先送り平気だったが先が無く

耳遠くうやむやで済む夫婦間

ワクチンも百歳を目処に打つとく

長岡京市 山田葉子

つくしん坊それぞれすきま見つけたね

ピアノニッシモ春の足音響き出す

すぐにキャパオーバーとなる八十路坂

ワクチン済ませ海外の旅夢に見る

わかっている背筋伸ばせと言わないで

大阪府 米澤 倭子

心安らぐ春の彩り雛あられ

雛さまもすっかり老いて同い年

二十一世紀にこんな無法な戦争って

自国を護るウクライナ男子の勇氣

日本の若者にこんな勇氣はあるだろうか

大阪市 石田 孝純

午前五時まだ星空のウォーキング(コロナ下のウォーキング)

ウォーキング始発電車で二上山

大和三山連れはあんぱん缶珈琲

古墳巡り早春の陽を手繰りつつ

懲りもせずワクチン打ってウォーキング

大阪市 磯島 福貴子

戦争がもたらす悲劇もう沢山

コロナのバカと時折叫び鬱暗らす

新建材が火災の死者を増やしてる

湯浴みの音そつと確かめ安堵する

ポーッと無我至福の時間仕舞い風呂

大阪市 井丸 昌紀

肩幅を超えないように生きてゆく

アスファルト剥がすと見えてきた昭和

公約数見つけかねてる君と僕

おふくろの味は何より卵焼き

僕の周りは空気が薄い

大阪市 岩崎 公誠

人間の宇宙の旅はカネしだい

名水のパワースポット長い列

星つきのグルメ追いかけてまた肥えた

手間ヒマをかけた漢方じわり効き

迷うこと次々ふえて老い重ね

大阪市 岩崎 玲子

なくなつた土曜配達寂しいよ

なぜかしら時間あり過ぎつまらない

薬がわり好きな曲聴き居眠って

わたくしと泣いているのはカレンダー

久し振り針箱出して女して

大阪市 内田 志津子

山の水くみ場静かに並ぶ日本の美  
山の友遊って淋しい春がくる

厨房がキビキビ動く繁盛店

難敵は新語パソコンSNS

子の自立親の自立と心得る

大阪市 宇都 満知子

新キャベツサクツと春の弾む音

ありがとうの餅で体温があがる

誕生月律儀にDMが届く

一合炊きご仏飯用買いました

炭酸に似ているたわいない会話

大阪市 榎本 舞夢

春風と共ブーチン風が暴れ出し

パラリンピック注目の中開催だ

アスリート美事な記録次々と

久々の南座の券友と行く

好天気京都の春をちよつぱりと

大阪市 大川 桃花

金高騰亡母の指輪売ろうかな

重機見上げてオペレーターに拍手する

のんびり屋の次男が見せた気働き

久し振りの街のティッシュはぎこちない

戦禍のニュース眉間の皺が深くなる

大阪市 奥村 五月

祖父自慢した家今は人住まず  
取柄ない僕にはデカイ運がある

節分の鬼の父さん難飾る

甲子園土産は土か優勝旗

自宅勤遠くになった縄のれん

大阪市 笠嶋 恵美

好きだから酒のさかなでご飯食べ

新しい生き方しましよ鈴を振る

小さき頃の満州思い元気出す

元気出せ生駒山見る時間帯

毎日の子からの電話待つ夕べ

大阪市 川端 一步

春の陽に本を片手にうとうと

大阪城観梅のあと彬の碑

藤井五冠まだ実力はないと言う

ロシアへの怒りのはなし煮え滾る

抱っこした娘定年退職す

大阪市 古今堂 蕉子

便利グッズ娘の愛とアイディアと

使い減りしたなしみじみわが身体

目と足が我が意に背く美術展(新装中之島美術館オープン)

喋るなど監視員から叱られる

モディリアニ赤い裸婦から出る異彩

大阪市 坂 裕 之

無理せず ゆっくり行こうもう少し  
失敗を何度も重ねやつと今

愚痴やめて楽しい事を話しましょ

護るものある幸せをこれからも

毎日を楽しく過ごすようにする

大阪市 高 杉 千 歩

来るものは拒まないけどコロナいや

名優も今や補聴器コマーション

チューリップ描くと子供に還ります

ミニトマト家庭菜園思い出す

晩年は幸せという手相らし

大阪市 田 中 廣 子

雛祭りひし餅食べて皆元気

ただいまと仏壇の両親にご挨拶

旅に出る足ならしに公園へ

出来そうで出来ない事が多くなり

ステイホーム足腰すっかり弱りはて

大阪市 田 中 ゆ み 子

諦めた道が輝いて見える

美術館出てふるさとの林檎食む

オーケーとは言わず勝手にせよと言う

樗櫟ちよれきだが生きてることに感謝する

桜咲く空はウクライナへ続く

大阪市 津 村 志 華 子

平均寿命おまけをたあんと戴いた

さくらさくら九十六もまだ女

今日の家計簿外出支出ナシと書く

若竹煮わたしひとりの春の膳

懸命に生きた人生自画自讃

大阪市 寺 井 弘 子

にこにこの妻に白百合匂い立つ

なかなかの手ごわい相手釣り仲間

初恋だった体育館のかくれんぼ

残り火はすこし今も風が鳴る

モノクロのアルバムで会う亡父と亡母

大阪市 寺 本 実

切り札はポッケの穴から消えました

聞く耳は持つが優柔不断です

折り返し電話しますとそれっきり

風除けになるねあなたのたくましさ

旅に出ず預金ばかりが積み上がる

大阪市 中 井 萌

結末を先に見ている悪い癖

ペット店しっぱ振る子の目が悲し

今や我がが人生のプロデューサー

戦争を見ながら食事罪悪感

腐れ縁ふむふむこれもいいもんだ

大阪市 原田 すみ子

テリトリー守り平和に日々暮らす

梅林へ春待ち顔の人ばかり

ご近所へ元気ですよとひと回り

明日がある解決してもしなくても

治療力は気合入れてもでてこない

大阪市 平賀 国和

先輩の急逝怖いオミクロン

家籠もり積ん読崩すいい機会

フォレストの童謡聞いて気を晴らす

忘れたい事は忘れぬ物忘れ

期待する女性のパワー女性デー

大阪市 降幡 弘美

オーブンカーそういやオレは花粉症

寝ぐせナシ今日はイイコトありそうだ

ウエストがゴムかどうかで決める服

ただいまと独り暮らしの部屋に言う

サヨナラで知らぬファンともハイタッチ

大阪市 山本 加お里

嬉しいと思わず拝む癖がある

ポチポチとできる範囲で過ごしてる

お茶席でこっそり正座崩してた

祖母と姉七十回忌夢であう

ありがとうすみませんねにある重み

大阪市 横山 里子

生きてるとLINEのハート発信中

ストレッチ効果足の爪が切れる

外出時予備のマスクは必需品

いやな顔されても現金が好き

助けられ同じ悲しみ知る人に

大阪市 若本 安代

親切もじんわり届く方がいい

困らせて構って欲しい十五歳

アルバムに陽気に笑う母がいる

ときたまに年を忘れて飛んでみる

手鏡が笑え笑えと今朝も言う

堺市 今井 万紗子

母の湯タンポそつと抱きしめ夢の中

三回目久方振りに笑えたら

孫も打った近場にするかカニ食べに

コロナ禍だろか訃報の知らせよく届く

元気な内にきつと逢えると信じてる

堺市 柿花 和夫

正論をのけものにする多数決

平和へのアピール不足被爆国

昭和史が墨絵のようにぼかされる

初めての自己主張です呱呱の声

テレビに返事ひとり蜜柑を剥きながら

堺市 齋藤 さくら

ゆつくりと茶の間でテレビ感謝する

停戦のきざし見えないウクライナ

目と耳は年相応だ喜べぬ

そのうちの約束しないオミクロン

あっさりとしてはる人だよく笑う

堺市 坂上 淳司

治五郎の教え足蹴にするプーチン

妻子あるプーチン母子を狙い撃ち

残忍なプーチン君は人の子か

残忍なプーチン憑き物は何か

措置取れて三年振りに会う桜

堺市 澤井 敏治

風だけが乗った母子の縄電車

無人駅風がもてなししてくれる

湯のたぎるほかに音なく古い二人

一滴の水を悟って生きる老い

脱皮した孫が理詰めで攻めてくる

堺市 内藤 憲彦

弘委智さんの呼名が聞けた第二ビル(2月10日大阪川柳)

オミクロン家族一丸立ち向かう

自粛の穴パットと埋める大ジョッキ

ひな祭り妻が昭和を語り出す

直球勝負ここで負けても悔いはない

池田市 太田 省三

三回目終えても春はまだ来ない

カロリーの計算楽な握り飯

朴訥の味わいがない翻訳機

未来には鍵をかけないマイルール

裏山に早蕨を採る修行僧

貝塚市 石田 ひろ子

窓越しの冬陽に春のスタンバイ

七転び八起きの果ての日向ぼこ

離人形老いの心に灯をともし

まだ生きるしつかり恥をかきながら

ひいばあちゃんと言われ心に風が吹く

河内長野市 大島 ともこ

新緑の香りに浸る午後のお茶

目覚めたのは地獄それとも天国か

今は無い家に帰ると母が泣く

遠い恋バナ母が乙女になる日暮れ

悔い残る嗚咽漏らした盗み聞き

河内長野市 梶原 弘光

水上に立ててもせんに選手責め

銀行が急に冷たくなってきた

週一度気合いを入れて風呂そうじ

胃カメラの後に豚まんかぶりつく

空っぽの心を埋めるのもこころ

河内長野市 木見谷 孝代

寒中に金魚も少し肥えたよう  
ティータムの頻度が増えるまだ自肅  
切り干しの程良い乾き春の風  
詩集読み心の鏝をちと落とす  
集まりはコロナ次第のお彼岸会

河内長野市 黒岩 靖博

五波六波衰え知らぬオミクロン  
寒暖差ついていけない歳になる  
賽銭に諭吉を入れた初詣  
わが人生総括すれば中の下  
初セリのご祝儀相場高値付く

河内長野市 辻村 ヒロ

てにをはで飾れぬ私老いてきた  
八十路過ぎぶれぬ女になる積り  
頑固さが揺るがぬ父の奥深さ  
行間に若さ覗かす好奇心  
説明書開いて見ても動かない

河内長野市 藤塚 克三

隅っこにも光を当てる思い遣り  
エゴイスト心のレンズすぐ曇る  
自肅中キラリ光るはスマホだけ  
令和でも転ばぬ杖は今だ妻  
北国は雪ゆき雪で酒浸り

河内長野市 村上 直樹

戦争はするな爺じの口から火  
蟻だつてきつと心で叫んでる  
振りかざす一票という強い武器  
妻傘寿夫婦茶碗も箸も朱に  
大器晩成胸もときめくまだ八十路

河内長野市 森田 旅人

平和へと祈りは長くなるばかり  
春よ来い国出る子らの痛ましく  
穏やかな春の日差しに思う罪  
わたくしの内なる罪をおもうとき  
難民の子らをなにわの灯が迎え

岸和田市 岩佐 ダン吉

朗朗の披講呼名が待たれるね  
保険料払いしぶとく生きている  
総裁の耳が時どき遠くなる  
ゲルニカをまたも見せ付けられている  
核までも翳し世界を敵にする

岸和田市 雪本 珠子

原点に戻ると夢が溢れてた  
穏やかに寄り添いながら老い二人  
作句にも滲みでている円熟味  
友からの便り届くとほっとする  
欲張らず無理せず生きる八十路坂

吹田市 太田 昭

自分史のドラマを少し化粧する  
はや米寿残り少ない歯を磨く  
プライドを捨て寂しい世辞を聞く  
緩み出す心のネジを締め直す  
赤茶けてきたライバルの古写真

高槻市 片山 かずお

マスクなしのお顔を思い出せません  
始発前から駅の明かりは点いている  
元気ですよと独居の家に灯が点る  
卒業入学旅立ち祝うウメサクラ  
付度なしで正論凜と立っている

高槻市 島田 千鶴子

春仕度始めましょうと窓開ける  
賞味期限気付かぬままに食べている  
今時の子化粧上手で美男美女  
笑い袋破裂涙が溢れ出る  
聞いたような声だ背中がむず痒い

高槻市 初代 正彦

目を覆うような戦禍をみる茶の間  
不器用なほくでも取り得あるもんだ  
あの角を曲ればヒント浮かぶかも  
蘇鉄に花なにかいいことある予感  
のほほんとしててもちゃんと露の臺

高槻市 富田 保子

食事中会話が止まる朝ドラよ  
ほのぼのと疎遠の人の賀状見る  
生きるとはこんなものだと独り言  
ざわざわと風が左脳の錆を消す  
自転車の前後に子供がらばつて

高槻市 松岡 篤

彼の前兆か名前や漢字出て来ない  
西暦と和暦で話しかみ合わせぬ  
解体の家の壁から子の名画  
解凍し並べた料理褒められる  
飴ちゃんが秘密の壁を溶かし出す

高槻市 安田 忠子

涙出る花粉の季節やって来た  
宍道湖へ玉造から歩く春  
宍道湖の広さにしぼし見惚れてる  
出雲路の澄んだ空気にいやされる  
春が来る孫の旅立ち涙する

豊中市 池田 純子

雲に乗り逢いに行きたい人がいる  
命日が続いて春は物思い  
春休み帰るからねと年賀状  
泣いてる子我が孫に見えウクライナ  
元気ならそれだけでいいコロナの世



豊中市 上 出 修

開幕前一人勝ちするビッグボス  
茶柱に今日の試験は受かりそう  
大人への一歩芽生える反抗期  
世の中は足し算だけで渡れない  
酒旨し口も心も軽くなる

豊中市 きとう こみつ

勇敢なジャンパーオリンピックの空を舞う  
ルーヴルでは間近ピカソの黄色い絵  
高層ビルが都会の空を狭くする  
ルーヴルだけでも値うちにあった巴里の旅  
私は普通そう思いつつ生きている

豊中市 藤 井 則 彦

皇室がトップを飾る週刊誌  
ナイターかドラマか妻とジャンケンで  
目覚ましが鳴っても起きぬまだ八十路  
一足すーが二とはならないのがこの世  
おじいさん好みのテレビ減るばかり

豊中市 松 尾 美智代

はったりを利かせて頑張ってる体  
神さまに縋る私の月参り  
友もみな悩み抱えている笑顔  
ほっこりと今年も咲いた福寿草  
幸せの黄色ラインでおすそ分け

豊中市 水野 黒 兔

取説を最後まで読む家籠り  
春だから少し笑えば消える鬱  
カーテン開け脳に朝だと言いつかす  
スマホ増え町に本屋がまた減った  
セロリ好きあのシヤキシヤキとあの香り

富田林市 中 村 恵

目覚めたら今日も朝から日曜日  
春よ春 今がわたしの花盛り  
幸不幸同じ電車に乗り合わず  
永遠の若さを願う流れ星  
たくさんの謎がある人魅力的

富田林市 山 野 寿 之

爽やかないい日囁り聞く目覚め  
友達が突然逝った虚脱感  
古傷の痛みに孫の肩が杖  
大落暉今日の私とさようなら  
症状が改善医者の方む声

寝屋川市 川 本 信 子

泣いてる子見るのは辛いウクライナ  
なまけ癖許してくれる春炬燵  
桜だけ迎えてくれる里は過疎  
ロボットはいらんがスマホ離さない  
お茶啜る相手が欲しくなる独居

寝屋川市 伊達郁夫

羽曳野市 磯本洋一

ありがとう一言だけの遺書にする

国境を流れる川が泣いている

百歳を越えたら遺書を書くつもり

教えても教えなくとも花は咲く

道草の歩幅で春に迷い込む

寝屋川市 富山ルイ子

同居中時には自分消している

時は自分の影がなくなつて

好きなこと何があつても手放さず

生き過ぎたと思う卒寿過ぎた今

日記書く平成四年同居から

寝屋川市 平松かすみ

万世一系に悩む日本国

ブーチンの心を溶かすのは誰か

グローバル時代に空襲警報が

戦争のニュース人事ではないよ

デンワならマスク無しでも小半日

寝屋川市 廣田和織

背を向けた母の涙を見てしまう

喜寿の坂もう足腰が弱音吐く

衝突を重ねてできた丸い石

何度でも仮面を変えて生き延びる

幸せは共に泣くこと笑うこと

羊羹が芋の甘さに僻んでる

マイカーがガソリン高く欠伸中

新米のお握り抱いて学登山

温暖化我が家時々空っ風

ライフライン感謝に尽きぬ言葉なし

羽曳野市 宇都宮ちづる

ベチャクチャの娘等が気になる混んだバス

ウイズコロナ春の日射しが誘う街

恋猫のデートコースか騒がしい

ホワイトデー爺の十倍返し待つ

補聴器も老眼鏡も懐かない

羽曳野市 徳山みつこ

これぞ平和だ空泳ぐ鯉のほり

論客が欲しい昨今の議事堂

停戦の声ひろがれど広がれど

反戦のこだま響かぬもどかしさ

その内にきつと分かれると空を見る

羽曳野市 藤原大子

衰えも自然に任すケセラセラ

付け替えても仮面の奥は変わらない

オミクロン私を好きにならないで

店ごとに違いまごつくセルフレジ

青春に戻り話せる友がいる

羽曳野市 三好 専平

コロナ禍で航空会社みな破産  
ミャンマーの武器は音楽みな踊れ  
虹の橋わたってみたし初音聞く  
しつかりよりゆつくりがよい年になり  
欲のない人がいたなら前に出よ

東大阪市 北村 賢子

残酷な津波あれから十一年  
ペランダに花を増やして家籠り  
マスクしてコーラス美声響かない  
現実を直視出来ないウクライナ  
地球上どこも戦火を見たくない

東大阪市 佐々木 満作

予定表診察日のみ書いてある  
夫婦喧嘩一夜明ければ晴れ渡る  
物価高それでも三食欠かせない  
風聞を気にしていたら切りが無い  
コロナ禍の不義理やむなし通夜葬儀

東大阪市 西村 哲夫

美人かと問えばまあまあ猫の事  
土砂降りをあつげらかんと駆け抜ける  
挨拶の一声真冬でも温い  
都会とや優しさ隠すビルの群れ  
惚れてると言えば惚けてると言われた

枚方市 谷 英也

梅ほころびてコロナの陰で震む雛  
八十路爺思いあれこれ日向ぼこ  
三回目三途の川がチト離れ  
コロナ様何とかしてよ八十路です  
愛してる急に言ったら大騒動

枚方市 丹後屋 肇

空襲激化生き延びてきた脚を揉む  
狭い通路巡る送迎デイケアー  
顎脱臼口腔外科へ駆ける手話  
変化する時代ざらざら手の平に  
国の死守意志の強さを見せる兵

枚方市 藤田 武人

出酒らしと思えぬ味だ妻の知恵  
何もかもお見通しです白い杖  
故郷の面影残すシヨベルカー  
凱旋を誓う寝台車の一夜  
突然に生前葬の案内が

藤井寺市 嶋谷 瑠美子

桜前線駆け足でした片想い  
ゴールまだ見えないだから歩きます  
一步二歩三歩その先まだ読めず  
探し物夢の中まで追ってくる  
許される嘘エープリルフル待つ

藤井寺市 鈴木 いさお

あたためた夢ひとつ捨てふたつ捨て  
狂いそうです逢いたくて会いたくて  
パンフ見るただそれだけのバリ・ローマ  
寝室も書斎も居間も同じ部屋  
愉快なり銚子一本追加する

藤井寺市 吉田 喜代子

五月晴れウイルス恐れ出歩かず  
春の陽に草花みんな背伸びして  
落ち込めば亡寂聴尼の目が笑う  
マスク二枚おそろおそろ体操へ  
二時間で足腰軽い帰り道

箕面市 大浦 初音

回り道寄り道人に味をつけ  
同じ事しても時間のかかる歳  
面会の帰りはなぜか気が沈む  
あふれ出すうれし涙はいいもんだ  
何かしてもらうより何が出来るか

箕面市 酒井 紀華

今日の事今日で忘れて髪洗う  
孤独死の覚悟をきめた冬の月  
寒い仏間なので長持する仏花  
想い出を酒の肴にひとり飲む  
落葉カサカサ別れた人の声がする

箕面市 出口 セツ子

友の子の訃報が去年から続く  
医者避けて自然に治らない病  
他人事でない医者行かぬ子が我家も  
一病を持って元気に永らえる  
コロナでも悔いなく今日を生き尽くす

箕面市 中山 春代

空きビンの一円玉をどうしよう  
消すなんでもつたいたくなくて笑い皺  
徒然に大正琴のわらべ歌  
リメイクの時間をくれた新コロナ  
早く来いマスクを捨てて笑える日

箕面市 広島 巴子

障子開け満開の梅香を雛に  
戦争に春の陽気も色褪せる  
人の皮被り魔王が殺戮を  
惨状に正視に耐えぬウクライナ  
青と黄で平和を願い千羽鶴

八尾市 寺川 はじむ

興味津々白紙で挑むビッグボス  
赤っ恥掻いてもあはは年の功  
爪弾きされても譲らない頑固  
さあやるぞ断捨離やるぞ明日やるぞ  
真っ先に年齢を見る事故の記事

八尾市 村上 ミツ子

ペランダのすみれにいつもいやされる

川柳をすすめてみたいブーチン氏

出直してまた出直して進めない

うつる筈ないデンワにもマスクする

追い風にすっきり油断してしまふ

島根県 伊藤 寿美

帰りなんいざ故郷に眠る場所のあり

生きのびるためなら黒も白も呑む

アリガトウ初めて貰う老母の文

分岐点だったあの日の俄雨

流れ焼香次はわたしだまた会おう

島根県 伊藤 玲峰

ウクライナルポ「狂気に怒り」「平和に感謝」

サラサラと流る高瀬の音も春告げて

仏日の墓参父母と弟偲びつつ

生姜糖を口にして和やかなお茶をいただく

言葉つて優しい葉いただいて

松江市 石橋 芳山

乱反射まぶしく春がきたらしい

一日を斜め横断して暮らす

粹がったところで靴下の穴さ

曖昧さ断ち切る極太の真っ赤

蝶番壊れとんでもなく短気

松江市 梅瀬 みちを

無駄遣い三日くらいは悔いている

今日もまた誰も電話をしてこない

一生で飲める酒量に迫つてる

駅裏のスナック旅の客で飲む

逆走を笑えぬ年になりました

松江市 藤井 寿代

何事もなかったように春が来た

太陽がほっこりハートまで温い

雪解けにやつと逢えたね墓参り

ミカン剥き夫の小言聞き流す

夜を潰す月の光を浴びながら

松江市 松本 知恵子

原発の是非が問われる春のウツ

ゆっくりと出雲札所に春風と

心経上げて世界平和を祈ります

春が来て干し大根の出来上がり

カラオケのおはこ歌えず三年目

出雲市 岸 桂子

水平線小さいことは忘れよう

時間との戦い朝の水の音

ヒントだけ与えて若い木を伸ばす

適当が好き適当がむずかしい

夫や子がいたから飛べた水たまり

岡山県 高岡茂子

あの世から夫も家族に力貸し  
すべり止め受かった知らせ茶を啜る

外出をすすめてくれる工事音

テレビのニュース戦禍恐くて見られない

「平和を願う」悲惨さを知る戦中派

岡山県 田中 恵

嫌な事忘れましようとは花便り

巢籠りにひよいと顔出す福の神

おんぶした市松人形背に残る

車のキー勝手に動く癖がある

残り物チャッカリ昼の膳に乗る

岡山県 藤澤 照代

リハビリの杖で小さい春探る

動く雲動かぬ足にエールくれ

薬にも優るナースのやさしい目

病院の廊下に棲んでいる枯れ野

医師の声うすれて麻酔きき始め

岡山市 大石 洋子

歯を抜いて春風ふうと吹きぬける

春風が手配書揺らす待合室

フェイクニュースミモザのように広がりぬ

一輪一輪梅咲きほこる大和の国

爆撃と桜開花を見る画面

岡山市 工藤 千代子

発酵中時計の針は気にしない

長雨が止まない螺子はすぐ弛む

刺すこともまだまだ出来る枯れた棘

副作用承知している涙です

次女という椅子は生涯壊さない

岡山市 丹下 凱夫

閑人に見えるでしょうが作句中

起き抜けの白湯血圧にいらしい

梅椿春を確かめつつ散歩

アンパンマンもバイキンマンも人気者

プーチンを袋叩きにしてしまえ

岡山市 永見 心咲

風さやか寛解の友連れ出して

看護師はきつと天職なのと友

復帰するつもり椅子はまだ温い

寂聴を謙い寂聴に傾倒

娘をひとり生して前向くひとり生く

岡山市 前田 恵美子

コロナ下にたくあん自慢できもせず

主治医に齢を聞いて安心まだ来れる

成る様に成ると悩みよ「さようなら」

一人のエゴが多く人の夢奪う

戦争に勝ち負けはなし「やめようよ」

笠岡市 藤井智史

対岸に住みよい春が待っている  
テクニカルノックアウトの愛でした  
あと少しというところで春は去る  
会計は俺が払う 言うてみたい  
投句料 Pay Pay 払いする未来

広島市 岸本清

入試の日待ってたように雪が降る  
プーチンもコロナも情け容赦なし  
本心はピンチの時によく分かる  
樹木葬いいね桜に囲まれて  
人命を軽くあしらう独裁者

竹原市 岩本笑子

はかなさは雪の足音だと思ふ  
いちご狩りうーんとしか出てこない  
また二つ薬が増えた医者がよい  
待合室隣も薬増えたらし  
いい夫婦あなたのすぐそばに

岩国市 上村夢香

反省の文字がなかなか消せなくて  
生涯の目標漢字博士です  
卒業はまだまだ先になるバイト  
若人のポスト争い期待する  
ユーチューブ歎異抄だけ追い続け

防府市 坂本加代

新鮮な空気が欲しい家を出る  
マンネリかスランプなのか十年目  
古巣には帰りたくない人もいる  
更新に予習している免許証  
老眼にメガネ重ねて文庫本

鳥取県 門村幸子

転んだらアカンアカンと雪を踏む  
青空に触発されて窓磨く  
ホットコーヒーこのひとときが捨て難い  
お目当てよ早く来い来い回る寿司  
「メンドクサイ」弱気の虫を押さえ込む

鳥取県 斉尾くにこ

春の雪わが家の和カフェ開店中  
凹むことたびたびあれど一過性  
暇そうなポストと空の話など  
左側だけを見ていた鯛の顔  
いないけど似た人はいるマリアさま

鳥取県 竹信照彦

国連も無力プーチン止められず  
プーチンのロシア国民大迷惑  
終活に目処付けるのがガン告知  
ガン告知され無然たる吾が友よ  
ガン告知知らぬ人には元気マン

鳥取県 本庄 ひろし

お祝いだ開封を待つ大吟醸  
若作り隠しようない腹回り  
限定に弱い貴方は良い人ネ

いい匂いやつぱりそうだあの人だ  
呼んでいる世界の夜明けコロナ明け

鳥取県 山下 節子

ひっそりと一人の夕餉外は雪  
松葉蟹半端値段じゃ食べれない

半端ではできぬ気合で保証人  
のんびりと春陽を浴びて縁でお茶  
その話もうやむやになつてゐる

鳥取市 池澤 大鯨

爪を研ぐただしふだんは隠してる  
鋭い妻だ隠しごとなどできはせぬ  
頼みの綱面倒だから切っちゃまい  
あやつり人形黒幕の黒幕は誰  
地曳綱綱引く速度調節す

鳥取市 奥田 由美

孤独死の切り抜きがある夫手帳  
鎮守さまに今も変わらぬ敷袴  
看護師も癒し求めて猫カフェ  
年金より多い五歳の預金額  
ちゃらんぼらんも教える孫育て

鳥取市 加藤 茶人

苦にならぬなければないで済むスマホ  
横並び右向け右でする値上げ  
通販が急かす三十分の謎  
ドラマ程上手く行かない雨宿り  
昭和には生きづらい平成令和

鳥取市 岸本 孝子

朝一粒の薬忘れて夜に飲む  
掃除機は三日に一度かけてます  
叙情歌がころほっこりさせてくれ  
やる気出す好きな演歌を聞きながら  
紅梅が雪模様みて思案中

鳥取市 倉益 一瑤

三日程時計を外し浮遊する  
ふるりの景色が褪せている寒さ  
平均のハードル高くして疲れ  
句読点打って頂上だとしよう  
自分史へ転んだ事は削除する

鳥取市 田賀 八千代

キャンプ場ここはでっかい子供部屋  
二十歳の私今の私をどう思う  
除雪機に手を合わせたい今日の雪  
おひな様飾り少女に戻ります  
弱点も見せて人間らしく住む



鳥取市 棚田 大

豪雪もたるむ心を引き締める

何ごともうやむやにしてすましてる

のんびりにこだわり過ぎてくらくらに

いはる奴にらみつけたら逃げちゃった

のんびりと過ごした時代なつかしや

鳥取市 谷口 回春子

人間を裏切るものは人間だ

里山の絆深める除雪隊

恨むより力のなさに腹立てる

野次馬がテレビの前を占拠する

愚かさに気づかぬボスに明日はない

鳥取市 永原 昌鼓

もう来ない今日という日を生きている

閉じる店開く店あり世の流れ

何よりの葉笑顔はいいもんだ

三回のワクチン無事に通過する

カサツカサツと雪どけの音春の音

鳥取市 中村 金祥

きつちりと目覚まし時計キジが鳴く

猫の声僕はあんなに叫ばない

令和の世コロナ戦争物価高

被災地の声なき声が神を呼ぶ

医者通い待つのは得意老夫婦

鳥取市 福西 茶子

巻織も煮ところがしも<sup>⑧</sup>出汁

小銭預金手数料まで支払って

家族葬せめて煙よ賑やか

箸を持つ仕草に母のしつけ糸

プーチンはひとつ ウクライナの命

鳥取市 前田 楓花

輪切りミカン吊るすと鳥の遊園地

逆剥けが出来ると母を思い出す

フライパン持つと今夜も料理長

歩いたら百まで生きてみたいもの

フットワークの良さが私の取り柄です

鳥取市 山下 凱柳

コロナ禍で働き方の意義問われ

細菌の次は戦争世界危機

ウクライナコロナのニュース隅にやる

話の裏聞けば聞く程腹がたつ

美辞麗句の言葉の裏に潜む罠

鳥取市 吉田 孔美子

灯のない厨房蠅取りぶら下がる

意外だった銭離れ悪くなるとは

入所した姉にも様と幸便で

父母よ盆にゆつくり逢いましょう

西瓜を守り老人パワー見せてやる

鳥取市 吉田 弘子

米子市 池田 美穂

果てるまで見失いたくない自分

夫の椅子まだ正面に一人膳

長生きの良し悪し多過ぎる別れ

電話ベル慌てるな言う人もなく

雑草を野草と言うは都会的

倉吉市 大羽 雄大

この頃の妻とのハグはグータッチ

好きなこと言わせてくれる運転中

家一步出てからしゃんと目が覚める

スポ教に行く寅年の第一歩

褒めすぎて軽く見られる褒める人

倉吉市 牧野 芳光

蕾の中で見えないけれど声がする

新発見探して歩く春の庭

冬に咲く花の心がわからぬ

同じ空の下で戦や日向ほこ

鈍色に拍車をかけるウクライナ

境港市 藤原 久直

若さの秘訣はやっぱり身だしなみ

一步引く心は何時も持ち歩く

身の丈に合った暮らしが似合う僕

足の爪全部切るのも一仕事

隠居部屋西日差し込む四畳半

現役の友との違い天と地と

浦島太郎になった自分かあれやこれ

暴露本出してみようかあれやこれ

子だくさん二軒も建つて過疎はずむ

武器作る限り戦争無くならぬ

米子市 伊塚 美枝子

風花が匂心ゆらし舞っている

白鳥の旅立ち春はすぐそこに

久々の歯医者通いで肩がこり

覚えたと思う側から物忘れ

現行犯ヒヨドリ野菜食べている

米子市 後藤 宏之

引越しは紙一枚でサラリーマン

井勘定直せと言われても

噛むほどに味わいのある男です

ファミレス・コンビニ対応みなコピー

かき分ける髪も少なくなりました

米子市 後藤 美恵子

ご先祖と会話しながら墓誌磨く

クラス会校歌に春が甦る

静けさは蟹食べ終わるまでだった

破れても子に振っている応援旗

浜の松に拉致を見たかと聞き糺す

米子市 竹村紀の治

目覚ましが不粹に起こす朝の床

炊き立ての新米なんにも要りません

欠かせない陽気の素を夜二合

AIにぶち壊される好奇心

祝い歌ひとりで唄う誕生日

米子市 中原章子

難しいことは苦手な脳になる

日脚伸び寂しさ少し軽くなる

高齢者だんだん肩身せまくなる

片方の言い分だけは信じない

健康で長生きをする野心もつ

米子市 成田雨奇

断捨離を始め古いへとまつしぐら

パソコンをやめて漢字がわからない

約束を守らぬやつがおもしろい

遅くなりごめんなさいとまた書いた

いつ死ぬと誰とも決めたわけじゃない

米子市 野川宣子

朝食を抜いておやつはてんこ盛り

値上がりにも暮らし見直すいいチャンス

野菜高庭をつぶして自衛策

我が家でも黙食デイスタンス守り

負けて勝つそれが一番難しい

土佐清水市 辻内次根

廃村の画像に花が咲いている

電子決済には感覚が鈍い

晴天も雨天も得をした気分

経っていく速さにしがみ付いている

本当にそうかと我に問うてみる

東かがわ市 川崎ひかり

愛の字が溢れています母の辞書

生命線今日も可もなく不可もなく

無人駅赤字路線の一両車

切り取り線辺りに後期高齢者

沿線で手を振る子等がいた昭和

松山市 大内せつ子

白黒をつけるとわたし見当たらぬ

シンプルな葬儀に鯨幕が揺れる

ネジ山に迷い残したあの別れ

抱き人形今もあなたがいるような

無心で渡ろう静寂の吊り橋

松山市 栗田忠士

ふるさとの歌が聞こえる沈下橋

いちごパフェ少女の笑い声がする

豆撒きの鬼の涙を見てしまう

飲み放題そんなに飲める歳でない

昭和人間時代遅れと言われても

松山市 古手川 光

コロナから画面紙面はウクライナ  
殺し合うヒト科嘯っている野獸

歳重ね波風立てぬように生き

卒業記念に植えた桜に会いに行く  
ハナはな花笑顔を見せてくれる春

松山市 柳田 かおる

非日常なぜか違和感ないこわさ

石からのヒント多くを語らない

ノーマイクなんだか本音だせません

ごくごくと水を飲む音生きる音

丁度いい賞味期限の過ぎたころ

北九州市 小松紀子

戦争だなんて心が痛すぎる

バス停花壇自分のためと人のため

浄土への旅プラン練るうきうきと

心つくし逢いに行こうお姉がいる

健康器具二つ三つおくら入り

唐津市 坂本蜂朗

晩成と信じて後期高齢者

幼馴染み皆先に逝く風車

家の中次第に手摺り増えていく

震える字歪む切手で元気です

年金と薬と妻に生かされる

唐津市 山口高明

期待した首相空振りばかりされ  
健啖を見守る母の優しい目

五階から窓をのぞかぬ恐怖症

PKO北のやんちゃに手を焼かれ

参観日衣装比べの日でもある

熊本市 杉野羅天

冬枯野やはり淋しいもんです

冬花の咲かぬ言い訳など一つ

験担ぎ鬼門外して座る位置

オミクロン千里を走る移りよう

南国で合掌 雪国の友へ

札幌市 小澤 淳

母と子の必死の逃避希望あれ

世界の試練コロナ禍にウクライナ

初仕事4日整形外科にいく

ゆっくりと満ち逃げ足早い波よ

開拓の裔に生まれてしぶといぞ

男鹿市 伊藤 のぶよし

哀しい性雪が消えなきや春じゃない

三度目のワクチン肩に効いてきた

楽しみは雉の声聞く散歩道

話せるうち昔語りをしておくか

親の真似ヤッパリして老い支度

弘前市 稲見則彦

アナログの楽しさ知らぬデジタル派

老いても子は従えと言う父でした

仏壇のきつとどこかに鍵がある

家計簿に残されている不明金

老人と雪そんなこんなで春となる

塩竈市 木田比呂朗

花金を思い出させる春の宵

不確かな明日へ期待する湯舟

申告のご褒美なのか還付金

自粛の延長に愚痴もエンドレス

バーチャルに非ずプーチンの蛮行

朝霞市 前田洋子

優雅なサギ捕食に苦勞してなされる

人間じゃないアスリートへの褒め言葉

目の手術今度は友にアドバイス

相談のできる人居て高枕

春うふふ予定ないのに靴を買う

東京都 川本真理子

上手くなる水に風にと流すこと

少しだけ勝手を言える歳になる

三十年着ているんだとお気に入りに

全力で疾走 少し風を切る

三叉路のお地藏様は聞き上手

八王子市 川名洋子

降りる時スマホしまつてカッブルに

収束を待つ首日ごと長くなる

個人の感想ですと小さい文字

春一番ペダルを踏んでやって来た

春の声聞きたくなくて花の中

横浜市 川島良子

納車したナンバー亡夫の誕生日

人想うところ大事に生きようね

障子張りも加える三月の暦

児の命戦争許してはならぬ

銀色の涙 金色の笑顔

横浜市 菊地政勝

病院を梯子しながら春迎え

真つ直ぐな姿勢で老いを見せられぬ

巻き戻しできぬ自分史悔い残る

この人と添って良かったかも知れぬ

終焉の科白は未だ考えず

可見市 板山まみ子

六歳の記憶に残る焼夷弾

手を引けばロシアのカニも買いましよう

雑草も暖かい日が好きらしい

その日まで楽しく暮らし食べて寝る

主婦となり食事当番五万回

愛知県 早川 遯行

気は確かかウラジミル・プーチン  
プーチンの狂気を誰も止められぬ  
権力の下で正義は歪められ

ウクライナ頑張れゼレンスキー頑張れ  
世界中を敵に回して得るものは

名古屋山本三樹夫

朝がゆに梅干し添えた二日酔い  
生を受けいつか看取りの船に乗る  
年金を下げられ明日が暗くなる

家籠り一人カラオケ歌いきり  
SNS人の尊厳奪う危機

大山市 関本 かつ子

冷蔵庫残り野菜で鍋料理  
ウォーキング後のランチも久し振り  
身支度の時間が段段長くなる

三度目もファイザー何となく安堵  
箸止めて見ているだけのウクライナ

富山市 島 ひかる

認知症の夫米寿とダイヤ婚  
要介護一でこれからだと思ふ

認知症と家族の会の月刊誌  
認知症へばくればくれを繰り返す

四十周年家族の会へ仲間入り

(前月分) 尼崎市 藤岡 りこ

こりこりとほやいた夜は眠れない  
母は過去を娘らは未来を見据えてる  
描き直せば直すほど眉太くなる

スッピン慣れ帽子と眼鏡マスクつけ  
子の笑顔見ると心が晴れ晴れと

## 第2回 草原賞のご案内

募集内容 未発表作品(雑詠) 3句

選者 北村 幸子  
新家 完司  
平井美智子  
森 茂俊  
森田 律子

募集締切 5月31日(火) 当日消印有効

投句方法 A4サイズ用紙または便箋など1枚の用紙に作  
品3句と〒・住所・氏名・ふりがな・電話番号  
を記入。

投句先 〒606-8306  
京都市左京区吉田中阿達町 18 シオン6

「草原賞」事務局 中野 六助 あて

投句料 1,000円(現金または小為替・切手不可)  
発表表 「川柳 草原」7月号

問合せ先 中野六助 (TEL) 090-7107-22006  
主 催 川柳グループ草原

# 川柳塔の

## 川柳讃歌

207

上方芸評論家 木津川 計

シヨックです夫婦で来いと医者が言つ

梅 瀬 みちを

これはシヨックです。もし私が「夫婦で来い」と医者に言われたら、ふたりに立ち向かうべき病状と察します。私は毎朝、新聞二紙を読みます。必ず目を通すのは計報欄です。気になるのはいくつで逝かれたのか、それを知りたいのです。この頃、私より年下の終末を知るほどに迫いつめられているのがわかります。残り少ない余命を、余つた命、余計な命、とは思いたくありません。みちをさん、ご夫婦共々いつまでもどうかお元気です。

たかが百年だから命が愛おしい

吉 村 久仁雄

人生わずか百年なのです。漢文を私は高校二年のとき初めて教わつた。教室へ入つてこられた先生は黒板に「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」と書かれた。冗談ではない、少年老い易くとは何を言うか、

私はこれから成人になるというのに、と腹立たしかったが、今にしてこの戒めの真実を知るので。だから、わずかな余命を大切に生きて全うしたい。久仁雄さん、人生は五百年もなく、たかが百年です。大事に生きましよう。

転ぶはずなのに転ぶ歳になる

牧 野 芳 光

高齢者の多くが誤嚥性肺炎を患い、転倒して怪我をする。私は、自転車に乗つてもよろよる運転になるから、やめた。三つ年下の妻が日曜日、近くの特定郵便局の前ではたつと大きな音を立てて転倒した。たまたま出動していた局長さんに聞こえ、びつくりしてとび出してきてくれた。幸い何ごともなく、申し訳ないことだった。転ぶはずなのに転ぶ歳になったのだ。芳光さん、私はステッキをつけています。ぜひ貴方もとお薦めします。

生きている元気でですよ震えた字

藤 田 武 人

ある日、私の尊敬する詩人・杉山平一先生が葉書を寄こして下さつた。見れば文字の列が斜めに流れているのだ。うーん、だいぶお歳をとられたなあ、胸痛む思いだった。その私がこの頃、真つすぐ書けているかどうか、ときに確かめるのである。インターネットと無縁だったから、いまもすべて手書きである。

すると、武人さんのいう「震えた字」になつていないかと見直すが、まだ大丈夫だ。武人さん、お互いがんばりましよう。

腰が痛くて庭の世話までできません

安 土 理 恵

ところが理恵さんは手が震えるのではない。腰が痛いというのだ。川柳塔の同人のみなさん弱めた足腰で高い川柳塔を支えているのだ。恐らくこの状態は全国の結社、柳誌の現状だろう。いまに始まつたことではない。この国の川柳界は高齢者の力で維持されている。「この味がいいね」と君が言つたから、七月六日はサラタ記念日」と俵万智が詠んで彼女はスターダムに乗り、短歌熱が高まつた。理恵さん、腰の痛みを治し、高齢の俵万智に。忘れてたことさえ忘れ老いてゆく

太 田 昭

人間の頭は忘れるようにできている。もし、五日も十日も前のことをつぶさに覚えていたらパンクしてしまう。まして何年も以前は雲霞である。それでいい。人間は老化することをお忘れたらこれほどの幸せは、ない。故知らず体がいうことをきかない。そうなることを忘れておいて。昭さん、美しい老後を送つておいでです。川柳塔は忘れないうでください。

# 白選集

小島蘭幸

姉ちゃんのピアノで踊る日は来るか  
卒園式の涙を忘れないように  
水平線に母 地平線には父がいる  
鏡の中にいるのは山頭火か僕か  
作務衣着こなして仙人にはなれぬ

北野哲男

春近し心に手籠抱いて待つ  
ダイヤ婚三度のめしは欠かせない  
注ぐ前に体の調子先ず聞かれ  
ありがたいお経文法とは無縁  
川柳に楽しむ心欠けて来た

木本朱夏

ご近所の桜わたしと同一歳  
想定外でした奥歯が抜けたこと  
島国でよかつた安心して眠る  
罰ゲームかしら何方も来てくれぬ  
行くあてのない春の日の茹で卵

新家完司

うらかな春プーチンがぶち壊す  
酒飲んでいる間も燃えるウクライナ  
墓参り母にプーチン訴える  
大きなイチゴ子供の頃はなかつたな  
短命な家系の端で八十歳

高瀬霜石

お若いと言われて右往左往する  
ホームラン肩の力の抜き加減  
犠打を打つこれも立派な貢献度  
できのいい子供は金がかからない  
絶対に返しますよという笑くぼ

竹治ちかし

コロナ禍の別れ切ない人を恋う  
想い出を迎れば亡き友過疎の里  
ウクライナを日本に重ね問う平和  
お笑いも戦も見せている茶の間  
主義主張互いに違う平和追う

津守柳伸

計算器フル回転の申告期  
成り行きは神のみぞ知る地下シェルター  
炊き出しの笑顔無限の愛こめて  
逃げ惑うた被災少女期の悪夢  
特大のイチゴ7粒出来上る



西出楓楽

三密より五密で生きることにする  
枕に頭置くと心の疵疼く  
川柳に塩対応を受けている  
古株のつまりはおじゃま虫のこと  
誰も来ぬ昨今花は切らさない

仁部四郎

昭七で 少国民の一人です  
昭七は 軍歌も少し憶えてる  
昭七で 漢字に少し小煩い  
昭七も 教育勅語忘れけり  
昭七で 賛成戦民主主義

平田実男

医者梯子して元気をうらやまれ  
政治家も詐欺師も使う二枚舌  
フルスイングした三振に悔いはない  
その人の価値引き際の良さ悪さ  
スピーチをする潤滑にワンカップ

福士慕情

長かった道程いっしゅんのドラマ  
大器晩成まだ夢を追う枯木  
訃報欄たしかあの人だと思う  
不眠症いままに目覚めぬ時がくる  
父母兄弟みんな揃っている彼の世

藤村亜成

コロナ効果か三年近く風邪引かず  
情けない目も歯も耳も修理中  
アルコール入ると少しは回る舌  
ウクライナの悲惨固唾を呑んで観る  
マイカーの未来車輪から羽に

松本文子

凍りつく朝カラスさえ鳴かぬ  
友達は無事か北海道に雪が降る  
記憶にない痣あちこちについている  
百周年なんて考えても居ない  
仏壇のローソク愚痴を聞いている

三浦強一

福祉除雪に感謝感謝の雪の朝  
雨垂れの春の音符に気も弾み  
お花見はテレビで愛でるコップ酒  
この世よりあの世に仲間増えてくる  
終活の最後付け足す安楽死

村上玄也

日の丸が予想を越えた冬五輪  
ポイコット余所に選手は熱に技  
国を跨いでアスリートの友情  
悲喜劇が選手襲った冬五輪  
長過ぎはしないか五輪セレモニー

森山盛桜

劇的に変わりませんよ一夜干し  
水桶といつもの道を踏み締める  
閃かぬままにどん詰まりが見える  
戦意喪失仰向けの油虫  
信心の姿で練香のミイラ

八木千代

ばあちゃんと言語

沙羅ちゃんのジャンプポーズでスクワット  
金太郎も負けるテレビの大相撲  
あげましょうお腰のポーチからナッツ  
オフコースの昼寝亀さん居なくても  
玉手箱たぶん煙は空の色

山本希久子

一病を手なづけ春が巡りくる  
診療予約花見の日取りどこにおく  
能力の限界やつと知る鏡  
めまいして余命数える崖つ縁  
霞たち何故かもの憂い春の椅子

板尾岳人

人妻の首は細くて桜散る  
見栄を張る男が好きなにぎりめし  
佐渡おけさケチな男と海渡る  
大根がきれいに並んでいるマナー  
かぐや姫ボタンも上手に付けました

居谷真理子

猛禽の眼で飛車がいる角がいる  
まきました五音を盤上に落とす  
赤ちゃんを抱いたら胸が涙ぐむ  
水仙の一輪ほどの酔い心地  
港まで歩けば霧になれそうだ

川上大輪

私を呼び止めるのは電子音  
三つ四つ標本木に春が来た  
桜咲く春の主役は譲らない  
掌に握り潰した痕がある  
曲げたヘソちよつと様子を見ていよう

### 麻生路郎語録

矛盾は人生の美しいブリズムだ。私は矛盾を愛し矛盾を憎む。それは憎むが故に愛するとも云へよう。

★

川柳のフラスコには多量の矛盾を抱擁する。その故に私は川柳を極度に愛するのかも知れない。

(「川柳雑誌」昭和15年6月号「窓のある風景」より)



# 『古方句集』

戸<sup>と</sup>田<sup>だ</sup>古<sup>こ</sup>方<sup>ほう</sup>

## 森の集句

今の音 あれハわたしのお賽銭  
 喜怒哀楽さてめいわくなお月さま  
 何もかも忘れて咲いている桜  
 ふんまえた石が動いたあわてよう  
 定期券会釈をすれば会釈する  
 ついてくる影であるのに追いまわし  
 石鹸のだんだん角がとれてくる  
 風車素直な廻りようをする  
 大波小波小波の中にまた小波  
 星をみてたら足もとでジャブんと音がした  
 ひと冬をポケットに穴あけたまま  
 近道かそうかといえる齢になり  
 背伸びして孫が風鈴吹いていた  
 ヘッドライトこの蛾は私かも知れず  
 大地ゲラゲラ造成地クククツク

(昭和47年5月1日 発行)

# 温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

定年後もう翻す旗がない  
 人間はすぐ分けたがる敵味方  
 イヤリング微かに揺れる無言劇  
 冬の句に風花が舞う草城碑  
 正論もよいが傷つく人がいる  
 勝つことは勝った槍傷 刀疵  
 二人目は花子 神様ありがとう  
 藁一本持つてスタートしてみよう  
 公園に志村番はもう居ない  
 丸腰が不安で鞆提げている  
 紫の雲たなびきて昭和逝く  
 昭和史の真ん中辺にある亀裂  
 モナリザに似つかぬ妻の薄笑い  
 身内だけ頼り孤独の老社長  
 口止めにもらった鮎が歯にしみる  
 時々神が宴をする火山  
 笑ってる男はいない兵馬備

# 水煙砂

## 川上大輪選

美作市 岡本余光

寝たきりはお免始めるウォーキング  
コロナ禍が転機晩学志す  
分からないことに深入りせぬ余生

無駄はせぬ残り時間はあまりない  
裏面の影も私を離さない  
お月さま地球が丸く見えますか

岐阜県 喜多村正儀

肩をもむ時はやさしい武骨な手  
不死鳥を見ごとに描いた折れた筆  
立ち位置は変えずに咲かす次の花  
この顔は今日一番の自信作  
水仙の香がなだれ込む無人駅  
訳もなく起こる老後の吹きこぼれ

大阪府 岡田恵子

雨しとどちよつとハワイへ地図旅行  
孫の弾くピアノに合わせネギきざむ  
せつかな風があとおし老いの恋

たればの話で燥ぐ春の風

泣き顔の金太郎鮎見てしまう  
AIは次の一手で匙を投げ

大阪市 阪井恵子

目の前にいよいよ虫が這い回る  
嫌なのはあの娘を庇うあなたの目  
じゃあまたね君が最後についた嘘  
安物に値打ちをつける化粧箱  
散り際の桜の中に亡母を見る  
行く末が見えるだろうか万華鏡

松山市 郷田みや

花の芽を集めて私だけの庭  
眼帯を外す直前までもしも  
なぜかしら素直になれぬ誉め言葉  
雑用に追われるなんて幸せね  
中止でも香り漂う沈丁花  
会いたいと思う間に会いたいな

貝塚市 吉道 あかね

一病を抱いて冬眠から醒める  
コンプレックス増えて私の底力  
散歩道松ぼっくりを蹴るふたり  
十人十色好きになれない色もある  
まあまあで頑張っている続いている  
不器用で弱さばかりを見せている

府中市 岸田 武

声だけは昔のままだグータツチ  
夕飯へ笑いの種を溜めてある  
凜として細面なる享保雛  
音立てて燃料代が跳ね上る

ドライブフラワーになっても薔薇はトゲがある  
病み上り太極拳の動きなり

神戸市 村松 久江

辛せと問われてはたと黙り込む  
投げ出せば心は軽くなるかしら  
声変りしたかグーグル働かぬ  
無駄話心ゆくまで出来る日は  
日常がなす術もなく通り過ぎ  
明日に向けもう一漕ぎの力溜め

山口市 中前 幸子

逃げ出せる位置でがっちり身構える  
酸欠のあなたと歩く石の森  
闇の中へ飛ばし続けるシャボン玉

カタカナの街ベテン師の眼鏡がくもる  
唐草模様の風呂敷で昭和を包む  
終点の駅これからを考える

大阪府 奥野 健一郎

煙幕を張るからちよつと見たくなる  
同情のつもりが逆にされている  
慌てない気の変るのをじつと待つ  
身の丈でよし出来ないものは出来ぬ  
素っ気なくすればするほど勘ぐられ  
末席がかもす意外な存在感

豊中市 齋藤 奈津子

健康診査経年劣化処方無し  
セルフレジお金投入急がせる  
プラゴミに軽石までも海汚染  
ワクチン接種三度済んでも抱く不安  
ラッシュアワーダウンコートが加勢する  
目覚めのニュースまだ戦争をやっている

芦屋市 荒牧 孝子

心のひだざわざわするよその言葉  
ありのまま普通に生きる難しさ  
無器用で誰か教えて生きるコツ  
心の鬼と戦う修行介護です  
夢の中母に怒られ嬉し泣き  
迎え酒遠慮しながら口つける

神戸市 米田 利恵子

年金を貯めてる人とつき合わせる  
とびきりの苺を買おう家ごもり  
粋な名の米に浮気をしています  
糖衣錠買うて来てよと甘えてる  
白ネギが売り切れになる寒戻り

神戸市 みぎわ はな

夜の道影に時どき見放され  
ガラスの靴足に合わなくなりました  
馬車になりたい庭畑のどてかぼちゃ  
光芒の一闪夢の在りどころ  
月光の輪の中金波銀波ゆれ

尼崎市 清水 久美子

冷や汗も嬉しい汗も掻く四月  
選択肢ミスに翻弄される日々  
外灯を頼りに五周走り込む  
立ち食い蕎麦を掻き込んで列車待つ  
浪費癖からパーにした貯金箱

伊丹市 岡村 風琴

琴爪が春の調べを連れて来る  
パーティーション越しの会話も飽きてくる  
黒鍵へ広げる私の明日の夢  
生きるためこころの位置を変えて生き  
当てずっぽういった答えがどんぴしゃり

三田市 生田 えい子

渡り鳥言わず語らずV飛行  
ユーモアに皮肉詰めつつ自己主張  
巣ごもりか浦島太郎いるわが家  
草を刈る冬眠へビも慌てだす  
義母が来た慌てふためく台所

三田市 木村 マユミ

水温む三回終り気がゆるむ  
しだれ梅しだれる程に美しく  
陽春も心さえぎるコロナ余波  
今だからギャングマスクも許される  
降って湧くロシア侵略赦されぬ

三田市 馬場 貴美江

雨水過ぎ春を迎えに冬將軍  
深呼吸胸一ぱいの気が入る  
初めての端午の節句待つ坊や  
三回目気分爽快微熱ある  
闇夜にあかりみえてくる三回目

三田市 森 玲子

似なくてもいいのに夫婦肩のこり  
こまったわ足が言う事効きません  
老いていく二人の元氣猫がくれ  
庭の梅今朝も挨拶対の鳥  
この冬はうなぎ登りの高熱費

生駒市 饗庭風鈴

見上げる空にカザルスの鳥の歌

空耳に母の声きく兵士たち

しゃあしゃあと一丁あがりのエゴイズム

つじつまを合わせ句点を打っている

赤いくつ履けばスキップしたくなる

和歌山市 北原昭枝

ときめきを抱いた少女の片想い

弱点をカバーしている丸い顔

好奇心持つてる友にある若さ

涙腺がゆるむピエロの無言劇

あのことは内緒にしとくおぼろ雲

和歌山市 倉橋悦子

模索するお家時間の充実さ

いつの世も女の秘める底力

葉湯にこころ沈めて今日畳む

遠巻きに見てるへボ将棋のゆくえ

芽吹く音聞いてみたくて澄ます耳

和歌山市 西川千鶴

見ぬ振りをする事日毎多くなる

酔狂と言われるような事が好き

腹の虫今日はバツハかハイドンか

主婦だってタイムカードが欲しい筈

二番目に愛していると言われても

和歌山市 まつもと もとこ

十五分進めたままの掛時計

わたしとは本能6で理性4

丁寧だ苦手な人に出す手紙

石段は登る死にたくないらしい

お手本になれない見本ならなれる

鳥取県 田中重忠

つぎつぎとわたしを去ってゆく諭吉

赤い血がまだまだ滾る五七五

鬼にも仏にもなった母だった

手を振って見送りできぬ霊柩車

夢で見る亡妻が呼ぶ声笑う声

鳥取市 吾郷天遊

甘やかし過ぎたハウスの冬苺

ベツト葬今日は学校休みます

母さんが嘆く家政婦ではないと

青春の想い出たどる相聞歌

空間の良さが設計図に描けぬ

鳥取市 大前安子

つまみ食い一つ二つと自粛する

日替わりのスリルを探す家の中

自粛中嫌なことばを生んでいく

雪眺めつついつい脳が歌いだす

母の文箱いつでも父が飛びだして

鳥取市 山野 すみれ

その場にはとどまらないで次の欲  
長い足でも無いがよく引つ掛かる  
風受けて部屋のものれんは好きに揺れ  
戦争になると神仏どこに居る  
大掃除したら出て来た年季もの

米子市 川本 美津子

夫婦仲猫がとりもつ寒い朝  
枯れ木に集う鳥もコロナの話する  
カレンダー捲って春を待っている  
ワカメ売り春の香りを連れて来る  
たんぼぼが音符の様に飛んで行く

米子市 妹能 令位子

マニフェスト反故にするのがお約束  
アルバムに恋の予感のおさげ髪  
ユーモアのわかるロボットいるかしら  
ユーモアも護身術です独り者  
とにかくも生きていればと祈った日

松江市 中筋 弘 充

舌戦を制した後の苦い酒  
汗かいた人の話はよく分る  
大臣になると出て来るスキヤンダル  
母のプライド壊さぬようにして介護  
紙おむつ捨てれば済むよお母さん

津山市 高橋 由紀女

精いっぱい生きた畑の土肥やす  
良いはなし聞いて夕飯旨くなる  
脳回路タイヤ交換して欲しい  
塩加減あとのひと振り戻せない  
もやもやを洗い流した洗濯機

瀬戸内市 宮宅 比佐恵

だっこする孫に架けたい虹の橋  
コロナ戦どこまで忍耐試される  
ぬく温のズボンはいたがどこ行こか  
病む友に笑顔で嘘をつくつらさ  
剪定も亡夫かと思う子の仕上げ

広島市 田桑 恵子

陽射し暖か眠った土をゆり起こす  
枝差しみかんメジロ啄ばむ春の庭  
ノーマスクそんな日常忘れそう  
反戦のカード持つ子も捉えられ  
平和を願ひ罪となるとは恐い国

広島市 常國 喜好

振り返り面白かったねえと母  
強がって見せる姿にくたびれる  
見る角度変えて生まれた新境地  
ご自由にどうぞと妻の目がこわい  
大切な人を力にして生きる



広島市 松尾信彦

黒白と決めぬ苦手のカテゴリー  
百葉のひとつ笑顔が処方箋  
正解は夫の好み塩加減  
里神楽父の調子は杖の先  
定位置が毎日動く黄昏期

尾道市 小川道子

喉から手が出るほどの瘦せ我慢  
瞑想で邪念雑念追っ払う  
ようこそと言つてあげたいだが然し  
夢のまた夢ゆるり風のまにまに  
噂の木根も葉もなくて育ち過ぎ

尾道市 村上和子

春の日差しへ木の芽花の芽深呼吸  
五分咲きの桜ほほ笑む散歩道  
楽しみを奪ってしまふ休肝日  
ラジオ体操怠い体へ活入れる  
後期高齢未知への挑戦状

山口市 兼崎徳子

おやすみのキスの相手は日記帳  
理想より現実主義の女性陣  
枝集め春うららかに鳩の恋  
近頃はあざとく作る自然体  
告白をきつと待つてるイヤリング

佐賀県 真島久美子

薄氷の上だと知っている逢瀬  
引き金を引いた私の自尊心  
信じたいことを増やしている仏間  
恩受けた覚えはないと鶴が言う  
触れられる場所に小さな罪を置く

宮崎県 恵利菊江

綺麗好き小言が口に付いて出る  
いたずらな風が雨戸を笑わせる  
申告へ自首するように行く男  
石仏 世の中を観て風化する  
目覚しがり起きろと騒いでる

宮崎県 黒木栄子

友人の狭間で揺れるカスミ草  
ありがとう聞こえるような義姉の墓碑  
母さんへ貫き通す辛い嘘  
風が泣く私の心知るように  
凹むこと無いよまだまだ頑張れる

沖縄県 宮すみれ

咲きほこるおしゃべりバラに嫉妬する  
バラのトゲ忘れたころにまた刺され  
ときどきに有無も言わずおせっかい  
減塩にちよつとまてよと一摘まみ  
しつくりと手織ストールあたたかい

青森県 月波 与生

豊橋市 小松 くみ子

しかめつつらのまま死ぬこたあないだろ  
会う人はみな自分より親切で  
じいさんなのに少年の夢ばかり  
例えばの話で内輪揉めになる  
お祭りが来ると居留守を使う家

弘前市 小山内 真由美

母が着たブラウスでしたこの袋  
もしかしてさよならかもと手術台  
夢うつつで手術説明聞いている  
手術後のお腹いたわるゆるいゴム  
助かった命はおまけ日々感謝

名古屋市 富田 末男

戦争に正しい理由ないのです  
涼しい顔でいつの間にやらテロリスト  
それぞれがそれぞれみんなつらい道  
道なりに少しわかった充実感  
苦手克服振り返ったらい時間

黒石市 石澤 はる子

楽しいみな目標だから汗を足す  
酔い方の違いが分かる言葉数  
アルバムに笑顔の母が残ってる  
公園のベンチ孤独を知っている  
どこまでのほどほどを知る経験者

富士見市 中島 通則

個人情報撒き散らして春の風  
厚着して防ぐ隣家の風当たり  
気がかりを簡条書きする夜の底  
三次会ようやく本音洩れてくる  
この角を曲がればきつと解脱する

黒石市 北山 まみどり

コロナより自粛太りが気にかかる  
便利さに慣れて時間を持て余す  
簡潔を言葉足らずが嫉妬する  
ゴメンネが拗れたケンカ初期化する  
男性が入っても良い美人の湯

八幡市 武田 悦寛

なごり雪やつと出口が見え隠れ  
自転車と相性のいいアスファルト  
仲裁にうぐいす餅が加勢する  
急かされて土を持ち上げる球根  
暖かさ増して濃くなる花の色

いい人のレットルはがし楽になる  
犬小屋に犬が寝ている平和な日  
お互いのキズ避け合って立ち話  
大声にやつと振り向く春の風  
遅れまい必死で動く古時計

大阪府 大浦 福子

輝いた日々に幾つか乱反射  
万華鏡十五の私そこに居る  
ラップして冷凍保存君の愛  
不器用で真つ向勝負君の愛  
プチプチでうつぶん潰しリセットす

大阪府 高木 道子

団子鼻もマスクに鎮座させといて  
黙食が下手なお方とランチする  
コロナ風に煽られている猫柳  
リーダーの気合で鶴の北帰行  
息子の髪にちらちら白い物を見る

大阪市 東 敏郎

句作りが硬い頭を揉み解す  
ラジオにも寤められて家で飲む  
金だけは「いらん」と言った事がない  
正月の遊び昭和が遠くなる  
お手本は三代前の遺言書

大阪市 今村 和男

枯れ枝と見える先にも白い花  
春の風蓄を隠すシクラメン  
何やかや畳這い出す陽の光  
ジャンケンポン花もパー出す春の風  
春風に足取り軽い影法師

大阪市 近藤 風羅

カーテンを開いて胸も開く朝  
まんぼうと生きてくことに慣れて初夏  
眠れない夜に昔を確かめる  
梅過ぎて桜も見ずに春が近く  
ちよつとだけその口癖は聞き飽きた

大阪市 森 廣子

傷ついたままで引きずる冬の影  
冬も終りの我が人生の四幕目  
慰めの瞳で見てる縫いぐるみ  
追いかけるあつけらかなの春の雲  
洗濯物に春の匂いを包み込む

堺市 古川 光雄

数えても減らない年をまた数え  
断捨離もなつかしさには負けそうだ  
年行けど丸くなるより尖り出す  
いづれいる杖を思つて今日歩く  
家のトラブルほけた亭主が種を蒔く

池田市 上山 堅坊

恋人未満爺には丁度いい位置だ  
感謝込めゴシゴシ洗う足の裏  
髭ほどに伸びてほしいな作句力  
褒められて明るい明日が弾みだす  
独り酒愛しい人の忌がめぐる

泉佐野市 檜葉良子

まあええかそれでいいのよ老いふたり  
信じれば効き目あるよなサブリ飲む

心からお詫びしますと口先で

内緒やでほんなら言うな黙つとき

大丈夫きつと出来るは他人事

泉大津市 助川和美

いまはもう錆びてしまった歩道橋

中華鍋軽快に振る父の腕

穴明きのジーンズ縫って母庭着

ワイン注ぎワイレンツェの夜よみがえる

子のリンス使つてばれる茶の間の香

交野市 山野双葉

ライバルは自分だと知る持久走

命日は今年も雪が降るらしい

花と語り鳥と歌える母でした

ステイホームだけど気になる空模様

百合咲けばおしべ取り去る詫びながら

門真市 坂本星雨

オミクロンとプーチン春を踏み躪る

プランコを揺らして春の声を聴く

春だ春楽しいことを考える

改札を抜ける少女へ風は春

喜びの春を味わう独り膳

河内長野市 坂野澄子

嘘泣きと知りつつ緩むしつけ糸

絆創膏はると弱点うぬぼれる

恋かしら今宵の月はほろ苦い

眼鏡ふく言えない愚痴を吐くように

咀嚼してみるワタクシの影法師

河内長野市 穂口正子

輝いて若さで昭和駆け抜けた

染み皺に騒いだ頃が花だった

メイク決め後ろ姿はお婆さん

代り番こ夫婦で嫌な病得る

四回目まだ有るらしいどないしよう

吹田市 西沢司郎

自分には見えぬ背中を掻く

キンと読むカネと読むかは君次第

一瞥もされずにチラシゴミ仲間

会合のたびに異質の風邪貰う

コロナ禍で足留めを食う散歩道

寝屋川市 長尾千賀

老木も今年は蓄付けました

姑の機嫌直る土筆の卵とじ

見たくない物まで見えて老眼鏡

あの子が恋し花いちもんめ友が逝く

春風と蝶と私も遠出する

神戸市 青木公輔  
出るところへ出たらその時勝負する

仙人が内緒で僕を呼ぶのです  
天から何が降ろうが我が道まっしぐら

短所より長所が多いので困る

神戸市 石川克美

戦う愚私でさえも知っている  
誰払う計り知れない代償を

この世界侵攻許容なるものが  
侵略罪裁ける人のない世界

神戸市 城戸誓子

高齡のポチの歩幅でする散歩

安心の秘薬はママの大丈夫

春風におしゃれ心が目を覚ます

ピンク色春の光にうふふふ

明石市 瀬島流れ星

一本道睡魔臉を攻めてくる

「生きてるか」大阪人のご挨拶

無理せんでいいよは急かす常套句

こわばった顔がほころぶ初呼名

芦屋市 新阜義明

病気でも入れる保険きな臭い

BIGBOS即実行の策略家

冬枯れぬ常緑樹へと一歩でも

福は内もつたいないとテールへ

尼崎市 宗和夫  
戦争にルールはないという現実

ランタンの明かりでメスを振るう医師  
奪われるのは子どもの未来人の愛

在るものではなく平和は創るもの

伊丹市 延寿庵野鶴

百態の風に耐えてる摩崖仏  
地平線うまく転がる大落暉

遠い日の押し花のぞく旅日記  
煩惱の向こう五欲が交差する

三田市 幸田厚子

手短に話して欲しいインターホン

安堵する我が子に軽い嘘をつく

急ぐのに赤信号に好かれる日

ワクチン後老いのモヤモヤ軽くなる

三田市 辻開子

なれぬ杖借りる娘の腕安定だ

ピンポンだ居留守でないが間に合わず

何の為手術したのか元気出せ

伸びすぎた庭木が空家思わせる

宝塚市 太田としお

お金では買えないものが増えてくる

健康と寿命はどうも別らしい

私自身がとっても恐い時がある

幸せは笑顔の人に味方する

丹波篠山市 河南 すみえ

達者でな互いの言葉抱いて生き

芋粥の優しい香り母想う

小銭入れ夫の形見いと嬉しい

昭和人重荷にならぬように生き

丹波篠山市 澤 良子

化粧のり上手くできれば全て好し

カタカナ語二回聞いても覚えれん

申告のデジタル化避け足運ぶ

もったいないタンスの肥やし子に譲る

西宮市 高橋 千賀子

もう少し出しておきましょおひなさま

コロナでも生きてる今が花盛り

口程に軽くならない重い腰

靴ひもをギュッと締めれば軽い足

西宮市 藤原 みよし

新芽出し垣根こしてる隣から

独り言上手に演じ独居なり

口上手いつも手玉に乗せられた

福寿草こちらを向いて咲きだした

奈良県 室田 行久

フィクサーに入れ知恵されて誤判断

民衆の怒涛の声が届かない

勝ち負けも戦争のツケ民が負う

次はうち虎視眈々と狙う国

奈良市 東 定生

身長も伸びてきそうな春日和

夕暮れにシカが出歩く過疎の村

接種日にページをめくる旅情報

マネキンの笑顔が消える百貨店

和歌山県 三枝 眞智子

遠雷の客を持てなす床の花

すみませんと言えば治まるお説教

残高が合わず結局自腹切る

ふるさとを持たぬ都会のひとりっ子

和歌山市 定松 宏枝

おかげさまお薬手帳出番なく

時々はじっくり覗くへその穴

有り難いごはんおいしくいただけ

今はまだ五感健在感謝する

和歌山市 佐藤 まき

啓蟄に菰を取られた虫哀れ

押絵雛娘の友からの贈り物

今独り祭る押絵に桃の花

容赦ないまた禿鷹の如き者

和歌山市 鍋嶋 澄子

親偲ぶ淋しい夜よ老いて尚

新芽吹き春告げうれし白い雲

うらうらと花より団子青い空

蠟梅の透ける黄色は春の夢

和歌山市 福島 一雄

頼まれりや鬼になれないお人好し

優しさと気弱い心紙一重

健康は妻の料理の腕次第

健康の文字に騙されものを買う

岩出市 村中 悦男

句読点打てば解釈楽に出来

波砕くテトラポッドにある気迫

食事終え朝寝昼寝という後期

生きているあとは気楽に一歩ずつ

鳥取県 橋谷 静江

残された日々大切に前へ進む

せつがちが邪魔して仕事はかどらぬ

人生を右往左往で生きて来た

免許返納近づき気持ち暗くなる

鳥取市 上山 一平

アカシアの花匂い立つ大砂丘

春の陽に駱駝をたずねまわり道

荒行の砂丘五月のラッキョ掘り

さくさくと朝の砂丘は気持ち良い

倉吉市 伊藤 嘉昭

傘寿だと子孫の言葉に踊らされ

春風に雪のおもりが徐徐に解け

007次の活路は露か北か

ひと仕事終えた後の妻の笑顔

倉吉市 堀 かずこ

急がずあわてず今日の日を生きてゆく

苦しんだ後にはきつとしあわせが

先は短い強い心で生きてゆく

一日中歌を聞いたら泣けてきた

倉吉市 宮田 風露

雪に耐えよきよき伸びた露の臺

春風が私の足を軽くする

磨り減った靴にさよなら告げた春

友一人増えて嬉しいバラの花

境港市 中井 虎尾

廃車して私の視野が狭くなる

自転車もダメで愛車は押し車

パッパッパ白梅笑う今日は晴れ

春だよと空舞うトンビ笛を吹く

松江市 相見 柳歩

若いから先は長いと思うなよ

シャンブーの香りよ少女からおとな

歌声で心を浄化してくれる

影にもねちゃんと使命があるんだよ

松江市 山根 邦代

口癖の痛いイタイをとなえてる

卒業の報告うれし孫の顔

古里もコロナ患者で困り声

絵手紙の友は春だと赤い色

安来市 原 德利

咲きだした花に早くも虫がつく  
水玉の転がる今日は吉とする  
空気圧確かめていく古希の坂  
脳トレに書く鬱の字と薔薇の文字

岡山市 折鶴 翔

回る寿司が好きな隣の手長猿  
人間の寝言をきくと聞く畳  
残り物をご馳走にする知恵袋  
病院でピアスが噂かき集め

尾道市 小畑 宣之

夢の中ふたび三度若き母<sup>みはは</sup>  
たびたびの失敗糧に成長し  
樹上より剪定の友「今日は」  
リハビリの友を励まし励まされ

竹原市 若年 幸子

春めいて今夜も猫のセレナーデ  
水溜り花びらはもう迷わない  
身の丈に合わせなさいと麦の伸び  
紫陽花の彩に馴染んだ浮気性

竹原市 土井 輝恵

謎一つ解けてつかえが降りて行く  
啓蟄にこも外されて樹が笑う  
スーパリーのカート押しつつ愚痴を聞く  
大国のワンマン歴史くりかえす

三原市 吉永 団風

ウインドーを飾る初夏のデイスプレイ  
生きてれば何とかなるさと論される  
自分史に書けない事が多すぎる  
膝まくらウグイス鳴いて里の春

三次市 伊藤 寿子

まだ生きてたのなんて友から来る電話  
2歳児の孫にもなぜか好かれてる  
半分の体になって過去を恋う  
命あつて良いじゃん言うは他人事

今治市 安野 かか志

ブランコが一人遊んでいる夜寒  
積年の我慢の堰が切れた妻  
まあ呑めとその日暮しがコップ酒  
日溜りの静止画像を独り占め

高知市 三谷 松太郎

切手貼る水の代わりに痛み止め  
元気かい恋病いなどしてみなよ  
置き忘れ分かっております元気です  
指相撲孫にも負けて夢の中

福岡県 本田 さくら

子を守る鳥の熾烈な奪い合い  
未だ見ぬ柳友いつか会いたいな  
氷上で踊る人たちうつとりと  
プーチンに世界中から怒りの輪



沖繩県 禱 モモト

隣席のネールアートはえっ男

三密の人込み避けて迷い神

五歳児の消するうそくは婆ちゃんの手

アスリート勝って負けても涙ハグ

石川県 堀 本のりひろ

雪化粧はしゃぎ回った幼稚園

舞い落ちる牡丹雪みて酒を爛

両肩の凝りを忘れて雪見酒

雪女一舞いすれば銀世界

静岡市 渡 辺 芳 子

老いの道ありがとっだけで生きたいな

出来ぬ事ふえて来るのは当たり前

ぬくもりのめぐみの幸はふとん中

同級生みんなの幸せ祈ります

東京都 高 岡 弥 生

ポイントが五倍になるまで待っている

お財布を持たずにスマホ決済で

終末のオシヤレで自分取り戻す

いい時代生きてきたねと子供言う

横浜市 巖 田 かず枝

朝夕の祈りの中にウクライナ

狭いけど早くおいでよ日本へ

戦争に母の泣く声西東

ワクチンの予約取れたら熱が出た

横浜市 加藤 佳子

ワクチンを打って辛夷に気付く春

ウイズコロナ終息遠い三年目

気を付けて長いトンネル歩く日日

4回目のワクチン打つ日あるらしい

大阪市 大 沢 のり子

夕焼けはきつとわたしの涙です

おかあさまお世辞はやめにしませんか

母さんの嘘も洗ってなおしとく

小雨降る時計は正午そばを打つ

大阪市 尾 崎 文 子

敬老バス貼付の写真赤い服

笑顔みてルーズな友を許しちゃう

長寿国コロナ対策人が死ぬ

お隣りは元気らしい音がする

大阪市 折 田 あきこ

春の声ふわり運んだ沈丁花

ストローを溢れる遠い日の慕情

飲みこんだ棘が時々顔を出す

羽ばたいてまずまずの福匂う小鳥

大阪市 阪 本 秀 子

ストレスにメンテナンスが欠かせない

春の陽がフットワークをより軽く

何なせる問うて問われて答えてぬ

凭れたらいつも支えてくれた父母

大阪市 田原康雄

4回転跳ぶ女子達のしたり顔  
カレンター妻の顔よりよく見てる  
玄関でマスク「よし」して出かけます  
お手上げでみなし陽性泣かされる

大阪市 中村峰子

猫のようなんびりしてもいいんだよ  
運命だ親ガチャ子ガチャ文句なし  
ほか弁をコロナの孫が待っている  
延命を願いワクチン予約する

大阪市 前川善之

戦争はどちらも勝てず負けばかり  
待ってます九十二歳旅仕度  
やって見てやれば出来ると前を向く  
やんちゃ程大人になれば良い親父

大阪市 松田聰

子供らの笑顔があつてこそ世界  
十字を切るプーチン何を祈るのか  
ミサイルがつきささり空悲します  
しばらくはウクライナから離せぬ夜

大阪市 宮本千恵子

二キロ増えフレイルからの脱却だ  
お袋と一度は呼んで息子たち  
デバ地下ですっかりコロナ忘れてる  
ヤングケアラ―支援の窓がより欲しい

池田市 倉本一弥

静かでもいいがいらつく時もある無口  
日に三度大笑いしてリラックス  
春連れて来た大きな花のワンピース  
子が自立模様替えして書齋持つ

柏原市 神崎江

ミッシヨンを終えて夜空に月明かり  
青空と咲く菜の花に手を合わせ  
ひと呼吸おいて言葉を出してみる  
こうなればオシヤレはマスクの色選び

四條畷市 西川ひろし

大国の言いなりになれ武器で言い  
春近し喜び合えぬ世界見る  
梅の木の鶯目が合い動けずに  
コロナ禍は混乱の世をひどくさせ

吹田市 岩口のぞみ

久々の礼服きつくピン持参  
無人レジ余計に視線感じます  
マッチングアプリ頼れぬ部下上司  
気づかいをしても我が家にコロナ来た

高槻市 鳥居宏

宇宙観光地球汚したままですが  
年毎にみか人も人も甘くなる  
死ぬなよが友の別れの言葉なり  
春風に母の作った雛の舞う

高槻市 三谷 白黒

家庭から外向きだした妻元氣

ネタ捜し社会を抜け五七五

孫娘十九の春に桜咲き

階段はスリッパ脱いで上ります

豊中市 松田 蟻日路

ぼつくりと逝くと言ったが迎えまだ

Eタックスに振り回されて春本番

陽を浴びてカラスも声に艶が出る

水温み金魚元氣に食が増し

豊中市 貝塚 正子

薫る風我が物にして鯉幟

また増えたサプリメントのあれやこれ

街路樹の剪定されて広い空

活動休止無口な人になる予感

寝屋川市 坂本 ミヨノ

仲良し老うるさく笑う杖つつく

白寿祝い紙おしめです爺笑う

湯船中ちぢんだ手足のびのびで

茹で卵むきながら落ちかくし食べ

羽曳野市 黒木 ひとみ

八十の我のためにも雛飾る

よちよちと歩く幼児に笑もらう

転んでも観客魅せる王者の舞

青空にひときわ映える梅の花

東大阪市

秀 爷

ヘラヘラと笑って耐えた過去の日々

なれの果て診察券の名刺入れ

地獄日や支えてくれる人のなし

働けず自宅診療一年間

八尾市 田邊 浩三

子孫曾孫三代そろったチョコレート

コロナ奴がテレビCM乗った

我が歳が信じられないボケたかな

我が穴場ついたコロナに乗つ取られ

(前月分) 山口市 兼崎 徳子

ウグイスの美声楽しい春の山

シナモンの香りで浸るノスタルジー

中の上位が今の美人顔

恋心万能薬のプースター

▼編集よりお願い▲

投句は濃い鉛筆または

ボールペンで楷書で

正確にお願いします。

西尾葉句集『水鶏笛』くいなぶえ

「北の護り」

オーロラに煉瓦の街は哀しかり

馬上より指さす夏野ソ連領

夏草を鎧いて馬上ゆたかなり

姑娘の耳輪にふれる語らいや

空襲へ刺繡の靴は抱かれたり

鞭声嘯々掖河を渡る鉄兜

野糞放るや大満洲の春の風

「最後の味方」

若う言うてくれた人を妻おぼえてい

ワイシャツを着かえることで妻ともめ

そうでしゃないかと女房逆う気

遊走腎手術（明和病院にて）

病妻と別れる握手他人めき

手術二日女は化粧するとう

手を貸せば纏足めいた試歩の妻

最後の最後の見方は妻なりき

弱味を見せるなど妻の眼が合図

流し目も上目も出来ず妻は老け

植木市妻は咲いてる方を買

老妻はゲタゲタ笑うだけのとりえ

倅せですともといじらしいことを云う

夜中まで待つて女房は叱られる

低血圧の妻の朝寝を咎めまじ

着せかけて帰りの時間きくは妻

酢昆布の匂いで妻にささやかれ

あつけない新幹線に妻不服

「男三女」

長男誕生

初産へ神棚しかと灯をともし

タテ、ヨコ、ヨコ、子供の居寝のたのもしし

内は役者が揃うています子沢山

子沢山蚊帳吊れば吊る騒ぎよう

感謝したりうるさがったり子沢山

## 英語 de Senryu ⑫

麻生路郎句集 『旅 人』

英 訳 吉村 侑久代 Kim Horne

すき焼と見えて 船頭葱をさげ

*a boatman*

*brings green onion,*

*his meal might be sukiyaki*

俺の妻にしては 少々 みすぼらし

*for myself,*

*my wife looks*

*shabby*

---

*boatman* 船頭 *bring* 物を持っていく *green onion* 葱 *meal* 食事  
*might be* 多分~だろう *look* 見える *shabby* みすぼらしい

---

～リバーウィローのため息～ ⑥ 蕪村編『俳諧玉藻集』に収録された遊女の句(3)

蕪村編『俳諧玉藻集』に纏められた遊女の句は、発句449句のうち20句あります。遊女や白拍子とともに、歴史的に重要な役を担ってきた女性も多く、源義経の想い人、静御前は白拍子としてよく知られています。白拍子は、平安末期から鎌倉時代にかけて行われた歌舞を歌い舞う女性で、遊女とも呼ばれています。遊女は安土桃山時代以降、遊郭が公許されてからは公娼・私娼を指します。『俳諧玉藻集』に登場する遊女は江戸時代、遊郭に生きた遊女です。英訳は小泉裕子氏と試みました。

男なき寢覚はこはい蚊帳哉 花崎 Hanasaki

*in mosquito net/ I awake feeling fear/ with no guy*

石竹や誰花ごまを捨たらん かう Kou

*Chinese pink flower,/ who leaves flower-shaped top/ behind?*

夕立やいとしい時と憎い時 しづか Shizuka

*a shower,/ I feel loving him/ I feel hating him*

# 誹風柳多留一二三篇研究 21

山田昭夫・小栗清吾

細井龍夫・伊吹和男

高野範雄

清 博美

160 鹿をどうくくとひくばからしさ

山田 馬鹿の語源ともいわれる有名な故事

「趙高鹿を指して馬となす」を詠んだ句。「或日趙高己の威勢の程を試みん為に、一疋の鹿を二世皇帝に献りて、馬なりと云ひければ、二世皇帝嘆じて宣ひけるは、丞相何とて誤れる、此は鹿なり、馬にあらずとて近侍の臣に向つて、馬か鹿かと問ひ玉ふに、敢て答へざる者もあり、或は馬なりとて、趙高に阿る者もあり、又は直に鹿なりと云つて争ふ者もありけり、趙高其言を聞いて、鹿なりと云ひし者を皆密に殺しければ、百官弥々怖れて、此より国の政を言ふ者なし」(「通俗漢楚軍談」

卷二)。

清 贊

秦の代に鹿のいな、くとんだ事 四四三  
故事の有るあくたい馬鹿と阿房也 五一二  
日本ハ鹿ニ鞍置馬鹿ハなし 二九一六

161 草ぞうし迄もとりやける始皇帝

山田 これもまた、秦の代の有名な焚書坑儒。「中国秦の始皇帝が前二二三―二二一年に行つた、主として儒家に対する言論統制政策。(略) 医業・ト筮・農事などの実用書以外を焼き、儒生を捕らえて、四六〇余人を咸陽で坑殺したといわれる事件」(「日国」)。だから「草双紙までも取り上げる」のは当然だった。

まくらぞうしもならぬぞと始皇いひ

しかし、枕草紙は駄目でも、どういふわけか、わが国の、  
枕草子ハかまはぬと始皇いひ 官二二八  
清 贊。

162 かたい後家なぞをとくのハ不調法

山田 志操堅固な後家は、男どもから掛けられる「謎を解くのは不調法」というのだが、本心なのかカマトトなのか、野暮で頭が固い礎稿者も「謎を解くのは不調法」。

かたい後家男をたゝてやらぬ也 一一七  
清 贊。

163 むらさきとかのこを仕切ルあげや町

山田 吉原の揚屋町は、江戸町一丁目と京町一丁目との間にある。それを江戸紫と京鹿の子というそれぞれが誇る染め物で表した謎句仕立ての句。

紫と鹿の子落合ふ中の町 二六五

清 贊。但し、「揚屋町」は「あげやまち」です。手持ちのDBは「アゲヤチヨウ」になつており、全部誤り。その後なおされているかどうか。

164 あいきやう娘そこから愛からも

山田 愛嬌たつぷりの若い娘は引く手あまた。  
愛敬のこぼれる顔へ華の露 六二15  
母じまんやれそつからもこつからも

清 賛。  
一三13

165 糸の無イ三みせんの出る宿下り

山田 奉公中の留守の間、家の者は三味線など弾かないから、糸が切れたりしている事がある。「川柳年中行事」は、「久振に出す三味線」との短註。  
宿下り三をむすんで一ツひき 一六20

清 賛。

166 四郎兵衛あたりなべかまとりちらし

山田 「江戸名所図会」「吉原町の旧地」の項の挿絵に、「大門通。昔此地に吉原町ありし頃の大門通りなりしにより、かく名づく。今は銅物屋、馬具師多く住り」とある。つまり元吉原の大門付近は、今は金物店が何軒もあるというのだ。

ただ、雨譚註に「関岡」とあり、「雨譚註万句合研究」では、  
山路〓大門の附近でしょう。関岡という能装束の店がありました。一寸オカシイですね。

宮尾〓狂言袴には鍋釜の紋を使います。とある。

関岡は四郎兵衛が居たあたり也 安四七3  
雨譚註をとるなら、宮尾先生が言われる「鍋釜の紋」であろうが、「江戸名所図会」の記事や、  
四郎兵衛が昔居た所かなものや 二四35  
昔の大門今ても如露を売り 七三31

などの句からも、これはどうも「一寸オカシイですね」。  
小栗 賛。「とりちらし」が少し気になるが、「鍋釜の紋」では遠すぎないか。

細井 山路説のようですね。  
清 賛。

167 双六を礼者おどけて一ツふり

山田 屠蘇気分 of 年始客が子供たちが双六をしているのを見て、「おどけて一ツ振り」。サイコロを振ったのだ。のどやかな正月風景を叙す佳句である。

とそきげん子のあいそうにたびへたち 一七11

清 賛。

168 ニツツふくろ四丁め迄あまり

山田 日本橋三丁目には、大きな生薬問屋が軒を並べていた。その看板として、大きな張りの子の葉袋を見先へ吊していた。  
ふくろ丁ともいひそうな三丁目 天五松2  
壱町を葉ぶくろでおつふさぎ 八40

ただ、  
四丁目もまだちらほらと句ふ也 二五26

という句があるから、四丁目にも少しはあつたようである。  
清 賛。二・三・四の語呂合わせにも触れても  
らいたい。

169 じつとして目見へハちんにほへらるゝ

山田 奉公人の御目見得。初対面だから緊張して、固くなって「じつとして」いるのを、「狎に吼えられる」。見かけない顔だし、神経質な狎だから当然なのだろう。なお、狎を飼っている奉公先は、妾宅か奥向きか。  
清 賛。

# 愛染帖

## 新家 完司選

(投句263名)

大阪市 白谷よしみ

美人です眠れば白目むきまますが

(評) 眠ると白目を剥いたり歯ざしりしたりちよつと不気味だが、普段は美人なら上等ではないか。百点満点の人間などいない。

羽曳野市 宇都宮ちづる

堂々と昭和のままで生きている

(評) 頭のとつべんから足の先まで昭和レトロそのまま。だが、恥ずべきことは何も無し。これからも終着駅までこのままである。

大山市 金子美千代

貧しかったころが一番懐かしい

(評) 継ぎ当てたお下がりの服の袖で水っ漬を拭いていたあの頃。みんな貧しかったが、遅い「朗らか貧乏」そのものだった。

松江市 相見 柳歩

絶妙のバランス空気成分表

(評) この地球上の動植物が生きてゆけるのは「空気」のおかげ。偶然に出来たとして、余りにもパーフェクトではないか？

宝塚市 岸田 万彩  
わが家にもやつとオレオレから電話

(評) メディアで報道され続けているオレオレ詐欺。遅れ馳せながら我が家にも掛かってきて、やつと世間さまの仲間入りができた。

米子市 池田 美穂

ひなまつり次女の私の離はない

(評) 長女が生まれたときに両親が揃えた雛飾りは、長女が嫁入り道具で持つて行った。次女の私のは手作りの紙のお雛様だけ……。

東大阪市 北村 賢子

マスクしてフラのレッスンああしんど

(評) しばらく自粛していたフラダンスのレッスン。やつと再開したがマスクはまだ離せない。ちよつとしんどいが肺の鍛錬にもなる。

尼崎市 山田 耕治

年金で葬式代をためてます

(評) 真面目に働いて得た老後資金の年金。遠慮なく遣つてエンジョイすればいいのに葬式代に貯めるとは、どこまでも真面目……。

西子市 黒田 茂代

CMが増えたテレビも新聞も

(評) 広告主の企業も媒体であるメディアも「収益」を考えるとCMを増やしたい。かくて、執拗で腹が立つほどのCM波状攻撃。

高砂市 松尾柳右子

停戦を願う続経が長くなる

(評) 人間の愚かさの極みが話し合いを放

棄した拳句の殺し合い。「止めろ」の声が届かないなら、あとは神仏に縋るのみか……。

鳥取県 門村 幸子  
ブーチンのバカバカバッカ バッカバカ

川西市 山口 不動

ブーチンが鬼に見えるねウクライナ

豊中市 池田 純子  
ブーチンのプロバガンダにみる狂気

堺市 坂上 淳司

避難回路も撃つブーチンの残虐さ

大坂府 大浦 福子  
ブーチンが恐怖のジョーカー切りまくる

堺市 内藤 憲彦

世紀の大罪ブーチンの戦争

府中市 岸田 武  
ブーチンを炬燵の中で処刑する

大阪市 宇都満知子

独裁が人の命をも呑み込む

米子市 伊塚美枝子  
テレビ中継戦争までも映し出す

朝霞市 前田 洋子

映像はドラマではない戦争だ

横浜市 加藤 佳子  
ギャラリーが味方になるウクライナ

青森県 月波 与生  
戦争のあとサザエさんみる夕餉

宝塚市 太田としお  
国連の未熟さを知る昨日今日



大阪市 大沢のり子  
毛糸玉手編みのベスト二年越し

東京都 川本真理子  
春物を重ね重ねて瘦せ我慢

防府市 坂本 加代  
糞虫の布団の中があつたかい

松山市 大内せつ子  
アドリブを混ぜて根雪が溶けてゆく

弘前市 小山内真由美  
お日さまがとかす雪から見える春

三田市 北野 哲男  
免許証返納六十六年目

和歌山市 まつもともとこ  
適量が五勺になって酒の味

弘前市 高瀬 霜石  
理性6本能4がマイベスト

ガラケーとほくとどつちが先に死ぬ  
若者のヤバイとおっさんのヤバイ

大阪市 高杉 千歩  
三狼になって久しい車椅子

福井市 伊藤 良一  
施設消灯燈下管制思ひ出す

充電をします百均大人買い  
いろいろな泳ぎ方して定年日

桜井市 安土 理恵  
運命と思わな添うていかれへん

頼むからはいて下さい紙パンツ

男鹿市 伊藤のぶよし  
蹠いた縁で今では凭れ合い

高槻市 島田千鶴子  
マンネリの朝食ですが元気です

河内長野市 村上 直樹  
断捨離もよいがすつからかんも嫌

米子市 妹能令位子  
なぜ切るの猫の証の猫の爪

熊本市 杉野 羅天  
ゴム銃で撃つような距離鴨昼寝

大阪市 古今堂蕉子  
八十の元気の下の薄氷

声出して笑った良い日だった今日  
喜屋川市 廣田 和織

大型のゴミは素通りするルンパ  
昨日まで脳を刻んだ顔のシワ

佐賀県 真島久美子  
躊躇せず大トロというお友だち

嘘のない笑顔をロボットがくれた  
笠岡市 藤井 智史

よく飯を食う生ゴミなワタシです  
時代に抗い現金にて払う

鳥取県 斉尾くにこ  
体型はなんかトトロに似てきちゃう

お豆腐を買いに行ったら六千歩  
河内長野市 辻村 ヒロ

老犬と労わり合って生きている  
雨の音喜び二度寝する野良着

唐津市 仁部 四郎  
叱るとき気合が入る良い先生

黒石市 石澤はる子  
年齢欄記入してからギョツとする

三田市 堀 正和  
孫は皆大人びてきてデイスタンス

樺原市 居谷真理子  
ご多忙ねスマートフォンに使われて

南あわじ市 萩原 狸月  
健康は買えるとはかり売るサプリ

鳥取市 前田 楓花  
内裏さま夫婦の会話してますか

大阪府 米澤 俣子  
負けん気で競い芽を出すチューリップ

神戸市 能勢 利子  
チューリップにおはようさんと百二歳

大阪府 森 廣子  
春キャベツ乱切りにして跳びまわる

芦屋市 竹山千賀子  
桃と梅区別つかない花音痴

鳥取市 上山 一平  
野蒜摘み旬をいただく田圃道

広島市 松尾 信彦  
そうそう簡単レシピ平野レミ

岡山県 高岡 茂子  
工事音さけて外出先さがす

藤井寺市 太田扶美代  
ほんまに惚けたボケたボケたと言いつ過ぎて

のどぐろのツンデレ鯖の愛想良さ  
神戸市 富永 恭子

鳥取の鯖はお嬢と呼ばれてる  
米子市 野川 宣子

まずまずの暮らしとスルメあればいい  
東大阪市 青木 隆一

変ですか電子レンジのないわが家  
箕面市 中山 春代

クラッカー鳴らし夫の古稀祝う  
和歌山市 柏原 夕胡

健康の秘訣多忙と腹八分  
池田市 奥園 敏昭

年齢に制限は無い恋ごころ  
香芝市 大内 朝子

見つめ合った夫婦今では睨み合い  
河内長野市 藤塚 克三

大関ころころカド番でございます  
大阪市 谷口 義

永らえて知らないことが増えてくる  
美作市 岡本 余光

呼び水のようなものですあいうえお  
岡山県 田中 恵

理由などどうあれ眠いときは寝る  
鳥取市 岸本 宏章

亀の鳴く声で目覚める夢の中  
大阪市 今村 和男

寝不足を鏡が注意してくれる  
神戸市 山口 光久

握力が弱り湯のみをよく落とす  
高槻市 片山かずお

よく噛んでしつかり磨き歯が欠けた  
河内長野市 大島ともこ

補聴器を着けたら妻がよく喋る  
尼崎市 宗 和夫

道端の杭に腰かけ足休め  
大阪市 田中 廣子

老後とはこんなものかと膝なでる  
越谷市 久保田千代

次の趣味探して放浪のピエロ  
松江市 石橋 芳山

いい人でいたいわたしは偽善者よ  
松山市 柳田かおる

健康のためしかめつ面で歩く  
倉吉市 牧野 芳光

足腰を鍛えリユックで買物に  
箕面市 広島 巴子

友情の始まりに消しゴム借りる  
宮崎県 惠利 菊江

人恋し用も無いのにまたメール  
奈良県 安福 和夫

退屈が溜まったらしいメール来る  
寝屋川市 伊達 郁夫

逃げ足の速いチャンスにいつも負け  
大阪市 大川 桃花

同期会別れはみんな元気でな  
大阪市 江島谷勝弘

アルデバラン朝ドラで聴き前を向く  
池田市 倉本 一弥

プライドを半減すれば凝り直る  
三田市 馬場貴美江

隠遁が心の荒び消している  
西宮市 福田 正彦

不格好な背中が生きる道しるべ  
具塚市 吉道あかね

前向きに歩く背中が笑つてる  
和歌山県 三枝眞智子

人生の最期の脱皮八十路坂  
神戸市 近藤 勝正

飛べるまで整えている呼吸法  
黒石市 北山まみどり

まだ言える住所氏名と年齢は  
松山市 栗田 忠士

すかんだこ言つた頃が華だった  
大阪市 田中ゆみ子

出身地訛り言葉ですぐ判る  
沖繩県 禱 モモト

くせ言葉録音聞いて出る苦笑  
岩手県 村中 悦男

今朝もまた復興米が香る膳  
岩国市 上村 夢香

三歳児婆様真似てどっこいしょ  
唐津市 坂本 蜂朗

自分宛の荷札書いてる旅の空  
米子市 後藤美恵子

池田市 上山 堅坊  
常連の友がいるから行く句会

河内長野市 中島 一彌  
寝返りを打って捻って絞る佳句

奈良市 大久保眞澄  
鉛筆と紙があればはウソだった

米子市 成田 雨奇  
書物から言葉学んだ世代です

和歌山市 上田 紀子  
成り立ちを知られば楽しくなる漢字

米子市 後藤 宏之  
「六つかしい」漱石真似てこう書いた

神戸市 奥澤洋次郎  
演歌嫌いが五七調で生きている

鳥取市 山下 凱柳  
川柳で鬱な気分をぶっ飛ばす

明石市 瀬島流れ星  
この句何故没か解らん自惚れ句

大阪市 平賀 国和  
全没にめげずに今日も句をひねる

岡山市 丹下 凱夫  
会心の一句が出来るまで死なぬ

明石市 梶谷 和郎  
どうだったか思い出せないコロナ前

三田市 上田ひとみ  
四季さえもおぼろおぼろのステイホーム

枚方市 谷 英也  
お嬢さんコロナの陰で霞んでる

尼崎市 清水久美子  
パンツ穿く感覚でマスクする

堺市 村上 玄也  
不精髭隠すに都合よしマスク

川西市 大坪 一徳  
本当に目で物を言うマスク顔

鳥取市 岸本 孝子  
ゴミ出しも大きなマスクかけて出る

大阪市 榎本 舞夢  
ゴミ出しもマスクの御蔭スイスイと

尼崎市 藤田 雪菜  
おばあちゃんマスクも会話もよくずれる

米子市 竹村紀の治  
ライバルに少し強めのグータッチ

鳥取市 大前 安子  
グータッチ冷たい拳あじけない

西宮市 福島 弘子  
自粛中娘の指示の大掃除

大阪市 平井美智子  
心まで自粛するなど春の風

大阪府 高木 道子  
コロナ風に煽られている猫柳

美面市 出口セツ子  
生きている実感奪ってゆくコロナ

尾道市 村上 和子  
ほろ酔いでのおんべんだらり家ごもり

羽曳野市 吉村久仁雄  
コロナ後は地酒を巡る旅に出る

西宮市 緒方美津子  
薫風忌独り目刺しで呑んでいる

枚方市 藤田 武人  
サーバーを備え我が家はプチ酒場

三田市 野口真桜子  
じわじわと沁みる冷や酒 早春譜

豊中市 齋藤奈津子  
酒一献心解ける初対面

鳥取市 山野すみれ  
今日もまたおでんに頼る酒のアテ

松江市 梅瀬みちを  
中年の娘手頃な飲み相手

宇部市 平田 実男  
孫と呑む酒は特級酒に勝る

枚方市 栃尾 奏子  
正直で憎めないなあ酔っぱらい

池田市 太田 省三  
ネグリジエに着替えた妻のおうち呑み

三田市 村田 博  
イカナゴを炊いたご褒美吟醸酒

大阪府 折田あきこ  
休肝日作れぬままに揺れる猪口

高槻市 松岡 篤  
要節酒ならばと漁る旨い酒

岡山県 折鶴 翔  
肝臓に相談せよと叱られる

尼崎市 永田 紀恵  
ふと気付く私の友に下戸居ない

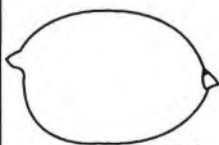
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カッタとも)

(投句326名)



κ, κ

「ユニーク」 栗原道夫選

シャンブーのボトルにリンス詰めました 大阪市 島田 明美  
 ユニークと言われ気楽に生きてます 尾道市 大本 和子  
 芸術はバクハツ川柳だつてそう 弘前市 高瀬 霜石  
 キュービズム若沖の赤ゴツホの黄 河内長野市 村上 直樹  
 野放図と個性重視をはき違え 塩竈市 木田比呂朗  
 父母祖父母に似ても似つかぬ子の個性 羽曳野市 吉村久仁雄  
 変人は嫌よユニークだと言つて 米子市 池田 美穂  
 ユニークな方ねといつもほほえまれ 大阪市 寺本 実  
 かわいいと言われるユニークな鼻で 犬山市 金子美千代  
 右斜め下から見ると男前 三田市 村田 博  
 コロナに慣らされユニークに生きている 八尾市 村上ミツ子  
 深海魚のふりして毎日生きてます 羽曳野市 三好 専平  
 バーゲンの列にブランド着て並ぶ 米子市 中原 章子  
 日本人なのにハグするキスもする 松山市 柳田かおる  
 個性的といつかユニークといつか 桜井市 安土 理恵

「ユニーク」 久保田千代選

ユニークを競い芸術開花する 奈良県 渡辺 富子  
 ユニークな発想個性光らせる 和歌山市 北原 昭枝  
 ユニークな主婦のアイデア商品化 横浜市 菊地 政勝  
 ユニークな趣味で臍帯を覗いてる 河内長野市 森田 旅人  
 へんてこりんな石拾い磨く癖 伊丹市 延寿庵野鶴  
 祝日に国旗掲揚してる家 尼崎市 藤井 宏造  
 芸術はバクハツ川柳だつてそう 弘前市 高瀬 霜石  
 ユニークな句は一席を外される 神戸市 奥澤洋次郎  
 孤独は覚悟の面白い生き方 藤井寺市 太田扶美代  
 ユニークな人はなかなか出世せず 川西市 大坪 一徳  
 マスクには侵入禁止と書いておく 吹田市 太田 昭  
 三角だマルだとユニークな棺 富田林市 中村 恵  
 丸文字を書く気分も円くなる 岡山市 丹下 凱夫  
 ユニークな指導で開花メダリスト 寝屋川市 川本 信子  
 新庄のパフォーマンスがどう生きる 香南市 桑名 孝雄

ユニークなお人でしたと盆の僧	阿南市	小畑	定弘
三角だマルだとユニークな棺	富田林市	中村	恵
なんか変母を名字で呼ぶ娘	大阪市	横山	里子
ユニークな味と一口食べただけ	大阪市	高杉	力
とりあえずユニークですわと茶を濁す	神戸市	近藤	勝正
ユニークに入れてもらえぬアリの列	寝屋川市	廣田	和織
ユニークな考え方に救われる	東大阪市	青木	隆一
ユニークな言に一目置く上司	横浜市	菊地	政勝
ユニークな案に馴染まず前のまま	大阪市	坂	裕之
花より虫とユニークな孫娘	大阪市	大川	桃花
ユニークな猫で小鳥と仲がいい	豊中市	水野	黒兎
呼びかけへナーニョーと泣くロボット猫	東大阪市	北村	賢子
ユニークな会話が弾む囲炉裏端	鳥取市	中村	金祥
寅さんにもチャップリンにもなれぬまま	箕面市	酒井	紀華
ユニークな石を選んで一歩ずつ	松江市	相見	柳歩
ユニークな波では困る心電図	大山市	関本かつ子	
ユニークと言われる余生楽しむう	倉吉市	大羽	雄大
ユニークな人生いいじゃないいいじゃない	横浜市	川島	良子
ユニークな服が似合っている八十路	箕面市	出口セツ子	
ユニークな悪友もいて救われる	高槻市	初代	正彦
輪の外では個性の光る人だった	堺市	柿花	和夫
家計簿にエクセル使うおばあちゃん	大阪市	原田すみ子	

野球への情熱掲げビッグボス	生駒市	飛水ふりこ
作戦もきつとユニークビッグボス	橋本市	石田 隆彦
采配もあつと合わせてビッグボス	奈良県	谷川 憲
三食を二食にしても太る人	広島市	森田 博之
銘柄はボクの名前の徳次郎	大阪市	川端 一步
にぎり寿司トロにも付けるマヨネーズ	米子市	竹村紀の治
ユニークな味だと料理のこされる	大阪市	岡田 恵子
ユニークな男料理のぶった切り	鳥取市	上山 一平
なんでやねんうどん屋の名前は「のび太」	鳥取市	前田 楓花
ユニークなカッブル角が取れて老い	長岡京市	山田 葉子
ユニークな脳が生み出すノーベル賞	池田市	奥園 敏昭
常識に逆らうユニークなヒント	豊中市	藤井 則彦
ユニークな人が消されていく日本	横浜市	加藤 佳子
ユニークな文化と映る異国の目	河内長野市	黒岩 靖博
本堂をライブハウスにする奇抜	三原市	笹重 耕三
本堂でコンガ叩いている和尚	堺市	村上 玄也
ユニークな名前親ガチャ罪作る	堺市	柿花 和夫
花の名と思ってた隣の子の名前	芦屋市	上野多恵子
物造り独自の町にある活気	和歌山市	松原 寿子
刑務所をホテルに変える奈良の街	奈良県	長谷川崇明
ユニークな健康法で医者知らず	宇都部市	平田 実男
ユニークな波では困る心電図	大山市	関本かつ子

変人が酔えばまともなことを言う  
 ユニークな人はなかなか出世せず  
 個性だと言えばユニークは輝く  
 凡人の独自性には芯がない  
 知らぬことユニークと言う傲慢さ  
 マスクから君のユニークな声がする  
 行く雲にそれぞれ名前付けてやる  
 不細工なかわいさが好きラフランス  
 千鳥足あんなものにも個性有り  
 「王将」の3番ばかり歌う父  
 羽織袴でろくでなし歌っている  
 般若心経ポップなりズム踊り出す  
 色づかいユニークというほめ言葉  
 色を変えユニークさ消すカメレオン  
 ユニークな犬だしゃがんで用を足す  
 考える人になりきる猿のボス  
 大阪のおパチャンとして生きている  
 顔認証世界に一つだけの顔  
 噛み合わせ時も個性対個性  
 ユニークなアイデア並ぶ文具品  
 手を振った母の姿はまねき猫  
 ユニークと言えば何とかかなりそうで

榎原市	居谷真理子
川西市	大坪 一徳
岡山市	永見 心咲
尼崎市	宗 和夫
神戸市	横田 次郎
岡山市	大石 洋子
岡山市	丹下 凱夫
岐阜県	喜多村正儀
高槻市	松岡 篤
大阪市	石田 孝純
松江市	藤井 寿代
神戸市	斎藤 隆浩
河内長野市	木見谷孝代
池田市	上山 堅坊
奈良市	大久保真澄
大阪市	東 敏郎
枚方市	栃尾 奏子
松山市	栗田 忠士
大阪市	田中ゆみ子
枚方市	藤村 亜成
大阪市	滝井恵美子
神戸市	村松 久江

ユニークな地形海の絶景みる  
 青と黄のライト反戦訴える  
 変人へユニークと言う思いやり  
 ユニークと持ち上げられた日の破調  
 ユニークに生き濃厚な日々が過ぎ  
 ありふれた人生でない道だった  
 引き算はしない足し算するいのち  
 大阪のおパチャンとして生きている  
 コロナに慣らされユニークに生きている  
 オンリーワンわたしはわたしこの道を  
 変人と言われることもある個性  
 何もかも個性あなたのオリジナル  
 ユニークな人と言われて独りぼっち  
 ユニークな悪友もいて救われる  
 偏差値が僕の個性を輪切りする  
 唯一無二あなたの声は忘れない  
 漫画の元祖鳥獣戯画のユニークさ  
 ユニークな話芸で魅了する高座  
 ユニークでなければ画家は成就せぬ  
 理解出来ぬままに出口のアート展  
 ユニークなムンクにピカソ絵が叫ぶ  
 ユニークな向きがわからぬピカソの絵

鳥取市	吉田 弘子
羽曳野市	徳山みつこ
桜井市	安土 理恵
岐阜県	喜多村正儀
鳥取市	倉益 一瑤
尾道市	小川 道子
貝塚市	吉道あかね
枚方市	栃尾 奏子
八尾市	村上ミツ子
岩国市	上村 夢香
可児市	板山まみ子
三田市	上田ひとみ
高槻市	片山かずお
高槻市	初代 正彦
神戸市	山崎 武彦
和歌山市	まつもととこ
大阪市	平賀 国和
東大阪市	佐々木満作
倉吉市	牧野 芳光
西宮市	福島 弘子
豊中市	水野 黒兎
豊中市	齋藤奈津子

ユニークな噂風船玉になる

鳥取県 竹信 照彦

三色野菜ユニークな離乳食

鳥取市 上山 一平

よく見ればユニークですな阿吽像

弘前市 福士 慕情

記念写真わたし以外はみなムンク

青森県 月波 与生

寡黙だがユニークな夫家に居る

河内長野市 辻村 ヒロ

ユニークな夫の顔にも飽きてきた

鳥取市 谷口回春子

ユニークさ代々続く顔かたち

奈良市 東 定生

ユニークと言われちよつぱり背伸びする 豊中市 池田 純子

ユニークにならなければたちうちできぬ 大阪市 江島谷勝弘

就活でユニークですと言う勇氣 大阪市 岩崎 公誠

ユニークを武器に売る人売れぬ人 大阪府 大浦 福子

楽器みな自分の音色持っている 藤井寺市 太田扶美代

ユニークが当り前かも歴史観 西予市 黒田 茂代

体型で違つて見えるユニフォーム 神戸市 山口 光久

ユニークな紙一枚の人間だ 豊橋市 小松くみ子

ゼロトイチコレデセカイガヌリカワル 笠岡市 藤井 智史

生き方はそれぞれですとラフレシア 土佐清水市 辻内 次根

ユニークな名にそれなりのわけがある 大阪市 平井美智子

秀句

体重がわかつてしまふ笑い方 尼崎市 藤岡 りこ

ユニークな鬼だ駄洒落ばかり言う 黒石市 北山まみどり

今治市 永井 松柏

キュービズム若沖の赤ゴツホの黄

河内長野市 村上 直樹

ユニークの言葉の中にある多様

香芝市 大内 朝子

ユニークな東北弁にある温み

大阪市 津村志華子

独特な深み大宰の世界観

大阪市 阪本 秀子

ファツション界独創的が勝ち残る

箕面市 大浦 初音

お噂は聞いておりますラフレシア

橿原市 居谷真理子

生き方はそれぞれですとラフレシア

大阪市 平井美智子

野放図と個性重視をはき違え

塩竈市 木田比呂朗

初デート私服ロックな彼が来る

神戸市 城戸 誓子

ゲルニカに込められているメッセージ

尼崎市 近兼 敦子

鯛の絵の電車市中へ乗り入れる

大阪府 米澤 俣子

赤いベレー赤いドレスは迷子札

神戸市 みぎわはな

ユニークすぎていつも番外またひとり

堺市 今井万紗子

世を拗ねる振りをしたがる寂しがり

大阪市 小野 雅美

何色を混ぜても消えぬ僕の色

羽曳野市 吉村久仁雄

盆栽は枝の曲りで値が上がる

岡山市 藤澤 照代

ユニークなアイデア並ぶ文具品

枚方市 藤村 亜成

ほっとするわが国だけの畳の間

西宮市 緒方美津子

秀句

抜いた大根ユニークな顔を見せ

鳥取県 竹信 照彦

一列に立ち食い蕎麦の顎マスク

鳥取県 斉尾くにこ

独特な発想みつまたを剥がす

岡山市 永見 心咲

「重 い」

(投句 228名)

梶谷和郎選



歳月の重さいとしくなるいのち

一言がその場の空気重くした

比べる物が無い命の重さよ

保育器の命の重みもみじの手

不戦をと重い決意の千羽鶴

一膳の箸と茶碗が重すぎる

文鎮の重さ程度の家長です

付いてくる影も重荷を背負ってる

そろそろと何度言ったか重い尻

千兆の借金を追う孫の肩

断捨離と言う重い荷ひとつ残ってる

重い口軽くしていく好きな酒

ゆつくりとペダルも重くなる加齢

重きもの過疎に少子化高齢化

ウフフフ金塊のための趣味にする

風花さえ重う感じる自粛の身

責任の重さに見合う顔になる  
たつぷりの愛が重たい時がある  
閉店のちさな扉の重いこと  
歳月が絡みついてる重い足

貝塚市 吉道あかね

三田市 堀 正和

西宮市 高橋千賀子

和歌山市 上田 紀子

豊中市 水野 黒兎

富田林市 中村 恵

香南市 桑名 孝雄

芦屋市 竹山千賀子

明石市 瀬島流れ星

神戸市 奥澤洋次郎

豊中市 松尾美智代

豊中市 齋藤奈津子

岡山市 永見 心咲

神戸市 上田 和宏

大阪市 江島谷勝弘

堺市 澤井 敏治

鳥取市 岸本 宏章  
藤井寺市 太田扶美代  
大阪市 今村 和男  
黒石市 石澤はる子

亡父に似たゴツゴツ重いかばちや選る

大國へ重いテーマの温暖化

フクシマというカタカナが持つ重さ

手編みのセーター暖かいけれども重い

警告を啜うがごとし雪の嵩

重い辞書捨ててスマホという味方

先生の言葉が胸の底にある

生きていく重みで丸くなる背中

這松は雪の重さを知っている

啄木のマネはできないうちの母

一グラムずつ増えてゆく嘘と嘘

重くても自分で決めた靴の向き

佳句

飯館の確かな重石老母の味

プーチンの狂気ウクライナの命

人生は無差別級が面白い

綿毛の軽さ孤独死の重さかな

重いからかつら剥きして話します

天ぶらの衣が重いうわさ好き

借別の言葉が重い棺の釘

これまでの感謝これからの覚悟

うっかりの指切り重い枷となる

神戸市 横田 次郎

堺市 内藤 憲彦

大阪市 平井美智子

高槻市 片山かずお

大阪市 折田あきこ

米子市 妹能令位子

倉吉市 牧野 芳光

橋本市 石田 隆彦

海南市 小谷 小雪

奈良市 大久保真澄

佐賀県 真島久美子

三田市 稲角 優子

西宮市 福島 弘子

鳥取市 福西 茶子

青森県 月波 与生

男鹿市 伊藤のぶよし

岡山市 大内せつ子

黒石市 北山まみどり

伊丹市 延寿庵野鶴

弘前市 高瀬 霜石



「とにかく」

(投句 229名)

工 藤 千代子 選



妻が呼ぶとにもかくにもまず返事  
紙とペンとにかくいつも側にある  
溜めたけどとにかく小銭使い切る  
何を出してもとにかく醤油かけたがる  
値上げラッシュとにかく今日の米は有る  
老人会役はとにかく歳の順  
マスク取りとにかくワツと笑いたい  
とにかくに夜寝て朝に起きてます  
落ちついてとにかく水を飲みなさい  
とにかくもスキップ出来りやまだ行ける  
ともかくも飛び込んでみる趣味の会  
長老の顔をとにかく立てておく  
飲む食べるとにかく元気よう喋る  
話すだけ話してみても寄る他人  
この際に会っておきたい人ばかり  
目の前の棘をとにかく除いてみる  
ヨーグルト果物野菜テーブルに  
おばちゃんはとにかく値切り買う自慢  
ゴチャゴチャ言うたかてやるしかないやん  
よく話し合おうとにかくまあ座れ

奈良県 中堀 優  
和歌山市 上田 紀子  
大阪市 横山 里子  
米子市 池田 美穂  
箕面市 出口セツ子  
加西市 山端なつみ  
堺市 内藤 憲彦  
岡山市 大石 洋子  
神戸市 みぎわはな  
大阪市 磯島福貴子  
尾道市 村上 和子  
貝塚市 石田ひろ子  
富田林市 山野 寿之  
佐賀県 真島久美子  
西宮市 福島 弘子  
倉吉市 牧野 芳光  
三田市 上田ひとみ  
河内長野市 藤塚 克三  
奈良市 大久保眞澄  
今治市 永井 松柏

いい一日にしようカーテン開けながら  
ふる里へとにかく一度帰りたい  
四の五の言わず踊り切るのも生きる術  
母の手の効いた気がするチチンブイ  
朝一番とにかく雪を片付ける  
弁解は後だ詫びるのが先だ  
行く当てがなくても髭は剃っておく  
とにかくも以下同文の身で泳ぐ  
春が来る捻子を巻かねば動かねば  
何処へ行っても最初に探す非常口  
金になるつもりなどないわたしは歩  
不満だろうがとにかく判を押してくれ

佳 句

手短に言つて下さい寒いから  
反戦へともかくにも振るタクト  
晩酌をすませてからにしてほしい  
笛や太鼓はないけれど踊っちゃえ  
ゆっくりと呑もうゆっくり聞いたげる

座ろうよ話しようよ銃捨てて

電車に乗り遅れようが飯を食う  
何しようとにかく大根買ってくる

軸

大阪市 小野 雅美  
弘前市 稲見 則彦  
男鹿市 伊藤のぶよし  
河内長野市 坂野 澄子  
弘前市 福士 慕情  
枚方市 藤村 亜成  
鳥取市 岸本 宏章  
広島市 松尾 信彦  
貝塚市 吉道あかね  
安来市 原 徳利  
弘前市 高瀬 霜石  
鳥取市 山下 凱柳

犬山市 関本かつ子  
三原市 笹重 耕三  
岡山市 丹下 凱夫  
松山市 大内せつ子  
大阪市 平井美智子

樫原市 居谷真理子  
笠岡市 藤井 智史  
越谷市 久保田千代

# 初歩教室

## 題一遊ぶ

### 高瀬霜石

これを書いているのが、3月上旬。

プーチンの所業は——これ、今や、100%放送禁止用語だろうが——キチガイに刃物。

ロシアには、欧米諸国からの経済制裁が課されたが、我々も、たつぷり返り血を浴びる覚悟をしなくてはならない。

そして、まだまだ続くだろうコロナ禍。

これが活字になるのは5月。すぐ目の前のことなのに、まるで世界情勢が読めない。この地球規模大激震の中、日本政府はどう動いているのか、気になる。

①まずは、上と下を入れ替えてみる。

(▼は原句。▽が参考句)

▼夢を見た遊んで暮らす定年後 陸子  
なんだかきこちないので、逆さまに。

▽定年後遊んで暮らす夢を見た

▼生まれてきたからにやあそばにヤソソソソソソソ

風鈴

これはこれで充分面白いのだが、ためしに、

逆さまにしてみたら、こっちも結構面白い。

作者にしてみれば、大きなお世話だろうが。

▽あそばにヤソソソソソソ生まれきたからにや

▼自肅中うちで女房とおままこと 蟻日路

女房は、ちと舌い。妻だと字足らずだから。

▽かみさんとおままこととする自肅中

②もっと適切な表現はないか。あえて大袈

裟にし、ドラマチックに仕立て変えてみる。

▼エクモなど機械の遊ぶ日を願う 閑

エクモなどの機械——ではなく、エクモ

にだけスポットを当てたい。

▽いつか来るエクモが欠伸している日

▼園芸店私の遊ぶ宝箱 智恵子

作者は、園芸好き。だから、なんでも揃う

ホームセンターなんかよりも、専門店に行

くのですね。なので、ここはシンプルに。

▽園芸店私のメリーゴーランド とか、

▽園芸店私のテーマパークです とか、

▼風の海太公望がエサをまく 美美子

▽太公望がひーふーみーよー風の海

▼脳トレにカムカム英語で楽しみ マユミ

面白ければドリズムがねえ。ここは、もつ

と大袈裟に、楽しく、大幅改造。

▽脳トレに励むカムカムエブリバデイ

題が「遊び」だからって、必ず入れなく

ても、遊びの雰囲気が出ていればOK。

▼祖母の手遊びいつの間に鶴が5羽 和子

視点面白いけれど、リズムがイマイチ。

そして、表現がチト固いので。

▽祖母の手にかかれればほーら鶴が5羽

▼立ち上がり膝が遊んで困ります 風露

▽立ち上がる度にケラケラ笑う膝

▼定年後遊ぶつもりが多い趣味 閑子

言いたいことは分かるのだが……

▼定年後もあー忙しい多趣味です

▼うんざりを会社において赤暖簾 のりひろ

「うんざりを会社において」は、気持ち

は分かるが、イマイチ。しかも、赤暖簾つ

てのは、ポピュラーじゃないので。

▽さあ狼煙上げに行こうぜ縄暖簾

▼淡い味遊ぶ気で煮るほめられた ミヨノ

言いたいことは分かるが、こちない。

▽遊びごころで作った料理褒められる

③句の中に、作者がいる——これ大事なこと。

▼青空に舞い遊ぶ風心地よい 貴美江

きれいな句だけど、風を見ている作者。

それよりも風に自分をかさねたい。

▼青空を悠々と舞う風になる

▼ブレイキを大事なあそび暮らしにも のぞみ

確かに、ブレイキにもあるのだからうが、

普通、遊びといえは、ハンドルだよねえ。

▼ハンドルに大事な遊びわたしにも

▼遊ばせて遊んでもらう爺と孫 紀美代

これは言い過ぎ。ここまで説明しなくとも、読者は分かる。そして、自分を爺と

書くのは（作者は女性だから、婆も）美

しくない。

▼遊ばせて遊んでもらうてるわたし

▼公園の遊具筋トレ持って来い 義明

世慣れている作者。わざわざ大枚を払って、スポーツジムなんかに行かなくとも、

もつと身近な所に、いいモノがあるじゃ

んと。そうなると、句も、もつと積極的に。

▼公園の遊具で筋トレに励む

▼遊ぶため働いている楽しさよ 弥生

本音で書かれていて、好感が持てる。せつ

かくだから、もつと句を自分に引き付けて。

▼遊ぶために働いている楽しいよ

▼働き蟻も遊んで暮らすようになり 和夫

言いたいことは分かるが、なんだか他人事。

▼働き蟻にも遊んで暮らす奴がいる

④より分かりやすい言葉、表現に変えてみる。

▼浦島は笑うだろうね朝帰り 不二天

とつても意味深な句。「オレっちなんかさ、

数十年も竜宮城で、乙姫さんと遊びほうけ

てたんだぜい。それが、たつた1回や2回

の朝帰りがなんじゃいな」ってことなのだ

ろうか。でも、ここは、素直に…

▼浦島になった気分の朝帰り

▼紋白蝶に遊ばれている網袋 (薄良子

網袋って、あんまり聞かない。

▼紋白蝶に遊ばれている捕虫網

▼遊び惚け付けがまわった締め切り日 一平

▼遊び過ぎ付けが回った締め切り日

▼夜遊びが苦手で出せしそびれる 双葉

▼夜遊びが苦手で出せしそこなう

▼裏山のターザンごっこ秘密基地 誓子

楽しい句だが、詰め込み過ぎだから、ふ

たつに分割し、シンプルにしましょう。

▼裏山でターザンごっこしましたね

▼裏山にあつたわたしの秘密基地

(○は佳句、◎優秀句)

○久しぶりかくれんぼする子どもも見た 通則

頭が重くなるけど、僕ならば「久しぶり

に」と、「に」を入れたいが。

○コロナ禍のひとり遊びはもう飽きた 静恵

○かくれんぼ見つけてくれず暗くなる 次郎

これで百点なのだけれど、僕なら、下五を

「日が暮れる」にしちゃうかなあ。もちろん、

作者にすれば、余計なおせっかいだ。

今月の卒業生は、豊橋市の小松くみ子さ

ん。くみ子さん。テクニクはまだまだ

だ。でも、それは経験を積めば、いずれ

身に付くから大丈夫。それよりなにより、

発想が大事。今回の3句も、みな視点が

違つて新鮮。

○ピノキオが影絵の中で遊んでる くみ子

○「むかし遊び」ができない今の子どもたち

くみ子

◎夕やけと遊んだ記憶のない子ども くみ子

ここは、素直に「夕焼け」でいいと思うの

だが、ひらがなにした理由があるのかな。

# 川柳塔鑑賞

同人吟 吉村 久仁雄

— 4月号から

轉りは小鳥が春のわたくしか

永見心 咲

春到来の嬉しさと高揚感をストリートに感じる句。春の喜びを小鳥と共有する心咲さんの優しさが素敵。

この私あなたへ咲いた花だもの

中堀 優

優さんからこんな華々しい告白をされたら、逆らえる男性はいないだろう。もし妻からだったら…。

きのうとは違つ風あり春隣

(叡山口 弘委智

春の気配を感じさせる言葉、春隣。昨日とは違った温かい風にこの言葉を連想した弘委智さんの感性。

神様と手をたずさえて生きていく

田中 紀美恵

紀美恵さんの傍に神様がいるからこそ手をたずさえることが出来る。信仰心の篤さをさり気なく表現。

お互いの弔辞託せる友がいる

鈴木 いさお

弔辞を託し合える友がいるなんて、なんとまあ素晴らしい。いさおさんも親友の方もどうぞ長生きを。

鏡など見る間なかつた束ね髪

川崎 ひかり

化粧つけもなく髪を束ねて懸命に働く女性の姿。戦後を生き抜いたひかりさんのお母さんのことか。

まだこの世冬を凌げば春が来る

伊藤 玲峰

冬を凌いで春を迎える、生きていれば季節は巡る。玲峰さんの飄々とした生き方に、逞しさを感じる。

新生児の髪でこの世にひとつ筆

きとう こみつ

赤子の髪で作る記念の筆があることをこの句で知った。孫誕生予定の僕に教えてくれたこみつさんに感謝。

ひらがなのようにほっこり生きたいな

藤井 寿代

確かにひらがなにはほっこりした感じがある。人生をやさしく、温かく生きていきたい寿代さん。

まるい石ばかりで会議弾まない

廣田 和織

良い人ばかりの会議、無難な結論で議論が弾まない。良い人を丸い石に例えた和織さんの言葉選びの妙。

捨てられぬ過去を秘めてる欠け茶碗

岸 桂子

長期間使用の食器には思い出がこびりついている。桂子さんの喜びと悲しみ。欠け茶碗でも捨てがたい。

雪が舞うほんにココアが和らげる

飛永 ふりこ

厳寒の日にはココアの暖かさや甘さがふりこさんの心身を和らげる。ほんに、という言葉がまた和らか。

背を向けて寝ても弁当作ってる

藤澤 照代

背を向けて寝るほど、照代さんは連れ合いに愛想が尽きている。弁当作るのは習慣からか、憐れみからか。

人間に生まれたことを悔いる酒

早川 遡行

敗北感に打ちひしがれて、飲まずには  
いられない酒がある。遡行さん、今日を  
耐え、明日を迎えましょう。

寂しさが覚悟に変わる八十路

小松 紀子

歳をとるのは寂しいものだが、八十歳  
を迎え、終の日を思つての覚悟がふつ  
つ湧いてくる紀子さん。

しみや皺もついいんです元氣なら

野川 宣子

シミ、皺が氣になつてゐるが、今は健  
康第一、元氣に生きることが大事と改め  
て思つてゐる宣子さん。

見た目で勝負ときに私もしています

徳山 みつこ

身だしなみは幾つになつても氣になる。  
ここぞといふ時のために、今も勝負服を  
用意してゐるみつこさん。

その日まで夢は枯らさぬよう生きる

大内 朝子

夢を持つとは生きる張りを持つといふ  
こと。その日が来るまで夢を持ち続けよ  
うと決意する朝子さん。

シナリオになかつた道を歩んでる

雪本 珠子

多くの人は、描いたシナリオとはま  
たく違つた道を歩んでる。珠子さんもし  
かり。だから人生面白い。

元氣ですか風が立ち寄る無人駅

笹重 耕三

無人駅に風が通り抜けていつた光景。  
立ち寄つて、元氣ですかと声をかける、  
耕三さんの優しい氣づかい。

前向きとは言わぬいつもの前のめり

大島 ともこ

前向きより実は前のめりの人、ともこ  
さん。面白い、楽しそうではあるけど、  
すぐに飛びつく慌て者。

テンポ良く歩くときも嬉しそう

山田 葉子

足を痛めていたが、養生のおかげで普  
通に歩けるようになった。葉子さん、影  
もほんとに喜んでますよ。

駄句没句いいの一日楽しんだ

津村 志華子

没句ばかりでも楽しい一日だったから、  
いいの。ほんと？ 華子さんの半分から、  
歯ぎしりが聞こえる。

乱れた字ただ閉店の二字がある

岩佐 ダン吉

コロナで閉店を余儀なくされ、悔し  
さに溢れる閉店の字。ダン吉さん、捲土重来、  
再開店を期待しましょう。

好みはどちら心美人と器量よし

片山 かずお

かずおさんに問われた究極の質問。ス  
パッと答えるなんて出来ない。ある時は  
心美人、ある時は器量よし……。

ウイルスに自宅監禁させられる

小谷 小雪

まったく同感。二年間句会、飲み会の  
ほとんどが中止。小雪さんもコロナに自  
宅軟禁されたまま。

ゆるゆるの脳にして出る縄のれん

内藤 憲彦

居酒屋でしつかり飲んだあとは、そう  
かゆるゆるの脳か。言い得て妙。憲彦さん、  
飲み過ぎないように。

三分が待てぬ五歳のカップ麺

福島 弘子

カップ麺をすぐ食べたいと駄々をこね  
る五歳児と、待つのを強いる弘子さん。  
なんか微笑ましい。

# 水煙抄鑑賞

— 4月号から

永見心咲

水溜り空の移り気映しだす

惠利菊江

刻々と新しい貌を見せる空。それを見上げる私の足元には小さな水溜りが。移り気なのは空。私の心に来来た水溜りがつぶやく。「なんてことないわ。前を向かなきゃ」

風よりも静かに母が逝くなんて

坂本星雨

考えたくはない親の死。どんな最後なんだろう。覚悟はしていましたよね。でも、こんなに穏やかにすーっと逝ってしまうなんて…哀しさが募ります。

ムーへ行くその他大勢引き連れて

月波与生

ムーへ？が、じゃないんですね。ムーは「世界の謎と不思議に挑戦する」を motto とした情報誌。それで納得しました。

手で重さはかつてレタス買えと妻

奥野健一郎

勿論と売りではなく個売りの場合です。今まで妻の領分だった買い物も、今では一役買う夫。いずれ二人でレタス栽培も。

仏壇へ献杯今日のいい話

岡本余光

日々の出来事を仏前で話すのが日課。いい話が良いですね。愚痴じゃ仏さまも心配ですから。話を肴に二人で乾杯。

雨ね ぶん ゆつくり午後が過ぎてゆく

長尾千賀

会話を一字空けで詠み、この一字空けによって中七の「ゆつくり」を、より正確な時間の流れにしましたね。

口実を探す砂糖の匙加減

山野すみれ

何のための口実なのか…取り敢えず相手にも砂糖を少し多めに盛りましょう。さすれば、私にも甘めのジャッジが。

息切れのところどころにあるベンチ

黒木栄子

一休みひとやすみ。頑張った私に優しく手招きするベンチが嬉しいですね。ベンチは、家族だったり。友だったり。

さいころが二つあるから面白い

常國喜好

自分の手に委ねられたさいころが、二つ。でも自由になるのは一つだけです。引き算の増えていく高齡に、二個の醸し出す妙味とは。

泣きぼくろ描いて自画像できあがる

岡田恵子

人生の来し方を問いながら描く自画像。概ね良好な生涯だという自負もありあり。でもね、泣きぼくろがやはり欠かせない。

ごそごそと音たてながら老けてゆく

穂口正子

シャキシャキ出来たのは走馬灯。老いていくには、ごそごそがふさわしいのですね。老いの自己主張は、ごそごそと。

ふるさとの浴槽に浮くカットパン

真島久美子

ふるさとの持つ寛容性に、あんなに深く感じた傷心も溶けるように癒される。もう、カットパンも不要です。

お日様を丸まる包む干し布団

高木道子

昨日より十年前を覚えてる

榎葉良子



追悼

やまぐち

# 山口 弘委智さんを偲んで

こういち

伊達 郁夫

日焼けした、長身の壮健そのもの出で立ち。そんな元氣印の山口弘委智さんの訃報に接し、ただただ呆然としました。

二月十二日早朝呼吸困難で救急車で入院。二月十八日にご逝去。あつと言う間のことでした。八十九歳とは思えぬ健脚で、句会に同行しても、いつも付いて行けないほどの早足でした。百歳まで生きる自信があると豪語されていました。

そんな弘委智さんの訃報が未だに信じられません。『日本歩く会』のメンバーで毎日何キロも歩き続け、地球を何周も歩いたことになるかと自慢されていました。その元氣さで、月に十カ所以上の句会に参加されていました。

句会には、いつも電子辞書でなく、分厚い国語辞典と類語辞典を鞆に入れて持ち歩いていました。大学の工学部出身で、数学的、科学的な思考で、何事も左脳で物事を考える傾向があり、右脳で思考する川柳はどうも違和感があると言っておられました。

そんな弘委智さんが、川柳のこころを知らうと句会巡りをされ、コツコツと努力されている姿に感心していました。

日頃は、お住まいの枚方市御殿山にある御殿山神社の氏子をされ、毎週欠かさず神社の庭掃除を務めておられました。一見、強面の無口ですが見かけによらず、外見とは違いとても優しい心根の人です。

た。枚方市生涯学習センターで、「子育てサークル」の会長を務めておられました。弘委智さんの顔を見て、幼児らは恐がりませんかと良く冗談を言ったものです。

これから川柳の醍醐味を味わい、一段と上達するステップの途中でのご逝去に、ただただ残念の思いに包まれています。

そして、奥様の「主人は川柳を始めて、多くのお友達に恵まれ、楽しい充実した余生を過ごすことが出来ました」との言葉に、少し救われた思いがします。

弘委智さんの最近の句

せかせかと生きて穏やか黄泉に行く  
やすらぎの妻の傍ら一行詩

生けるものかく逞しく芽吹く春  
診察券並べて余命思索する

酔うように漂うように句意を練る  
一枚のまつさらな空夢無限

川柳談義湯豆腐つき振り返る

合掌



野菜いろいろ (1)

野菜は身体の調子を整えてくれるビタミンやミネラルを豊富に含んでいます。また、カリウムや食物繊維は生活習慣病を予防して、野菜をたくさん食べている人は脳卒中や心臓病等に罹りにくいという研究結果もあります。

この項では、川柳作家の皆さんから見た「野菜」をいろいろ取り上げて味わってみます。

- 春キャベツ食べ頃ですと膨らんだ 松浦登志子
- 見比べてふんわりでかい春キャベツ 宇都満知子
- 釘煮もらって新キャベツ差し上げる 太田扶美代
- べっぴんになるまで脱がすキャベツの葉 石橋 芳山
- 高騰でキャベツの芯の旨さ知る 松井 文香
- 独り飯キャベツをちぎり一品に 松浦 英夫
- キャベツ一個食べつくすのも骨である 森下よりこ
- 惨敗のロールキャベツが煮崩れる 平井美智子

キャベツは収穫の時期によつて春キャベツ、夏秋キャベツ、寒玉(冬)キャベツと分けられています。その内、イカナゴの釘煮が出回る頃に収穫するのが春キャベツ。春キャベツは巻きがふんわりして葉も柔らで、サラダや和え物などから、豚肉との炒め物など何でもOK! また、ビタミンUはキャベツから発見された成分(キャベジン)で胃酸の分泌を抑え胃や腸の粘膜を保護してくれます。頑張つて食べたいものです。が、手間暇かけたロールキャベツが煮崩れたとは残念!

- 筍は月を見ながら伸びていく 岩見かずこ
- 竹の子の脇目も振らぬ自己主張 奥澤洋次郎
- 筍をねじると春の香りする 井丸 昌紀
- 筍はきつと誰かがくれるはず 山田 葉子
- 糠添えてまでも筍届けられ 北野 哲男
- タケノコは生で貰つと一苦労 栗田 忠士
- 茹でてある筍ならば貰います 妹能令位子
- 筍も春キャベツと同じころ(2月下旬〜5月)が収穫時期

- で、店頭で見かけると「ああ、春だなあ!」と感じます。
  - 筍は塩分を排泄してくれるカリウムを豊富に含んでいますので高血圧に効果がありますが、アクが強いので食べ過ぎると吹き出物が出ることもあり。そのアク抜きがいささか面倒で「茹でてある」のを頂戴するのがいちばん有り難い。
  - 実エンドウ割ると競漕用イト 坂上 淳司
  - 縁あつて一つのサヤに並ぶ豆 山野すみれ
  - 鳩に似た目をして食べる豆ご飯 相馬 一花
  - 豆ごはん春を一粒また一つ 神野宇乃子
  - 豆ご飯食つたら肌の艶が出る 土橋 螢
  - こぼれ出る笑顔五月の豆ごはん 梶原サナエ
  - ほっこりと元気をもらう豆ごはん 荻野 浩子
- 豆ご飯の豆は地方やご家庭によつては黒豆や空豆もありますが、一般的(特に関西)では実エンドウです。ほかほかの白いご飯に輝く翡翠色を見えていますと、ユネスコ無形文化遺産の代表選手とも思えます。豆ご飯のオカズに筍の卵とじ、また逆に、筍ご飯にエンドウの卵とじの組み合わせは、まさに「春を噛みしめている」という気分です。



## 二上山

山下 じゅん子

私の住む町は、奈良県と大阪府との県境の香芝市。大半の家庭は大阪に勤務したり通学したりベッドタウンである。この町にすんで四十数年。我が家の二階のベランダからは二上山が目に入る。その名のおり、雄岳と雌岳の二つの山が寄り添い、万葉集では「ふたかみやま」と歌われている。雄岳には、古代史の悲劇のヒーロー大津皇子が眠る。

子供が幼い頃、二、三回登った事があるくらいだったが、コロナ禍になって、二上山の麓に住む知り合いの八十代の女性が毎日この山に登っている事を知り、私は友人と一緒に弟子入りする事になった。二上山は香芝市、葛城市、大阪府太子町の3市町にまたがり、いくつもの登山道がある。池、針葉樹の道、広葉樹の道、せせらぎ、岩場、野鳥スポットなど楽しみつつ登る。おしゃべりも欠かせない。途中には幾つもの絶景

ポイントがあり、頂上は360度のパノラマ。東には大和三山、西には六甲の山並から淡路島まで眺望できる。秋には大銀杏の黄金の絨毯や、紅葉の輝きなどたくさん感動を与えてくれた

私達3人は意気投合し、山女ボスもスマホに挑戦し、地元の當麻寺の伝説にちなんで「中将姫」というライングループを作り、山の天気やコースの情報交換を始めた。私は週に一度参加する。

普段は午前中に帰宅するが、暮れには山上で忘年会をしようという事になった。各自がおにぎりを持参。カップみそ汁とコーヒードレッシング、切り株にトランプを並べてのババ抜き。私たちは木漏れ日を浴びながら、「お正月」を合唱。ふりかえった男性はあきれつつも暖かい笑顔で「良いお正月を！」と手をふり下山して行った。

私と友人は五黄の年女。記念に令和4年の初日の出を拝みに行こうという事になった。83歳の山女ボスも同行すると言う。

さて元旦。暗闇の中、ヘッドライトを付けて出発。途中、山道で財布を拾った。札とカード、免許証が入っていた。下山して

から警察に届けようかと思案しつつ山頂に着く。暗闇の中二、三百人の騒めく声。まずは場所を確保。日の出が近い。明るくなってきた。私は思い切つて石のベンチに登り免許証を見つ「○○さん、いらつしやいますかー」と叫ぶ事二度、三度。「はい、なんですかー」と若者が怪訝な顔をして近づいてきた。「下のお名前は？」「○○です」免許証と同じだ。「はい！財布、落ちていましたよ」。彼はハツとして「ありがとうございます」。周囲から拍手が湧き、山頂の空気が一体になる。雲の隙間から太陽が見え出した。「日の出や、日の出！」皆の顔が目を浴びてオレンジ色に輝いた。友人がポケットにおせんざいを持って来て、振舞ってくれた。

先日は鶯の初鳴きに足が止まり、もうすぐ桜吹雪。多くの珍しいいきのこも顔を出してくる。また、未踏のような山道にも分け入りスリルを味合う事もある。

コロナの終息も見えず、世界の惨状がテレビで報道されている中、小さな山でのさやかな感動に癒される日々である。

足と口フル回転で二上山 じゅん子

# 第十回 春の川柳塔まつり誌上大会

第10回春の川柳塔まつり誌上大会は新型コロナウイルス感染症拡大の中で開催の運びとなりました。北は北海道、南は沖縄まで全国から542名ものご参加を戴きました。まことに有り難うございました。

貴重な誌面に誌上大会要領をご案内、ご掲載賜りました各川柳社、個人的にそれぞれご支援、ご紹介くださいました皆さまのご厚情に心よりお礼を申し上げます。

ご投句戴きました作品は、無記名の句箋のまま6人の選者に送付し、選句をお願い致しました。お忙しい中をご選句戴きました選者の皆さまに深く感謝申し上げます

入選作品は各題とも平拔 110句、秀句 10句、特選 2句、計 122句です。なお各題特選にはささやかですが 賞品をお送りいたしました。

## 各 題 特 選 句

自由吟	軽 い	声
<p>小島 蘭 幸 選</p> <p>五十年後の顔を見たくて添いました 里山の絶滅危惧種子どもたち</p>	<p>大久保 眞 澄 選</p> <p>次の世は紋白蝶になるからね 生ききつて死にきつてこの軽い骨</p>	<p>濱山 哲 也 選</p> <p>風が来てひよいと私を裏返えす 天国へは手ぶらでまいるつもりです</p>
<p>大西 泰 世 選</p> <p>新刊の匂い蛇穴そそのかす 春帽子ふわりと夢をつかまえる</p>	<p>大 阪 中 山 春 代</p> <p>奈 良 居 谷 真 理 子</p>	<p>廣 瀬 ち え み 選</p> <p>傾いていないか話しかけてみる 帰ります栗きんとんな声出して</p>
<p>兵 庫 黒 田 弥 生</p> <p>大 阪 澤 井 敏 治</p> <p>奈 良 居 谷 真 理 子</p> <p>鳥 取 齊 尾 くに こ</p>	<p>奈 良 小 林 す み え</p> <p>兵 庫 山 田 耕 治</p> <p>大 阪 中 山 春 代</p> <p>奈 良 居 谷 真 理 子</p>	<p>桑 原 道 夫 選</p> <p>帰ります栗きんとんな声出して 愛していると最後に言えた腹話術</p>
		<p>青 森 守 田 啓 子</p> <p>青 森 佐 藤 雅 秀</p> <p>佐 賀 真 島 久 美 子</p> <p>青 森 守 田 啓 子</p>

# 声

## 広瀬 ちえみ 選

蜂蜜をなめてきれいな声をだす

地声です内緒話はできません

アカイ声出している方が弟

声だけはいつも元気な私です

糸屑がついていきますと話しかけ

虐待の声だとみんな知っていた

優しい人だ大事なところで嘔む

誰かの耳に届くようにと声を出す

声静かみんな聞き耳立てている

ひとりでも「いただきます」と声を出す

ワクチンを打ちましたかがご挨拶

片隅の声も拾ってくださいな

アルバムをどつと飛びだす笑い声

大声でコロナの馬鹿と叫びたい

興奮しキムチのような声を出す

詩織さんひとりの声が波となり

本丸が遠くて声が届かない

大阪 酒井 紀華

大阪 岡田 恵子

石川 新保 芳明

兵庫 北澤 稠民

香川 大高 正和

徳島 小畑 定弘

広島 小島 蘭幸

鳥取 政岡日枝子

大阪 藤井 康信

愛媛 鎌田 昌子

大阪 内藤 憲彦

和歌山 木本 朱夏

大阪 中山 春代

大阪 上西 啓仁

大阪 久保田清美

大阪 西野 敏美

鳥根 山根 雪代

ひよつとことおかめで交わす笑い声  
キレイだね孤独なんだね聴かせるね

戦争いやの声を包んで紙の鶴

左右からやさしい声が手が届く

豆乳をしぼりだすよな声が好き

雪しんしん太郎次郎の寝言聞く

弁解へだからなあーに妻の声

国民の声が小さくなってきた

幸せな声だと思うウグイスよ

AIが愛国論を語りだす

受け入れた声だと分かる電話口

まあきれいと言われて笑う満月

まっすぐに言けと塩味利いた声

ポケットも声もおもわず裏返す

春がくるから発声のアイウエオ

端っこで武人埴輪のひとり言

アカイ声彼の渾名はラッパ君

思いっきり声に出したいバカヤロウ

フクシマの風にまぎれている呻き

今日の死者数今日の人出と同じ声

束になり声なき声がうねり出す

行つてきます鏡に声をかけて出る

広島 常國 喜好

愛知 三好 光明

大阪 穂山 常男

広島 中野 妙子

岡山 大石 洋子

兵庫 岸田 万彩

岡山 市田 鶴邨

大阪 柿花 和夫

広島 岩本 笑子

愛媛 松木 慎吾

鳥取 大羽 雄大

和歌山 小谷 小雪

奈良 居谷真理子

愛媛 田中 なお

大阪 荻野 浩子

大阪 森井 克子

千葉 勝又 康之

兵庫 平松 直樹

愛知 佐藤ちなみ

鳥取 斉尾くにこ

兵庫 山口 光久

京都 荒木 康博

宣誓の球児に見合う空の青

ああ息子たまには電話しておくれ

右耳が社長の声を聞き流す

粗熱を取って行儀のよい本音

朝一番声出して見る洗面所

鈴を振る声でヘルパーさんが来る

音読っていいな平家物語

怪しい電話怪しい声でお断り

また娘と間違えられた電話口

中三が別にと声を出してくれ

デデッポを背負って帰る父無音

軍列が明るい声を踏んでゆく

国境からある日砲声銃声が

プーチンに世界の声が届かない

あの世からいろんな声が降ってくる

「オユガワキマシタ」はいはいと返事する

それにしてもそっくりな声だった

そこここに芽吹く小さな春の声

不確かな春の耳にもホーホケキョ

無機質な受け答えですテレワーク

Iターンじんわり融かす温い声  
わたくしを呼ぶトンネルの向こうから

兵庫 清水久美子

奈良 林 ともこ

岡山 折鶴 翔

愛媛 山内もところ

鳥取 橋谷 静江

埼玉 渡辺 梢

奈良 小林すみえ

奈良 山下じゅん子

香川 藤野 さき

兵庫 山田 耕治

青森 滋野 さち

愛媛 高市すみこ

大阪 小川 佳恵

鳥取 中井 孝子

広島 羽城 裕子

愛媛 柳田かおる

兵庫 中岡千代美

愛知 猫田千恵子

奈良 安土 理恵

大阪 美馬りゅうこ

岡山 清水 克俊  
兵庫 小山 紀乃

鶴になる時の取つときのファルセット

いい声ね顔は好みでないけれど

自動ドア声を掛けても開かない

声をあげなければ山は動かない

ノウオーの声が地球にこだまする

風呂場から生きているぞと咳払い

ソプラノで舞うのねタンポポの綿毛

幾重にも包んだ声を母は読む

マスク越しに梅よと妻の声弾む

ベテランの重いひと言みな黙る

留守電に入った声は中止の声

カセットの中に棲んでる僕がいる

声かかるところは素直にお受けする

はしゃぎ声聞こえる春の種袋

爆笑の渦に混じっている孤独

アンドロイドひばりの声で佐渡情話

つり橋を渡れば聴ける国なまり

地球儀のどこからもせぬ笑い声

AIの声人間をよく回す

浅漬の小蕪独りの音で囁む

リモートで聞く単身のパパの声  
長崎の鐘ナガサキの呻き声

大阪 井上 一筒

奈良 小林すみれ

愛媛 花岡 順子

兵庫 緒方美津子

奈良 菱木 誠

佐賀 坂本 蜂朗

愛媛 大内せつ子

大阪 森田 旅人

大阪 水野 黒兔

奈良 谷川 憲

大阪 川口 明

青森 稲見 則彦

兵庫 山内 迪

広島 田辺与志魚

大阪 太田扶美代

大阪 原田 正士

奈良 饗庭 風鈴

愛知 小出 順子

茨城 佐瀬 貴子

兵庫 野口真桜子

大阪 澤井 敏治  
大阪 増原 文子

反核の声を上げない被爆国  
 仏間から田んぼ売るなの声がする  
 せえのーが聞こえる白鳥の渡り  
 その声に会いたいラインナップする  
 母さんと声掛けたのが最後です  
 叱られた記憶しか無い父の声  
 ポーイソプラノ卒業したんだよママ  
 少女Aの声なき声が聞きとれぬ  
 受話器から笑顔が見える話し声  
 産声に神が緞帳揚げました  
 ひと言も声出さぬまま家路つく  
 アレクサに内緒話を聞き取られ  
 誰にでも声をかけたい一人旅  
 声聞けばテストの結果すぐ解る  
 声にすればしどろもどろになる思い  
 赤い実を食べた小鳥の艶  
 ピチャピチャッ小さな小さな春の声  
 梅一輪声を発して開花する  
 SDGs 小さな声に追肥する  
 シュプレヒコールから革命は始まった  
 声出せば刑務所が待つ国がある  
 銃口が自由な意見ねじ伏せる

埼玉 中島 通則  
 兵庫 九村 義徳  
 大阪 岸井ふさゑ  
 大阪 神田 良子  
 大阪 川端日出夫  
 兵庫 多田 雅尚  
 北海道 浪越 靖政  
 奈良 米田 恭昌  
 大阪 齋藤奈津子  
 鳥取 倉益 一瑤  
 兵庫 羽奈 和子  
 大阪 渡辺たかき  
 和歌山 三宅 保州  
 京都 北野クニオ  
 奈良 松本 柁子  
 広島 小川 道子  
 青森 白戸まつ子  
 広島 塩谷 邦子  
 石川 宮田喜美子  
 愛媛 栗田 忠士  
 富山 伴 よしお  
 兵庫 谷口 修平

時を待つマーブルチョコの声がわり  
 時々は想いと言葉がすれちがう  
 ちよつと微妙声が若いと褒められる  
 古傷のささやき声が纏い付く  
 初めまして最上級の声を出す

秀句

聞いたふりしたり聞こえぬふりしたり  
 爽やかな声だ裏返してみよう  
 声聞けばだいたい事わかります  
 悪魔の声どうぞケーキをもう一つ  
 ほくだけに聞こえる声で亀の鳴く  
 ミニトマト声を掛ければ赤くなる  
 ラジオ向きですぬきれいな声ですぬ  
 煙草などお止めなさいと穴が言う  
 のど元を過ぎるとドラえもんの青  
 着ごこちのいいシャツみたい君の声

特選

鳥取 大前 安子  
 兵庫 米田 雅子  
 大阪 穂口 正子  
 兵庫 村松 久江  
 兵庫 米田利恵子  
 大阪 高杉 力  
 兵庫 青木 公輔  
 兵庫 近兼 敦子  
 大阪 貝塚 正子  
 岡山 丹下 凱夫  
 青森 瀧尻 善英  
 静岡 佐藤 清泉  
 岡山 高橋由紀女  
 青森 須藤しのすけ  
 大阪 助川 和美  
 青森 守田 啓子  
 佐賀 真島久美子

軸吟

帰ります栗きんとんな声出して  
 傾いていないか話しかけてみる  
 ふわふわのふわ子の歌で朝になる

# 声

葉原道夫選

大声でコロナの馬鹿と叫びたい

ワクチンを打ちましたかがご挨拶

マスク生活か細い声になつてくる

頑張れの声ありがたし煩わし

一人者植木鉢にも声を掛け

本丸が遠くて声が届かない

逸早く春の声聞く花粉症

呼名の稽古大声でしています

風呂のなか自分の声に酔っている

ガナリ声本人だけは得意顔

ゴシップを振り撒くご近所のオウム

トンボ追う声ふるさとに置いてきた

夢の中声を出さない亡妻がいる

あの世からいろんな声が降ってくる

家中を黙らせる妻の一声

鶴の一声残雪を突き破る

内緒ではないらしい大きな声だ

大阪 上西 啓仁

大阪 内藤 憲彦

大阪 藤村 亜成

兵庫 こやまひろこ

大阪 青木 隆一

島根 山根 雪代

佐賀 坂本 蜂朗

広島 村上 和子

大阪 南 たか子

兵庫 澤 良兼

広島 鴨田 昭紀

愛媛 栗田 忠士

兵庫 大西 重男

広島 羽城 裕子

広島 半田 知弘

大阪 太田 昭

福岡 坂本 弘子

子等の声消えたブランコ風にゆれ

くだ巻いているのではない民の声

初めまして最上級の声を出す

やさしい声きつとやさしい人だろう

平和だなあ優しい声でお茶が出る

魅力ある声してるのに話下手

声にしてみなければ叶わない夢

聞きたくもない声が背を押してくれ

声優の顔と声とが一致せず

吹き替えの声優かわり馴染めない

マリア・カラスが聞きたくなつて春はそこ

四季の声キヤツチしている庭の木々

氷柱を踏めば地球の音がする

声だけはいつも元気な私です

野心たっぷりスイートピーの甘い声

着ごこちのいいシャツみたい君の声

透明な声をしてそう雪女

情熱のフラメンコ赤歌い切る

赤い実を食べた小鳥の声の艶

雑草の音が迎える無人駅

大声で第九歌える日の平和

ポケットも声もおもわず裏返す

兵庫 永田 紀惠

兵庫 奥澤洋次郎

兵庫 米田利恵子

鳥取 岸本 宏章

大分 高木 遊楽

大阪 安田 忠子

兵庫 西 美和子

奈良 高橋 敬子

兵庫 住吉美和子

三重 北田のりこ

大阪 西出 楓楽

鳥取 伊塚美枝子

愛媛 正岡 鏡花

兵庫 北澤 稠民

愛媛 大葉美千代

大阪 助川 和美

愛知 小出 順子

岡山 丸山 威青

広島 小川 道子

愛知 位田 仁美

大阪 山野 寿之

愛媛 田中 なお

音読っていいな 平家物語

声かかることは素直にお受けする

ムンクの叫びだあれも聞いた事がない

愚痴を言う時の声だけ遅しい

恨み節フルコーラスで聞かされる

七色の声より笑い声が好き

笑い声万能薬と信じてる

弾む声百歳までのスケジュール

ただいまで今日の一日分かる母

いい日だなあ暮らしの聲がはせている

竹割ったようだと言われるが無策

箸置いて男小声で話します

肝心なところは小声で早口で

聞き取れぬ声で確かにありますが

最終章呱呱の声でもあげようか

声帯にも老いが溜まってきたようだ

声に覇気あると案じてくれる医者

病室のなぜか気になる医師の私語

ちよっと微妙声が若いと褒められる

バアサンなのに声だけ若いのも困る

呼び声で家族が見える電話口

デカイ声出している方が弟

奈良 小林すみえ

兵庫 山内 迪

鳥取 倉益 一瑤

大阪 榎本 舞夢

北海道 浪越 靖政

大阪 原田すみ子

大阪 岩崎 玲子

愛知 佐藤ちなみ

兵庫 能勢 利子

大阪 森井 克子

青森 高瀬 霜石

兵庫 上野多恵子

広島 山本 恵子

兵庫 瀬島流れ星

青森 稲見 則彦

和歌山 木本 朱夏

大阪 上田 陽子

大阪 年梅 道子

大阪 穂口 正子

京都 山田 葉子

大阪 原 洋志

石川 新保 芳明

また娘と間違えられた電話口

受け入れた声だと分かる電話口

声の無い留守電きつと母だろう

留守電に他人行儀な妻の声

留守電から流れる文語調の声

洩れてくる声試されているようだ

賑やかな声はわたしの見栄である

春の恋猫撫で声でやって来る

鈴を振る声でヘルパーさんが来る

介護食ひと匙ごとに話しかけ

のど元を過ぎるとドラえもんの青

七色の声で迷路をつくってる

声変わりしたのにキーは高いまま

逡巡を知った変声期のころ

電子レンジもこの頃声を出すのです

「オユガワキマシタ」はいはいと返事する

夫との会話笑顔もエコモード

テレバシー使えなくって妻を呼ぶ

「ありがとう」のパワーがすごい日本語

誰にでもありがとうねと言う老婆

いい声で呼ばれいい返事を返す

行つてきます鏡に声をかけて出る

香川 藤野 さき

鳥取 大羽 雄大

鳥根 伊藤 寿美

大阪 今村 和男

奈良 大久保眞澄

奈良 太田のりこ

大阪 太田扶美代

東京 伊藤三十六

埼玉 渡辺 梢

大阪 太田 省三

青森 須藤しんのすけ

青森 北山まみどり

大阪 川口 明

兵庫 山田美春日

大阪 きとうこみつ

愛媛 柳田かおる

兵庫 米田 雅子

香川 大高 正和

和歌山 柏原 夕胡

愛知 八甲田さゆり

三重 広森多美子

京都 荒木 康博

独り居の声かけ合つて寒牡丹

はしゃぎ声聞こえる春の種袋

幼子に聞こえるらしい花の声

ばあばが言つてると孫に威される

最寄り駅いつもの声がある安堵

原点に戻り山河の声を聞く

山上の声を真摯に聞いている

古道行く大樹も石も声を持つ

わたくしを呼ぶトンネルの向こうから

声を出す前にカボチャの馬車が着く

マスク越しに梅よと妻の声弾む

しゃがれても母の言葉は丸かった

もう米寿なのに不気味な声変わり

今日の死者数今日の人出と同じ声

空箱に心の声を詰めてゆく

ミニトマト声を掛ければ赤くなる

ひよつとことおかめで交わす笑い声

泣き声が身の丈こえる赤ん坊

春がくるから発声のアイウエオ

空腹か恋か喧嘩か鳥の声

負けるなの声へ負けそうだと気付く

飲みさしのグラスの底に父の声

和歌山 倉橋 悦子

広島 田辺与志魚

大阪 渡辺たかき

香川 川西 義仁

大阪 島田千鶴子

奈良 渡辺 富子

高知 辻内 次根

大阪 山本希久子

兵庫 小山 紀乃

青森 野沢 省悟

大阪 水野 黒兎

和歌山 まつもとこ

大阪 藤井 則彦

鳥取 斉尾くにこ

兵庫 村松 久江

青森 瀧尻 善英

広島 常國 喜好

富山 伴 よしお

大阪 荻野 浩子

大阪 松岡 篤

佐賀 真島久美子

兵庫 稲角 優子

天国でまだ我儘な父の声

流れ星声はとつてもストリート

呼び声のそのイントネーションが愛

合唱祭桜ふぶきになつてゐる

AIが愛国論を語りだす

秀句

国民の声が小さくなつてきた

声高に正当性を吐く兵器

産声は未知の世界へまっしぐら

まあきれいと言われて笑う満月

あの声は私の好きな冬木立

アルバムをどつと飛びだす笑い声

無欲にはなれない声のオクターブ

朝一番声出して見る洗面所

ご破算のざわめき五百羅漢より

神様には人もけものも同じ声

特選

愛してると最後に言えた腹話術

帰ります栗きんとんな声出して

軸吟

運河からたしかに声がしたような

徳島 小畑 定弘

鳥取 木天 麦青

青森 三浦 幸子

奈良 西澤 知子

愛媛 松木 慎吾

大阪 柿花 和夫

岡山 清水 克俊

青森 千葉かほる

和歌山 小谷 小雪

三重 奥田 悦生

大阪 中山 春代

広島 大木 彦翁

鳥取 橋谷 静江

愛媛 高市すみこ

奈良 大西 將文

青森 佐藤 雅秀

青森 守田 啓子



# 軽 い

濱山哲也選

コロナかと脳裏かすめた軽い風邪  
 年金ぐらし軽いジョークもお慰め  
 核ボタン鞆に入る軽さかな  
 社長以下ペコリ軽い謝罪の囃  
 コミックで歴史も軽く現代っ子  
 一寸した浮気で家族バラバラに  
 軽いノリで引き受けたけど酸欠に  
 軽口がほんの小さな種を吐く  
 「だいじょうぶ」ころがちよつと軽くなる  
 寒風が軽く誘う縄のれん  
 思い切り泣けば半分軽くなる  
 副反応なければないでちと不安  
 安請け合いまちぶせしてる蟻地獄  
 初対面乗りの軽さで響き合う  
 子宮取るその分軽くなつたはず  
 検討をしますと軽く言う役所  
 懸賞で妙案いかがが軽石の

大阪 宇都満知子  
 和歌山 三枝眞智子  
 広島 新庄 芳春  
 大阪 徳山みつこ  
 広島 松尾 信彦  
 兵庫 太田としお  
 奈良 山下じゅん子  
 鳥取 倉益 一瑤  
 愛媛 岡山フジエ  
 愛媛 安野かか志  
 和歌山 川上 大輪  
 大阪 島田 明美  
 富山 伴 よしお  
 大分 高木 遊楽  
 愛知 小松くみ子  
 兵庫 堀 正和  
 兵庫 新阜 義明

若者が持つと荷物が軽く見え  
 傀儡は軽い右向く左向く  
 リットイート醜く太る軽い嘘  
 紙ヒコウキがふわりと飛んだ今日の青  
 古椅子は窓辺で軽くアクをぬく  
 万札がどうにも軽い年の暮れ  
 病む妻に誠心誠意軽いいうそ  
 軽度だと聞いてはいたが訃報欄  
 あわてるなこの世は広い気軽にね  
 昼の月薄くて軽い浮気性  
 逆立ちであつさり地球持ち上げる  
 持家が邪魔で気軽に引つ越せぬ  
 夢を見る女の好きなイチゴパフェ  
 何にでも超つけ言葉軽くなる  
 スマホ上手博識だとは言われない  
 スマホ上手博識だとは言われない  
 鶏がふわつと垣根こえて春  
 訃報にも軽重がある世の習い  
 断捨離後心身共に浮く余生  
 蚊一匹軽く見られてる命  
 軽いのを重そうに持つ処世術  
 SNSを軽く使つて痛い目に  
 軽くなる脳を補充に本屋まで

大阪 田中そうや  
 鳥取 森山 盛桜  
 兵庫 萩原 狸月  
 愛媛 大内せつ子  
 鳥取 狭武 紫陽  
 鳥取 門村 幸子  
 宮城 大久保もとじ  
 愛知 西郷紀美代  
 大阪 池田 武彦  
 三重 青砥たかこ  
 北海道 三浦 強一  
 大阪 助川 和美  
 愛媛 永井 松柏  
 大阪 次井 義泰  
 香川 川西 義仁  
 岐阜 喜多村正儀  
 佐賀 仁部 四郎  
 宮城 太田 良喜  
 和歌山 柏原 夕胡  
 奈良 山田 順啓  
 愛知 山本三樹夫  
 鳥根 岸 桂子

だまされたげる好きな貴方の軽い嘘

兵庫 敏森 廣光

趣味ならば自ずと腰が軽くなる

大阪 水野 黒兎

無差別殺人ひとの命が軽すぎる

奈良 米田 恭昌

小包の軽さ母心の重さ

和歌山 小谷 小雪

死にたいと軽く言うなど閻魔様

大阪 島田千鶴子

騙されてみたいあなたの軽い嘘

香川 大高 正和

進化した冬着軽くて暖かい

三重 戴 けいこ

エンディングノートを書いて風を待つ

鳥取 竹村紀の治

グルメではないがうまいものは好きだ

青森 高瀬 霜石

重要な事ほど軽く言う息子

大阪 青木 隆一

寂聴尼の軽い法話が沁みてる

大阪 吉村久仁雄

風向きで非正規の首軽く切る

北海道 東 考矢

はらはらと男の嘘へ花吹雪

奈良 渡辺 富子

軽妙に場を和ませる年の功

大阪 渡辺 晶子

一割負担ちよっと隣の診療所

奈良 長谷川崇明

気まずい場軽いジョークの助け船

広島 安部 敦子

三度目のワクチン済んだ帰り道

奈良 大内 朝子

味付けに軽味を効かす一行詩

埼玉 中島 通則

四回転ダブルコークが宙を舞う

大阪 鈴木いさお

茶呑みでも軽い噂になった恋

徳島 小畑 定弘

軽率な同意あなたも共犯者

兵庫 こやまひろこ

軽口を叩き許され今がある

大阪 青木ゆきみ

負けん気の強い百円ポリバケツ

兵庫 上野多恵子

クーデター命の軽視許されぬ

福島 柳沼 幸三

糖質ゼロそんなおひとと飲んでいる

大阪 美馬りゅうこ

子は外車親は軽四畑仕事

愛知 沢田 正司

バナナだねって軽く肩撫でられる

青森 守田 啓子

里の駅心も軽くクラス会

大阪 原 幸子

愚痴小言少し軽めに塩コショウ

大阪 今井万紗子

高速道ポップス聞いて墓参り

兵庫 富永 恭子

ライバルへ軽い嫉妬でおめでとう

兵庫 北野 哲男

用件の前には軽い話から

愛媛 花岡 順子

弥勒菩薩の笑みがふんわり身を包む

奈良 澤山よう子

主人とは別れましたの身軽です

奈良 小林すみれ

軽いけどなくてはならぬ役回り

愛知 高浜 広川

里帰り土産がわりに軽い嘘

大阪 柿花 和夫

もう二度とはんこは押さぬ軽はずみ

大阪 佐々木満作

挙げた手はどれも浮薄な多数決

青森 瀧尻 善英

パフォーマンスばかりが目立つ軽い奴

神奈川 加藤 佳子

この恩は忘れませんと軽い口

愛知 八甲田さゆり

百グラム増えた減ったと泣き笑い

大阪 西野 敏美

潤滑油少少混ぜて軽い嘘

大阪 横山 里子

お笑いのタレントばかりテレビ界

大阪 江島谷勝弘

町内会みんなを沸かす軽い乗り

鳥取 副井ゆたか

軽いハグさえもしてくれなくなつた  
 軽い人イヤ重たい人はもつとイヤ  
 トリアージ自宅待機へ戻される  
 身に刺さる他人の軽い冗談が  
 五線譜を飛び跳ねている定年後  
 ありのまま見ていただいて気が軽い  
 ひよいひよいとつまんだ星と酒を酌む  
 思いきり短髪にしてニューハーフ  
 年取つた軽い約束しか出来ぬ  
 戦闘機より紙飛行機が好きだ  
 軽い日おもしろい日腰の具合で青い空  
 約束の軽さ泥舟かも知れぬ  
 暮敵が軽いジョークで雨の午後  
 夕陽より朝日は度外れに軽い  
 幸せな証拠にいびきまで軽い  
 お気軽な結婚修羅となる離婚  
 日捲りの軽さよ凡人のいろは  
 金魚の死かると言わないで  
 お世辞でもいいさふんわり軽くなる  
 学歴の軽さにのせる漬物石  
 タッチは軽いが風刺画のストレート  
 時どきは軽く夫の手に触れる

兵庫 中岡千代美  
 兵庫 荒牧 孝子  
 大阪 丹後屋 肇  
 兵庫 丸山 孔一  
 岡山 藤井 智史  
 大阪 太田扶美代  
 愛媛 高市すみこ  
 愛知 橋本 律雄  
 香川 藤本ゆたか  
 大阪 森井 克子  
 兵庫 輿水 弘  
 大阪 小川賀世子  
 岡山 大杉 敏夫  
 石川 新保 芳明  
 三重 橋倉久美子  
 大阪 岡野 圭  
 大阪 山岡富美子  
 和歌山 木本 朱夏  
 鳥取 木天 麦青  
 青森 千葉かほる  
 広島 若山 宗彦  
 愛知 小出 順子

ブランコを軽くゆらして迎え待つ  
 意地がある軽自動車に注連飾  
 女ひとり軽い気持で罪ひとつ  
 四十九日済ませてほつとスニーカー  
 存在が日に日に軽くなる私

秀句

避難所へピクニックへと紙コップ  
 オミクロン軽い噂も連れてくる  
 ありかもね君との余生メタパース  
 阿波踊り老若男女みな軽い  
 角とれた自分がなんか軽く見え  
 ちよい漏れは誰でもあるよ言わぬだけ  
 認諾で終わらせちゃつてふざけんな  
 財布から消えたがるのはあぶく銭  
 子育ても親の看取りも終えまじた  
 あの人のアロハと同じ柄のブラ  
 天国へは手ぶらでまいるつもりです  
 風が来てひよいと私を裏返す

特選

軸吟

兵庫 江尻 房子  
 鳥取 成田 雨奇  
 大阪 小山恵美子  
 愛知 三好 光明  
 兵庫 北澤 稠民  
 兵庫 緒方美津子  
 青森 古木 ひろ  
 奈良 稲葉 良岩  
 大阪 船見 憲央  
 大阪 久保田清美  
 兵庫 住吉美和子  
 秋田 田村美穂子  
 大阪 渡辺たかき  
 大阪 杉山フジ子  
 青森 須藤しんのすけ  
 兵庫 山田 耕治  
 奈良 小林すみえ

軽 い

大久保 眞 澄 選

まな板に軽い音符の朝が来た

鶏がふわっと垣根こえて春

やわらかい日射しが老いを毬にする

思い出をフワリフワリと追っている

綿毛ふわり亡妻へ伝言たのんだぞ

前髪をパツツン恋を始めます

しがらみを脱ぐと心は無重力

身ひとつで行きますスマホだけ持って

履歴書はスマホ面接オンライン

介護終え軽い背中て飛ぶ宇宙

五線譜を飛び跳ねている定年後

物欲もメンツも捨てて軽く跳ぶ

糸切れた風船ですよ私は

暫くは飛んでいたいという綿毛

風船に任したまでは良かったが

新しい風に夢中の僕の風

八月の空に軽口叩けない

兵庫 藤村とうそん

岐阜 喜多村正儀

大阪 小川賀世子

鳥取 牧野 芳光

青森 辻口風来坊

青森 須藤しのすけ

北海道 青柳 忠

大阪 片岡 加代

大阪 美馬りゆうこ

大阪 森田 旅人

岡山 藤井 智史

鳥取 新家 完司

兵庫 小脇ゆう子

愛媛 郷田 みや

兵庫 青木 公輔

大阪 中村 恵

兵庫 緒方美津子

赤紙と命交換した昭和

出征兵戻りは軽い遺骨箱

まだ戦火あつて平和を軽くする

核ボタン靴に入る軽さかな

ワクチンの指示もできない軽い首

遺憾です口癖ですか議員さま

検討をしますと軽く言う役所

軽口を叩き合つてる民主主義

民衆の知恵軽くなつたな資本主義

地位協定ウイルス様のお通りだ

本土並み公約反故の半世紀

人口減だんだん軽くなる日本

お手軽な硬貨募金の大ピンチ

軽過ぎる刑に身悶えする遺族

軽石はちゃらんぼらんと波まかせ

この地球手玉に取つているコロナ

オミクロン軽いジャブだが効いている

自主療養軽い命になつている

トリアージ自宅待機へ戻される

ジャンプ台一直線の風になる

四回転ダブルコークが宙を舞う

初対面軽く尻尾を振つておく

岡山 藤澤 照代

大阪 柿花 和夫

広島 笹重 耕三

広島 新庄 芳春

徳島 小畑 定弘

青森 三浦 清雪

兵庫 堀 正和

兵庫 福田 正彦

兵庫 笥 靖夫

秋田 田村美穂子

大阪 太田 省三

大阪 前原 正美

愛知 三好 光明

和歌山 西川 千鶴

鳥取 斉尾くにこ

愛媛 古手川 光

岡山 清水 克俊

大阪 岩佐ダン吉

大阪 丹後屋 肇

愛媛 黒田 茂代

大阪 鈴木いさお

大阪 高杉 力

舌二枚と尻尾で軽く生きてゆく  
 軽く見た世間に肘鉄を喰らう  
 人間をベットに飽きたので捨てた  
 ご意見は重く受けると軽く言う  
 ひと息で消せるウソなら許しましよ  
 「だいじょうぶ」ころがちよつと軽くなる  
 なんの根拠もなしに言う大丈夫  
 「よう」なんて気軽に声を掛ける仲  
 言い訳と花束軽い男だな  
 自信つく助言空氣が軽くなる  
 ありのまま見ていただいて気が軽い  
 手がかかるだけなら病氣付き合える  
 軽いハグさえもしてくれなくなつた  
 肝っ玉かあさん足取りはワルツ  
 カナ文字の軽さ遊びに行くように  
 当りくじ軽い小さい役もらう  
 ライバルに投げる浮き輪に穴がある  
 お気軽な結婚修羅となる離婚  
 懐が軽いと腹の虫が鳴く  
 泣きながらお腹へつたななんて君  
 取り敢えず並ぶみんなが並ぶから  
 強面を軽くいなした河内弁

大阪 西出 楓楽  
 広島 鴨田 昭紀  
 青森 佐藤 雅秀  
 兵庫 羽奈 和子  
 愛媛 田中 なお  
 愛媛 岡山フジエ  
 奈良 山田 恭正  
 広島 岸本 清  
 大阪 栃尾 奏子  
 大阪 藤村 亜成  
 大阪 太田扶美代  
 京都 山田 葉子  
 兵庫 中岡千代美  
 岡山 永見 心咲  
 茨城 櫻村 日華  
 奈良 米田 恭昌  
 兵庫 谷口 修平  
 大阪 岡野 圭  
 広島 大木 彦翁  
 兵庫 上田ひとみ  
 奈良 小林すみえ  
 大阪 岡田 恵子

軽トラが一番偉い村の道  
 父の軽トラ待っていそうな無人駅  
 軽トラ一つで爺ちゃん家出する  
 ダイエット地球を軽くするために  
 体重を測ってみたい無重力  
 妻とシーソー僕が上がつたままになる  
 軽口を叩くことないセルフレジ  
 すぐ破る約束本日3つする  
 割箸を重しに待ったカップ麺  
 クシヤミする度に入れ歯が浮き上がる  
 お気軽な噂を酒がふくらます  
 酒三合何でも喋る軽い口  
 飲み会に尻尾振り振りついてゆく  
 軽く一杯これで何回しくじつた  
 軽やかな舌が転がす下手な嘘  
 軽薄は代々家系悪しからず  
 ヘッチャラだ母の肩の荷軽くする  
 軽い言葉見抜けず今も横に居る  
 軽々しい口に絆創膏を貼る  
 マスクして慎んでいる軽い口  
 軽すぎる口で拡散ゴミ出し日  
 軽い口内緒話が村廻る

広島 田辺与志魚  
 大阪 島田 明美  
 北海道 浪越 靖政  
 青森 野沢 省悟  
 兵庫 大北 良裕  
 大阪 片山かずお  
 鳥取 池田 美穂  
 大阪 井上 一筒  
 大阪 東 敏郎  
 兵庫 長川 哲夫  
 奈良 菱木 誠  
 兵庫 斎藤 隆浩  
 大阪 中井 佳子  
 兵庫 梅澤 盛夫  
 大阪 小野 雅美  
 青森 稲見 則彦  
 島根 加本 精一  
 愛知 八甲田さゆり  
 大阪 太田 昭  
 香川 藤野 さき  
 奈良 小林 和之  
 大阪 柿花 順子

長い尾を引くうつつかりの軽い口  
 自尊心軽くゆすぶるほめことば  
 軽口に道間違つた運不運  
 行く末を軽い頭が思案する  
 この先の思案に飛ばすシャボン玉  
 消去法ばかりで軽い舟に乗る  
 責任も靴も軽目が好きになる  
 ピーマンの軽さになつてゆく脳だ  
 存在が日に日に軽くなる私  
 幽霊になれる体になつて来た  
 吹けば飛ぶような男と思えども  
 長生きにだんだん財布軽くなる  
 年金の軽さへ手懐ける生命  
 ふた月を吹けば飛ぶよな年金で  
 この世には金も未練も無い軽さ  
 夢の序でに三途の川の下見する  
 自分史は軽いジョークでしめくくる  
 タンポポの綿毛のように逝きたいね  
 その時は軽くじゃあねと逝つてやる  
 天国へは手ぶらでまいるつもりです  
 略称にしましよ私の墓碑銘は  
 よろめいた父の軽さに声を吞む

奈良 安土 理恵  
 愛知 位田 仁美  
 奈良 宇賀 史郎  
 鳥取 川口 亜矢  
 埼玉 渡辺 梢  
 奈良 池田みほ子  
 青森 古木 ひろ  
 鳥取 倉益 一瑤  
 兵庫 北澤 稠民  
 兵庫 北野 哲男  
 佐賀 真島美智子  
 和歌山 北原 昭枝  
 岡山 市田 鶴枝  
 千葉 山崎 智  
 大阪 出口セツ子  
 秋田 伊藤のぶよし  
 奈良 渡辺 富子  
 広島 村上 和子  
 兵庫 こやまひろこ  
 兵庫 山田 耕治  
 愛媛 高市すみこ  
 広島 半田 知弘

お姫様抱っこをせがむ母になる  
 軽くなりました火葬場から煙  
 恐かったオヤジの軽すぎる遺影  
 散骨の父の軽さを抱きしめる  
 軽すぎる箸でつまめる母の骨

秀句

一円貨にとつても重い手数料  
 軽いものなどないさ ひとつの命  
 ポテトチップスかるい悩みをかみ砕く  
 挙げた手はどれも浮薄な多数決  
 戦闘機より紙飛行機が好きだ  
 傀儡は軽い右向く左向く  
 あとひとり雲に乗れます手を挙げて  
 重鎮のたつた2&喪のハガキ  
 病室へ控えた音の救急車  
 初恋は軽い会釈ですれ違う

特選

生ききつて死にきつてこの軽い骨  
 次の世は紋白蝶になるからね

軸吟

経済を思えば命など軽い

大阪 谷口 東風  
 大阪 荻野 浩子  
 大阪 くんじろう  
 青森 佐藤寿見子  
 鳥取 前田 楓花  
 宮城 木田比呂朗  
 静岡 佐藤 清泉  
 和歌山 木本 朱夏  
 青森 瀧尻 善英  
 大阪 森井 克子  
 鳥取 森山 盛桜  
 愛知 青砥 和子  
 大阪 原田 正士  
 愛知 小松くみ子  
 大阪 桑原すゝ代  
 奈良 居谷真理子  
 大阪 中山 春代

# 自由吟

大西泰世選

この冬も乗り越えたぞよ梅便り  
駅ピアノ遠慮しがちに得意げに  
わたくしの月を隠したウロコ雲  
散ってゆく様を見届けよと桜  
訃報欄見ている生きている証  
噂にもならぬ処で生きています  
神様とやらに頼んでみるか…春  
こんなにも自由花野に来てしまふ  
ワクチンはもう打ったのか雪ダルマ  
記憶から君が消えない罰ゲーム  
今日限りセールのちらし春の風  
納豆を大好きという生き上手  
冒険は終わりましたと茶を啜る  
少しづつ日の出が早くなるうれし  
失恋を氣遣うように通り雨  
品格の格から壊れてゆくような  
昼の月自問自答を繰り返す

宮城 大久保もとじ  
奈良 長谷川崇明  
大阪 折田あきこ  
福岡 もりともみち  
北海道 浪越 靖政  
大阪 澤田 悦子  
青森 須藤しのすけ  
愛媛 柳田かおる  
和歌山 川上 大輪  
大阪 小野 雅美  
鳥取 大羽 雄大  
大阪 森中恵美子  
愛知 青砥 和子  
大阪 石橋 直子  
愛知 小出 順子  
愛媛 大葉美千代  
奈良 松本 柊子

口笛のうまい男がいた昭和  
若かった無防備だった無知だった  
春の歩幅で独りの道を一人行く  
ふりかざす程でもないが持つ沽券  
食べ残しすると昭和に叱られる  
正解のボタンはきつと海の底  
あの時の淡い空には戻れない  
影をめぐればわたくしがうざくまる  
鍛錬を重ねここぞという一矢  
落ちのないお笑い続くまあるい日  
いい妻になれずハミングしています  
つくづくと敗戦国を引き摺って  
春草の苦みが論す前のめり  
ツッコミとボケ父さんのお弁当  
本籍はここでしたよと露の臺  
背信をピンクに染める花吹雪  
虎落笛ふるさと捨てた胸で鳴る  
地球儀の揺らぎ砲火は突然に  
素に戻り明日の仮面の色を塗る  
晴れ渡る空よスキップしたくなる  
晩学に足らぬ時間が悔やまれる  
全力で虹駆け登り見た景色

大阪 杉山フジ子  
青森 三浦 幸子  
大阪 山本希久子  
大阪 原田すみ子  
広島 鴨田 昭紀  
兵庫 村松 久江  
大阪 渡辺 晶子  
静岡 佐藤 清泉  
兵庫 長島 敏子  
鳥取 前田 楓花  
愛知 佐藤ちなみ  
茨城 樫村 日華  
奈良 稲葉 良岩  
大阪 くんじろう  
岡山 大石 洋子  
奈良 渡辺 富子  
岡山 藤澤 照代  
大阪 山岡富美子  
鳥取 川口 亜矢  
兵庫 富永 恭子  
大阪 長高 俊雄  
奈良 居谷真理子

スキップは飛び立つ日への助走かも

大雪に疲れた後の空の春

私に呪文をかける紅の筆

贅沢な夜だ古里は星が降る

旅好きの鞆のグチも三年目

ブーケトス何も知らずに受け取った

友情はカサゴ恋愛はタチウオ

グリーンのマジック恋の傷癒える

連れ添った長さ阿吽の茶の甘さ

軸足を変えて優しい風を追う

花吹雪そろそろ僕も散る覚悟

自粛中猫もわたしも春炬燵

はつきりと跳ねと止めある母の手話

ベクトルは消えた貴方に向いたまま

立てられた噂まんざらでもないわ

五百円硬貨あたりで古希となる

反省をしているようで主語が無い

沈黙は二人のわかりあう時間

でもでもと今年の雪は真正面

キダチペゴニアとうそぶくまたは泣く

脳みそをやわらかくする日向ほこ

ばあさんと肩寄せ合って自撮り棒

静岡 佐藤 灯人

秋田 齊藤 良青

佐賀 真島美智子

愛媛 西田美恵子

宮城 木田比呂朗

鳥根 梅瀬みちを

大阪 井上 一筒

京都 渡邊真由美

兵庫 江尻 房子

広島 俵 逸子

大阪 吉村久仁雄

和歌山 定松 宏枝

兵庫 横田 次郎

大阪 大島ともこ

奈良 安土 理恵

青森 野沢 省悟

奈良 木嶋 盛隆

兵庫 成定 竹乃

広島 岩本 笑子

青森 守田 啓子

三重 橋倉久美子

広島 岸本 清

シュンシュンと吹雪宥めて吹くやかん

終章はナイスショットで決めたいね

絶品の地酒に会いにゆく切符

泣き羅漢の子たちはみんな樹になった

嬉しさがすぐ顔に出る良い人だ

地吹雪の唸りを借りて黙秘する

自分史に数多涙を拭いた跡

身をよじり解くしがらみあと少し

満開の賑やかさより三分咲き

熟成の樽で溺れた資本主義

元気かとライバルに声掛けられる

ぼつねんとローカル駅舎黄昏れる

優しさを置いてきましたひとり旅

冬の岬いくつさよなら言ったやら

おひさまが笑うなんとかなるだろう

大鍋に煮込む平和の具沢山

切り取り線ここから奮起するつもり

失敗もする人だから握手する

熟成の樽は明日を急がない

加齢かな嫌なタレント増えてきた

つくしんぼ春の準備のスクワット

デジタルの海でわたしは漂流者

青森 三浦 清雪

鳥取 中村 金祥

大阪 片岡 加代

愛媛 高畑 俊正

兵庫 鈴木 新録

青森 成田 我楽

大阪 阿部 俊八

大阪 神田 良子

三重 北田のりこ

愛媛 岡山フジエ

大阪 高杉 力

鳥取 小川健二郎

石川 堀本のりひろ

鳥取 倉益 一瑤

青森 瀧尻 善英

宮城 太田 良喜

青森 稲見 則彦

鳥根 岸 桂子

奈良 菱木 誠

大阪 江島谷勝弘

鳥根 原 徳利

愛媛 永井 松柏



義士祭の各各方もみなマスク

光の春へうすむらさきを身につける

幸せはありふれた日の片隅で

百均に継ぎ足す命ありますか

関節の曲がる方には欲がある

残日の野の花にこそ寄り添って

父の歳早見表から消えている

春風と一緒に抜ける自動ドア

愛だもの煮たり焼いたり炒めたり

図書館で見つけた種に救われる

いいことがありそう蟻の列進る

デスマスクやつと優しい顔になる

できるのは一緒に揺れることぐらい

お祈りのかわりいただきますを言う

朝が来る昨日忘れたふりをして

ゆっくりと眠ってみたい非常口

老いぬれば赤い椿を道連れに

雑巾になってようやく役に立つ

ゆっくりと読まれる幸せな手紙

無灯火でこの世渡っているような

微笑みの欠片がひとつ欲しいだけ

ふるさとに僕を赦した風が吹く

大阪 次井 義泰

千葉 日下部敦世

広島 塩谷 邦子

大阪 石田 孝純

福島 安藤 敏彦

京都 吉本 圭

兵庫 多田 雅尚

三重 青砥たかこ

秋田 伊藤のおよし

青森 北山まみどり

広島 羽城 裕子

兵庫 谷口 修平

奈良 小林すみえ

兵庫 藤井 宏造

大阪 中村 恵

石川 宮田喜美子

和歌山 木本 朱夏

広島 田辺与志魚

愛知 猫田千恵子

茨城 佐瀬 貴子

愛媛 川上ますみ

徳島 小畑 定弘

流されぬ覚悟私の沈下橋

一日の悲喜飲み込んで大落暉

引き出しにまだ弾ませる鞆がある

何度でもやり直し効く朝が来る

風が止む私を試すかのように

秀句

プリズムになって私はただ自由

常温のスノードームに擬似家族

波頭にはいつも勇気が立っている

恋を知り私は春のヴァイオリン

耳元で夜をくすぐる観覧車

モナリザの笑みをマスターできました

断捨離を済ませてからの日向ぼこ

仏より鬼になるのが難しい

マイペース縄文土器に触れてから

風の椅子欲しかったのは何ですか

特選

春帽子ふわりと夢をつかまえる

新刊の匂い蛇穴そそのかす

軸吟

春風のやさしさ少しだけ怖い

高知 清水由紀子

長崎 松本 篤世

大阪 石田ひろ子

埼玉 久保田千代

岡山 市田 鶴邨

兵庫 上田ひとみ

佐賀 真島久美子

大阪 森田 旅人

大阪 栃尾 奏子

島根 石橋 芳山

岡山 永見 心咲

愛媛 浜本 光子

青森 高瀬 霜石

大阪 小川 佳恵

大阪 鈴木 かこ

大阪 澤井 敏治

兵庫 黒田 弥生

# 自由吟

小島蘭 幸選

前向きな人の笑顔はあたたかい

雑踏のひとり付箋となり歩く

懐かしい玉子ボーロと祖母の膝

その時を黙って待っている蕾

酒とろりあの夜の哀がしゃしゃり出る

歳とれば社交辞令も口に出ず

あの友もこの友ももういない故郷だより

コロナ巣籠り光熱費まで攻めてくる

熟成の樽は明日を急がない

加齢かな嫌なタレント増えてきた

若かった無防備だった無知だった

菜を煮れば亡母が居るよな台所

花丸をつけて人生終わらせる

カタカナは重しナガサキヒロシマと

つくしんば春の準備のスクワット

桜咲き 散る三度目のえいぷりる

飛びつきの笑顔が君の宝です

愛媛 黒田 茂代

青森 野沢 省悟

兵庫 富永 恭子

愛媛 郷田 みや

奈良 渡辺 富子

大阪 秀 斧

大阪 宮崎シマ子

愛媛 古手川 光

奈良 菱木 誠

大阪 江島谷勝弘

青森 三浦 幸子

大阪 齋藤奈津子

山口 坂本 加代

大阪 久世 高鷲

島根 原 徳利

福島 安藤 敏彦

兵庫 敏森 廣光

初ヒット我が遣伝子の澁刺と

犬もお座り夕焼けを眺めてる

医療スタッフしっかり御飯食べている

故郷が脚光浴びた偉人伝

黙食を難なく熟す老い二人

ポイントにふり回されていませんか

幸せの同じ匂いの人と棲み

ちまちまに飽きて海鳴り聞きに行く

おひさまが笑うなんとかなるだろう

補聴器を外し本真の声を聴く

ほろ酔いセツトべっぴんさんがいてくれる

蛇口から出る水昨日とは違う

メカ音痴と甘えてばかり居られない

道草も知らずに育つランドセル

ポジティブに生きて八十路の膝痛む

スランプを抜け出す靴に履き替える

人に飢え笑いに飢えて恋に飢え

出生はひょうたん鳥の1番地

虎落笛ふるさと捨てた胸で鳴る

官能を擽るジャズのサクソフォン

傘寿過ぎ友の訃報に驚かず

大根の甘みが冬を深くする

兵庫 萩原 狸月

鳥取 後藤 宏之

大阪 丹後屋 肇

埼玉 根岸 方子

島根 中筋 弘充

大阪 岩佐ダン吉

広島 安部 敦子

愛媛 栗田 忠士

青森 瀧尻 善英

広島 村田 幸夫

奈良 西澤 知子

青森 福士 慕情

大阪 松岡 篤

兵庫 米田利恵子

大阪 松尾美智代

大阪 太田 昭

大阪 横山 里子

青森 成田 我楽

岡山 藤澤 照代

大阪 土田 欣之

広島 小畑 宣之

大阪 石田ひろ子

天国へ続くこの世は仮の宿	大阪 都	武志	純喫茶ソファアに沈む物思い	奈良 饗庭	風鈴
自己嫌悪見知らぬ街に置いてくる	香川 大高	正和	名古屋ですれ違う大阪の豚まん	大阪 立蔵	信子
付かず離れず君とは風のお付き合い	兵庫 穂谷	和郎	眼裏に父と並んだ駅がある	佐賀 真島久美子	
ふるさとに僕を赦した風が吹く	徳島 小畑	定弘	愛だもの煮たり焼いたり炒めたり	秋田 伊藤のぶよし	
食べ残しすると昭和に叱られる	広島 鴨田	昭紀	何度でもやり直し効く朝が来る	埼玉 久保田千代	
冬を待つ机の上に柳誌置く	広島 岩本	笑子	誰でもが魔法にかかる駅ピアノ	愛媛 松木 慎吾	
ピンチにはスパーマンになる夫	兵庫 近兼	敦子	僕にまだ春が届かぬ猫の恋	東京 齊藤由紀子	
肩の荷が下りて寂しい子の育ち	岐阜 喜多村正儀		古着から出てきた真つ新たな慕情	鳥取 森山 盛桜	
寂聴の生き方なぞるおんな色	大阪 中井 佳子		知らぬ間に生きがいになってた介護	兵庫 能勢 利子	
芸人が高学歴を競い合う	大阪 内田志津子		加齢ひねりつぶして踏みつけてみた	北海道 阿部 桜子	
わがいのち絶えても生きてゆくわが血	兵庫 前川 淳		足腰の変化を嘆くガギゲゴ	愛媛 大葉美千代	
好き勝手言うて人生バラダイス	大阪 齋藤さくら		地球儀の揺らぎ砲火は突然に	大阪 山岡富美子	
連れ添った長さ阿吽の茶の甘さ	兵庫 江尻 房子		いい妻になれずハミングしています	愛知 佐藤ちなみ	
学歴など母の前では通じない	大阪 中島 一彌		お似合いの二人を醸し出すワイン	熊本 杉野 羅天	
頼りにはならんが聞くことは出来る	奈良 林 ともこ		思いつきり笑える人と住んでいる	奈良 山下じゅん子	
句仇という生涯の友がいる	北海道 三浦 強一		アクリル板挟んで愛が伝わらず	大阪 岡田 恵子	
落ちのないお笑い続くまあるい日	鳥取 前田 楓花		日本死ねと言わねば政治動かない	東京 宮本彩太郎	
祝電は春のマーチと決めました	大阪 美馬りゅうこ		決心の拳が脈をうつつている	高知 辻内 次根	
もうヤツの暑中見舞いはこない夏	大阪 渡辺たかき		断捨離を済ませてからの日向ぼこ	愛媛 浜本 光子	
母さんはメロンを食べたことがない	大阪 平井美智子		恋を知り私は春のヴァイオリン	大阪 栃尾 奏子	
わが人生イントロだけで終りそう	大阪 西出 楓楽		歯の抜けた口でもさくら餅二つ	兵庫 みぎわはな	
春色のマスクをもらう誕生日	大阪 中山 春代		車椅子畳み沼から立ち上がる	大阪 川端日出夫	

北風は落ち葉を支配下に置いた

無灯火でこの世渡っているような

口笛のうまい男がいた昭和

イエスノーはつきり言つてよく眠り

ときどきは鏡に喝を忘れない

冬の絵に父の一本松がある

ゆつくりと読まれる幸せな手紙

古いぬれば赤い椿を道連れに

亡父に似た僕を嫌いで好きな母

ラビオリに詰め込む謀反のもくろみ

影をめぐればわたしがうづくまる

団塊の世代を生きた運不運

プログラム見事演じた紙オムツ

咳ひとつ電車の中の四面楚歌

波頭にはいつも勇気が立っている

湯豆腐の温さ日本の穏やかさ

起きるのも寝るのも仕方なく独り

ポンカンをむけば芳香剤になる

幸せですと悲しい嘘を聞かされる

デスマスクやっとな優しい顔になる

寒空に行くあてのない救急車

ごめんなさいごめんなさいと生きている

石川 新保 芳明

茨城 佐瀬 貴子

大阪 杉山フジ子

兵庫 堀 正和

青森 北山まみどり

愛媛 永井 松柏

愛知 猫田千恵子

和歌山 木本 朱夏

大阪 井丸 昌紀

鳥根 石橋 芳山

静岡 佐藤 清泉

奈良 山田 順啓

大阪 桑原すゞ代

大阪 廣田 和織

大阪 森田 旅人

鳥取 新家 完司

兵庫 生田 頼夫

大阪 谷口 東風

愛媛 安野かか志

兵庫 谷口 修平

兵庫 村岡 義博

大阪 岸井ふさゑ

笑い袋に涙も少しずつたまる

削ぎ落とす修行が続くエンドレス

終章に読みたい本があるように

断捨離をする体力がありません

貧乏と国が認めた給付金

秀句

戦争を仕掛けた人の暗い顔

一人寝がそろそろ怖い歳になる

今はもう週に五日の休肝日

モナリザの笑みをマスターできました

おばあちゃんと呼ばれるしあわせな響き

相続の話になるとタマが来る

シティーバス後部座席で猿になる

三婆になった姉妹の賑やかさ

できるのは一緒に揺れることぐらい

記憶から君が消えない罰ゲーム

特選

里山の絶滅危惧種子どもたち

五十年後の顔を見たくて添いました

軸吟

鳥根 岸 桂子

奈良 飛永ふりこ

大阪 太田扶美代

兵庫 大西 重男

鳥取 成田 雨奇

奈良 宇賀 史郎

鳥取 池田 美穂

広島 北村 善昭

岡山 永見 心咲

兵庫 山内 迪

香川 藤本ゆたか

大阪 宇都満知子

大阪 柿花 順子

奈良 小林すみえ

大阪 小野 雅美

鳥取 齊尾くにこ

奈良 居谷真理子

# 川柳塔まつり誌上大会投句者

総数 542名  
(順不同・敬称略)

〔北海道〕 青柳 忠 東 考矢 阿部桜子

加藤 晃 浪越靖政 三浦強一

〔青森〕 阿部治幸 稲見則彦 佐藤寿見子

古木ひろ 佐藤雅秀 滋野さち 白戸まつ子

高瀬霜石 瀧尻善英 成田我楽 高橋せい子

野沢省悟 福土慕情 三浦清雪 千葉かほる

三浦幸子 守田啓子 和山 信 辻口風来坊

北山まみどり さいとうみき

須藤しんのすけ

〔秋田〕 齊藤良青 伊藤のぶよし

田村美穂子

〔宮城〕 太田良喜 佐藤俊幸 木田比呂朗

菅野 實 大久保もとじ

〔福島〕 安藤敏彦 柳沼幸三

〔茨城〕 櫻村日華 齋藤松雄 佐瀬貴子

渡邊妥夫

〔埼玉〕 佐野 純 中島通則 久保田千代

根岸方子 前田洋子 渡辺 梢

〔千葉〕 勝又康之 山崎 智 日下部敦世

〔東京〕 上原 稔 伊藤三十六

川本真理子 齊藤由紀子 宮本彩太郎

〔神奈川〕 加藤佳子

〔長野〕 島田洋審 武田香風 宮尾柳泉

〔富山〕 伴よしお

〔石川〕 新保芳明 堀本のりひろ

宮田喜美子

〔福井〕 西谷公造

〔岐阜〕 武藤敏子 喜多村正儀

〔静岡〕 佐藤清泉 佐藤灯人

〔愛知〕 青砥和子 位田仁美 小松くみ子

小出順子 沢田正司 高浜広川 佐藤ちなみ

富田末男 橋本律雄 三好光明 西郷紀美代

猫田千恵子 水野リン子 山本三樹夫

八甲田さゆり

〔三重〕 奥田悦生 竹島 晃 戴けいこ

青砥たかこ 北田のりこ 橋倉久美子

広森多美子 每熊伊佐男

〔京都〕 荒木康博 清水英旺 北野クニオ

中西展代 山田葉子 吉本 圭 渡邊真由美

〔大阪〕 青木隆一 穂山常男 青木ゆきみ

東 敏郎 油谷克己 阿部俊八 石田ひろ子

池内恭子 池田和子 池田武彦 今井万紗子

石田孝純 石橋直子 井上一箇 岩佐ダン吉

今村和男 井丸昌紀 入江晴菜 内田志津子

入江秀雄 岩崎公誠 岩崎玲子 宇都満知子

上田陽子 上出 修 上西啓仁 江島谷勝弘

上山堅坊 榎本舞夢 大浦初音 大島ともこ

大浦福子 太田 昭 太田省三 太田扶美代

岡田恵子 岡野 圭 小川佳恵 小川賀世子

荻野浩子 小野雅美 貝塚正子 折田あきこ

柿花和夫 柿花順子 片岡加代 片山かずお

葛城隆雄	川口 明	川端一歩	川端日出夫	穂口正子	前川善之	前原正美	徳山みつこ	斎藤隆浩	澤 良子	澤 良兼	小脇ゆう子
川本信子	神田良子	久世高鷲	岸井ふさゑ	増原文子	松岡 篤	松谷由夏	西田けいこ	鈴木新録	宗 和夫	竹山昭治	清水久美子
栗原道夫	近藤 正	坂 裕之	久保田清美	水野黒兎	南たか子	都 武志	原田すみ子	多田雅尚	谷口修平	近兼敦子	住吉美和子
酒井紀華	阪本秀子	澤井敏治	木見谷孝代	森井克子	森田旅人	安田忠子	平井美智子	敏森廣光	富永恭子	長島敏子	瀬島流れ星
澤田悦子	島田明美	初代正彦	桑原すゞ代	山野寿之	雪本珠子	横田節子	平松かすみ	永田紀恵	成定竹乃	新早義明	田中おさむ
助川和美	鈴木栄子	鈴木かこ	桑原ひさ子	横山里子	米澤俣子	渡辺晶子	松島きよみ	西美和子	能勢利子	萩原 正	中岡千代美
高杉 力	立蔵信子	谷口東風	くんじろう	松田蟻日路	松尾美智代	宮崎シマ子		萩原狸月	羽奈和子	平松直樹	野口真桜子
丹後屋肇	次井義泰	辻 肇	源田八千代	森中恵美子	山内規子子	山岡富美子		福田正彦	新早義明	藤井宏造	坂東佐和子
土田欣之	津守柳伸	寺井弘子	古今堂蕉子	山本希久子	吉村久仁雄	渡辺たかき		藤岡りこ	藤田雪菜	堀 正和	藤井美智子
栃尾奏子	富田保子	内藤憲彦	小山恵美子	宇都宮ちづる	きとうこみつ	美馬りゆうこ		前川 淳	横田次郎	丸山孔一	みぎわはな
中井佳子	長尾千賀	中川彰一	齋藤さくら	〔兵 庫〕	青木公輔	荒牧孝子	生田えい子	見山夢子	宮本 緑	村岡義博	山田美春日
中島一彌	長高俊雄	中村 恵	齋藤奈津子	生田頼夫	池野英坊	伊藤義幸	井口と志女	村田 博	村松久江	山内 迪	山端なつみ
中山春代	西沢司郎	西出楓葉	佐々木満作	稲角優子	井上高島	岩原隆子	上田ひとみ	山口光久	山田厚江	山田耕治	吉村めぐみ
西野敏美	西村哲夫	年梅道子	島田千鶴子	上田和宏	梅澤盛夫	江尻房子	上野多恵子	米田雅子	こやまひろこ	藤村とうそん	
原 幸子	原 洋志	原田正士	杉山フジ子	大北良裕	大西重男	長川哲夫	太田としお	〔奈 良〕	饗庭風鈴	安土理恵	居谷真理子
樋口 眞	秀 彦	平賀国和	鈴木いさお	尾畑 操	寛 靖夫	岸田万彩	緒方美津子	安福和夫	稲葉良岩	上田幸一	池田みほ子
廣田和織	藤井則彦	藤井康信	田中せうや	北澤稠民	北野哲男	九村義徳	奥澤洋次郎	宇賀史郎	宇都宮倫	大内朝子	大久保眞澄
藤田武人	藤塚克三	伏見雅明	鶴田しげ子	黒田弥生	糞谷和郎	幸田厚子	北浦三ツ代	大津研三	大西將文	木嶋盛隆	太田のりこ
藤村亜成	藤原大子	船見憲央	出口セツ子	輿水 弘	小山紀乃	近藤勝正	米田利恵子	小林和之	高橋敦子	谷川 憲	加藤江里子

中堀 優 西澤知子 林ともこ 小金澤貫一 山本ふみ子 若松由紀子 〔香川〕 大高正和 川西義仁 藤本ゆたか

菱木 誠 松本柢子 山田恭正 小林すみえ 〔鳥根〕 石橋芳山 伊藤寿美 多久和敬子 藤野さき

山田順啓 山本昌代 米田恭昌 小林すみれ 伊藤玲峰 加本精一 岸 桂子 梅瀬みちを 〔愛媛〕 越智学哲 鎌田昌子 安野かか志

渡辺富子 澤山よう子 飛永ふりこ 田中堂太 中筋弘充 原 德利 山根雪代 栗田忠士 黒田茂代 郷田みや 大内せつ子

長谷川崇明 余野美代子 山下じゅん子 〔岡山〕 市田鶴邨 大石洋子 古山はつ子 古手川光 高畑俊正 田中なお 大葉美千代

〔和歌山〕 石田隆彦 上田紀子 三枝眞智子 大杉敏夫 岡本余光 尾崎 貴 高橋由紀女 永井松柏 花岡順子 浜本光子 岡山フジエ

柏原夕胡 川上大輪 北原昭枝 木本朱夏 折鶴 翔 黒岩博美 國米和江 戸田まさこ 藤原節子 正岡鏡花 松木慎吾 川上ますみ

倉橋悦子 小谷小雪 佐藤まき 定松宏枝 清水克俊 丹下凱夫 永見心咲 原 脩二 高市すみこ 西田美恵子 柳田かおる

澄田康則 西川千鶴 三宅保州 藤井智史 藤澤照代 丸山威青 宮本信吉 山内もとこ

まつもともとこ 〔広島〕 阿部敦子 岩本笑子 田辺与志魚 〔高知〕 辻内次根 清水由紀子

〔鳥取〕 池澤大鯨 池田美穂 伊塚美枝子 大木彦翁 小川道子 小畑宣之 鴨田昭紀 〔福岡〕 坂本弘子 もりともみち

伊藤昭子 大羽雄大 大前安子 岡崎美知江 岸本 清 北村善昭 小島蘭幸 笹重耕三 〔佐賀〕 坂本蜂朗 仁部四郎 真島久美子

門村幸子 川口亜矢 岸本宏章 小川健二郎 塩谷邦子 新庄芳春 依 逸子 常國喜好 真島美智子

岸本孝子 木天麦青 倉益一瑤 後藤美恵子 土居直子 渡田慧水 中野妙子 半田知弘 〔長崎〕 松本篤世

後藤宏之 狭武紫陽 新家完司 斉尾くにこ 羽城裕子 松尾信彦 村上和子 村田幸夫 〔熊本〕 杉野羅天 阪本ちえこ

中井孝子 中原章子 中村金祥 竹村紀の治 矢島敏秀 吉永団風 山本恵子 米田恵子 〔大分〕 高木遊楽

成田雨奇 橋谷静江 藤原久直 田中紀美恵 若野敏青 若山宗彦 〔宮崎〕 恵利菊江 押川胡坐 黒木栄子

前田楓花 牧野芳光 宮田風露 副井ゆたか 〔山口〕 上村夢香 坂本加代 中前幸子 〔沖縄〕 禰モモト

森山盛桜 山下凱柳 吉田弘子 政岡日枝子 〔徳島〕 小畑定弘



(投句195名)

戦火は一向に収まらず、ますます惨憺たる様相を見せています。

国民に対して報道などを抑え込み、あの状況をフェイクニュースだと言い切るロシアの恐ろしさに身震いしてしまう時があります。

同じ頃、わが日本では、満開の桜が自粛に飽きた人たちを迎えてくれていたのですが、お花見、お花見と浮かれる気分にはなれそうもありません。そう言いながらも、やはり桜の木々を見上げて短い春を胸に刻みたい思いに駆られます。では、ナビを。

河内長野市 大島ともこ

鏡よ鏡このバアさん誰かしら

(評) ホンマやわ、だーれ、このバアさん、なんぞ思いながらよくよく見れば、マスクを外したワタクシでした。

堺市 内藤 憲彦

ごめんねが言えて肩こり取れてくる



(評) ひと言の重みですな。言ってみればどうってことなかったのに、肩まて凝らして、ねえ。

米子市 後藤 宏之

かくれんぼ雲のうしろが隠れ場所

(評) 可愛いかくれんぼ、と思いきや、隠れ場所が雲のうしろだなんて、なかなかシニールでございます。

大阪府 小野 雅美

お互いの長所を探すゲーム中

(評) これはレンアイというゲームかしら？ 何でも良く見えてしまうゲームだけど、しっかりと両眼を開けて見てね。

鳥取市 倉益 一瑠

誰ですかお風呂に鏡つけたのは

(評) お風呂の鏡は無ければ不便ですけど、あれば見たくないものまで見えてしまいます。どちらを取りますのん。

堺市 坂上 淳司

フライパン一つで美味い男飯

(評) いいなあ、男飯。軽々とフライパンを使って作るのはなあに。本当に美味しそうな逸品が思われます。

高槻市 初代 正彦

やつぱりネ嫌な予感ば当てるでしょ

(評) 当らなくていいものは結構当たりますよ、ね、こんなものが当たるのに宝くじは何故当たらないのかしら。

池田市 太田 省三

老眼鏡外すと世間広く見え

(評) 結局のところ、老眼鏡で見えていたものは限られた世界だったんですね。外してほやける世間こそ真実かも。

大阪府 岩崎 玲子

サービスの目安だろうがワンコイン

(評) 何もかも値上げラッシュの昨今。ワンコインランチなんて有難いものは残って欲しいデス。

寝屋川市 川本 信子

古い師落とし所を知っている

(評) 占いなんて信じない、と思ってもそれに頼ってみたいほど辛い時もあります。指針の一つ位に留めたいですね。

羽曳野市 吉村久仁雄

懸命に生きているかと問う鏡

腰に貼る前にくっつく湿布薬

大阪市 古今堂蕉子

紙ちよつと薄いんちやうか此のポイは

変異して花と咲きますしやぼん玉

松山市 郷田 みや

綿あめが主役であつた村かつり

アンテナを張りめぐらせる宇宙人

神戸市 松倉 正美

予報より雲に頼ってお洗濯



大空に悠悠と浮く老いの夢  
唐津市 坂本 蜂朗

辛いなあ遙か彼方のウクライナ  
高槻市 松岡 篤

拡大鏡小さななやみ飛んでいけ  
箕面市 酒井 紀華

いい顔になれた五人も話した  
神戸市 富永 恭子

自分だけ生きてどうするつもりやら  
奈良市 高橋 敬子

恋ごころも雲も流れに逆らえず  
尾道市 大本 和子

嘘つくに疲れた鏡舌をだす  
岡山市 大石 洋子

友だちの居ない子みんな寄つといで  
神戸市 みぎわはな

天国へ宇宙旅行と洒落ましょか  
松山市 宮尾みのり

簡単につかまえられた空の雲  
東京都 川本真理子

もどかしく老眼鏡に虫メガネ  
防府市 坂本 加代

過去未来捨てて現在見失う  
和歌山県 三枝眞智子

気に入った嘘は何度もついている  
尼崎市 永田 紀恵

長い旅そろそろバトン渡しましょ  
大阪市 内田志津子

鏡からスルツと抜けたヒミコちゃん  
松江市 石橋 芳山

片想い見透かしている千切れ雲  
和歌山市 北原 昭枝

空にまで国境がある悲しいね  
弘前市 高瀬 霜石

オムレツに紛れこんだら逃げられる  
松山市 柳田かおる

見えなくていいものまでも見えてくる  
尼崎市 近兼 敦子

二度三度弱った金魚掬われる  
橿原市 居谷真理子

桜より紅葉が好きな歳となり  
大阪市 山本加お里

少年よときめく方へ舵を切れ  
枚方市 栃尾 奏子

締切りに追われる如く野良仕事  
米子市 妹能令位子

笑えない方の私が住む鏡  
佐賀県 真島久美子

よく見れば俺もそこそこの男  
藤井寺市 鈴木いさお

春ですれ雲がかあるくなりました  
大阪市 石橋 直子

役立たぬ男一匹揚げている  
箕面市 出口セツ子

青空をひよいとひと飛び水たまり  
香芝市 大内 朝子

日本の一・五倍ウクライナ  
大阪市 江島谷勝弘

花粉症化粧の順を間違えた  
藤井寺市 鴨谷瑠美子

入道雲になる少年のもしも  
青森県 月波 与生

口紅を引かなくなつて老け込んだ  
尾道市 村上 和子

テロリストの顔が鏡の中にある  
今治市 永井 松柏

土筆の子春だ出てこいマスクして  
神戸市 近藤 勝正

先ずゴミをすくつて海を美しく  
和歌山市 まつともとこ

北へ行く雲にのっかり桜追う  
朝霞市 前田 洋子

拡大鏡こんな顔とはビツクリだ  
鳥取県 本庄ひろし

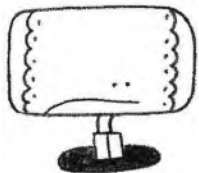
今日はきょう明日はアタシの風が吹く  
生駒市 饗庭 風鈴

見上げている雲は私を見ていない  
土佐清水市 辻内 次根

拡大鏡鬱という字であつたのか  
東大阪市 佐々木満作

見えそうで見えない明日というあかり  
大阪市 若本 安代

7月号発表  
(5月15日締切)



(平本 霧石人 画)  
柳箋に2句

# をこせよ

毎月24日締切・35句以内厳守  
掲載は原稿到着順となります。  
楷書で誤字のないようにお願  
いたします。  
編集部

## 大山滝句座(鳥取) 新家 完司報

母だけは息子が偉くなる予感  
何度でも復活をする段ボール  
煩惱に削られてゆく理想像  
浮き雲の後追う旅をする予感  
緩んだ脳へしずしずと酒を注ぐ  
ラーメンと蕎麦の間を行き来する  
会いたいと言えは会いたいねとこだま  
被災地もウクライナにも要る真水  
人間も水も緩むと悪さする  
すべてすべて水に流してあの世ゆく  
食って寝て理想体型ままならず  
春めいて誰かに会えそうバスに乗る  
流行らない店のゴムひも緩んでる  
草木と身の丈の日々句の調べ  
笑顔っていいな連鎖に緩む顔

みちを 芳光 余光 照彦 寿代 芳山 楓花 八千代 幸子 由紀子 風露 けいこ きこ 紫陽

人生の理想のかたち空になる  
運転は止そうか今朝の腹の虫  
ふる里の水に馴染んだ平泳ぎ  
一世紀でくたく歩きグッドバイ  
朝早くいやな予感のベルが鳴る  
もうええわ雪雪早く春よ来い  
ゆるむ頃今年も咲いた福寿草  
義母実母白寿で召されホッとす  
理想とはかなわぬ夢の代名詞  
飲んで寝る理想通りの林住期

## 川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

穏やかな星に生きてる地球人  
金星を稼いだ力士よく笑い  
母の星は私だけしか見えぬ星  
みずがめ座今日はいいことあるらしい  
はやばやと朝刊届く明けの星  
母さんの芋煮バラ寿司星三つ  
どの星も戦争などしていない  
ビッグボス名乗る器を持っている  
爺ちゃんの呼び名これからビッグボス  
一年一組ひとり居てたなビッグボス  
影の汗笑顔に変えるビッグボス  
ライオンのたてがみ凜と向かい風  
ばあちゃんに微笑むだけのビッグボス

小 雄 大 麦 青 石花菜 清明 希楽良 久子 コスモス 規雄 完司 裕之 公誠 シマ子 直子 民子 志津子 保州 久美子 哲夫 昌紀 朝子 満作 佳子

コロナ過ぎ小躍りしたい春を待つ  
次の世も夫と添うつもりハハハ  
上役のいいねいいねに踊らされ  
がせねたが流れて踊りだす株価  
三猿になってこの世を踊りきる  
目に見えぬものに世界中が踊る  
ポイントに踊らされてる無駄遣い  
オールディーズ心が踊る身がさわぐ  
人間の残酷さ見るおどり食い  
少しだけ踊らされてるフリしてる  
大臣のひと言ジョークでは済まぬ  
あの汗だジョークだけとも思えない  
本心をちよいと匂わせ言うジョーク  
君のジョークふつと虜になっちゃう  
ジョークには毒を入れてはいけません  
参つたなあ真に受けちゃった四月バカ  
バツと出るジョークにセンス匂わせる  
爺ちゃんのジョークが孫に届かない  
フットワークの軽いジョークで罪がない  
ポケットの中にとって置ききのジョーク  
笑えないジョーク洗って天日干し  
人間が好きでジョークが透き通る

廣子 眞澄 憲彦 玄也 ひろ子 里子 江里子 俊雄 一步 勝弘 さくら ダン吉 堅坊 ふりこ はな 福貴子 まつお 満知子 進 いさお 寿之 楓楽

## 川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

酒飲みは桜の花がこいしくて

清

衣更え終えて心も春になる

雪背負い芽吹き始めたチューリップ

天国はずっと春だという噂

金、銀、銅北京の春は満開だ

こそこそと貯めたへそくり身を助け

こそこそと書いているのが本音です

先不明もう堂々と生きてやる

袖の下頑固一徹背を向ける

春風に触れて嬉しい顔の皺

暖かい心触れ合う友がいる

十日ぶり触れる徳利よぬくもりよ

金メダル取れないまでも触れさせて

ご機嫌はいかがとちよつと触れてみる

髭面に触って無精自覚する

心奥を切れぬ刃で触れる人

顔話題しないでブスであんぱん似

琴線に触れるふるさと赤とんぼ

柿すだれ冷気に触れて秋の暮れ

久々の子との触れ合い先伸ばし

天文は北斗七星ことはじめ

それまでかそんなものかと北の風

最北の港に捨ててきた未練

北方の帰らぬ島が波に吠え

夏と冬世界唯一北京会

立春の空へトリブルコーク舞う

滋

龍枝

完司

石花菜

久芽代

美知江

紀子

芳江

余光

紀美恵

岳人

貴恵

三津子

大鯨

裕子

悦子

富隆

重利

義人

玲坊

芳光

みゆき

節子

陽之助

くにこ

川柳塔みちのく(青森) 稻見 則彦報

人生の火の章をまだ走ってる

敵陣へ尻に火が付く火繩銃

火の元は二度確かめる昨日今日

火の始末できなくなつたら畳みます

菓ごもりの心を癒す冬花火

特売日火曜の市に妻躍起

献立に悩まぬ火曜カレーの日

休肝日火曜の夜と決めてある

ていねいに自分の時間脱ぐ火曜

火を焚いて静かに先祖供養する

ひとことで越えてしまった発火点

火の車を動かす妻の腕光る

火加減はオートに任せ鏝焼く

老いらくの恋に火加減忘れてる

燃えぬ恋なら煽つてやると火吹き竹

火傷あと主婦の敷草だと思ふ

火バサミで孫と日課のゴミ拾い

人生の残り火僅か点す老い

火炙りの刑場見せる焼き肉屋

強火では焦げちゃいますよ恋だつて

末席で小さな燠を抱いている

良い風が吹くまでじつと待つ火種

母の忌にマッチ一本見当たらず

規子

一呑

真由美

孝子

ふさゑ

重虎

隆樹

ひとし

和香子

澄子

風来坊

初枝

ひろ

柳子

のぶよし

美鈴

義明

洋子

龍馬

吹喜

霜石

慕情

則彦

片山 かずお 選

切り札の使用期限が切れていた

いつまでもそばで見たいな子のドラマ

二次会はアカンと合図する財布

声高な主張にきつと裏がある

微笑みと微笑み心ぼつかぼか

汚れ役果し男になってゆく

引きつった笑みで悔しさラツピング

人気者でした論吉が尽きるまで

森林がいのち削つた白い紙

引き潮でしみじみ人の情け知る

佳句地十選

(4月号から)

緒方 美津子 選

同じ地球に飽食の国飢餓の国

うやむやに許してならぬ汚染水

新米を売つて古古米食つている

風評拡散SNSが凶器にも

馬の脚台詞はないが名演技

六人の兄弟みんな生きてる

執着をまず捨てないと道はない

食卓に小さなおはし増えて春

火あぶりの刑に観念したするめ

穏やかな老後迎えるはずでした

和子

康則

敏治

久仁雄

昌代

堅坊

淳司

雅美

星雨

武彦

一步

満知子

蟹郎

福貴子

一彌

ひとし

柳歩

万紗子

椒子

理恵

チンブイ撫でる母の手あたたかい  
中七に本音の僕を閉じ込めり  
あきらめの度に窓打つ涙雨  
想像の翼広げよ今朝の窓

英子  
黙人  
花峯  
効

一病をしつかり抱いて寒牡丹  
今日も無事ですカーテン一寸開けておく  
三月の別れ泣いても朝は来る  
かえりみちころんだけどなかなかかつたよ

厚子  
初音  
史子  
土俵際強いあの子が頼もしい  
強情はよそう若さのやわらかさ  
強がりと言った後から泣けてくる  
絹糸の強さは母に似た強さ  
屠蘇を酌む笑い上戸の福の神  
独りいて私がせず誰がする  
惚けてきた自慢のように話す友  
デジタルに強い息子の帰省待つ  
神様にすがりたい気は良くわかる  
逆境で一皮むけて強くなる  
君が逝きや優待すると友僧侶  
しがみついて百寿の花を咲かせたい  
神様もマスクしてそう初詣  
これ最後勝手な時の神頼み  
身内より絆は強い釜のめし  
ライバルの尻尾掴んでから強気  
波長合う友を空気に半世紀  
混沌の地球の平和神頼み  
飼ひ猫にスマホ依存を論される

准一  
悦男  
眞智子  
明子  
あき子  
知香  
和美  
義泰  
彦弘  
康則  
俊介  
弘子  
よしこ  
正子  
智三  
澄夫  
幸  
保子  
千鶴

竹原川柳会(広島) 古田比呂子報

もう一度青春リング丸かじり  
青春の青さを誰も笑わない  
川柳に打ち込める老いの青春  
レター代筆急転直下恋が舞う  
押し車青い山脈唄いつつ

比呂子

つかれるとエビみたいにまるくなる  
六歳 ちか

和歌山三幸川柳会 西川 千鶴報

「君の名は」はらはら見てた青春期  
アルバムの断捨離悩む我八十路  
アルバムに僕より若い父がいる  
断捨離中遠い昔をゆらりゆらり  
アルバムに幸せなのかいい笑顔  
逝つてからますます父の背を慕う  
背伸びする猫真似てみるストレッチ  
寄り添うてつくす医療の背を拜む  
デカい夢背負っていたがみな消えた  
父の背を越えて解つた世間体  
弟を背負い遊んだ昭和の絵  
コメントが大人びている選手達  
行き届く看護へ感謝手を合わせ  
ATM私も並ぶ年金日

笑子  
昭紀  
輝恵  
白狐  
慶子  
宣之  
蘭幸  
夢香  
栄香  
弘子  
千代美  
敬子  
節生  
節夫  
和子  
歩美  
貞子  
幸子

残り時間がぞえる小さな紅を買う  
喧嘩して友とは酒ですぐ直る  
ポイントの切り替え線におわず神  
切り札を一枚持っている強さ  
無信心されど福笹買いに行く  
突然の避けようもないエネルギー  
老いの愚痴余生の友と分かち合う  
窓開けてお招きをする福の神  
大阪のおばちゃんピンチでも笑う  
杖友にゆつくり越そう白寿坂  
筋一本通す加減が難しい  
内科外科接骨院に友の数  
ブライドを守るラインで和を保つ  
古里の絵はモノクロで覚えてる  
日の出にも神が宿ると手を合わせ  
強い根が縄文杉を承らえる

理恵  
一雄  
碧  
起世子  
宏枝  
まき  
純子  
昭枝  
ひろ子  
昇  
和子  
菜摘  
保州  
侃大  
敏照

和香  
義泰  
彦弘  
康則  
俊介  
弘子  
よしこ  
正子  
智三  
澄夫  
幸  
保子  
千鶴

富柳会(大阪) 山野 寿之報

誘うても誘われませんでしたとは女  
もし無いと不自由なのかと尾軀骨  
ささやかな誘いが欲しい姥桜  
うたかたの恋に未練がへばりつく

恵  
武人  
和子  
高鷲

富柳会(大阪) 山野 寿之報

富柳会(大阪) 山野 寿之報

富柳会(大阪) 山野 寿之報

朝霧に溶け幻想の朝ほらけ

マドンナさん同窓会の誘い役

朝刊と走る陽気なふくらはぎ

蝶になるために盗んだひなあられ

お誘いを待ってましたと弾む足

古女房と言われて平気赤い靴

夫の留守二十四時間一人占め

とめどなく物価値上がり生き地獄

幽玄の世界にはえる薪能

誘われたのは風春と手を繋ぐ

壽峰

一文

かこ

奏子

由夏

文重

きみこ

正義

勝矢

寿之

オミクロンとデルタコロナのニューモデル

見本よりとても痩せてた海老フライ

極上の祝辞全身痒くなる

体温計活躍したねこ二年

極上だ息子作った雑煮味

極上の診断もらう「異常なし」

値で食べる舌の貧しさ知らされる

どれほどの熱かと嚙う「愛してる」

富美子

あきこ

佳子

倅子

大輪

節子

悦男

晶子

三樹夫

まみ子

かつ子

美千代

よく当たる売場へ徹夜して並ぶ

下積みの見えぬ努力が花咲かす

小さな努力つなぎ合わせて生きている

天才と言うが努力も人の倍

隅っこの努力に神の目が止まる

ハニートラップ中国スパイの得意技

あの友と誘い誘われ親友に

パーゲンに誘われ山とお買物

誘われて同じ話を何度聞き

誘われてうっかり乗って丸裸

勧誘の決めて現品あと僅か

コーヒの香りが誘う喫茶店

誘われる日を待っているニールック

陽が笑う亀蛇みんな出ておいで

真心が無口な愛を誘い出す

穂すすきの手招きもう少し待って

誘うのはあなたのなにげない瞳

誘うのは一つ返事の友にする

盆梅展のぼりが誘う天満宮

雨ですね女はそっと謎かける

まつお

久仁雄

瑠美子

いさお

扶美代

冬のト

フジ

さくら

洋一

久仁子

ダン吉

こみつ

美代子

みつこ

美代子

泰子

理恵

専平

勝弘

大子

一歩

わかやま吟社

小谷 小雪報

極上のボンレスハムのような腕

三カラット母の形見に支えられ

生き方をモデルにしたい友がいる

平熱かつ平服でお越しください

ありのまま生きる何気ない日常

再加熱すればわたしの味が出る

古民家がモデルハウスと言われだす

再会もサクラの下がよく似合う

あつい熱い川に累罫たるいのち

田の見張りモデルのようなマネキンも

モデルチェンジする迄新車お預けに

使用前のモデルになれる肥満体

食べないのも仕事なんですモデル業

日出男

寿子

紀子

小雪

知香

徑子

よしこ

夕胡

八茶

明

精子

タカ子

和宏

日本の心メダルに勝る絆持つ

期待した味じゃなかったレストラン

ウイルスに遠のくところか鯉のほり

耕して何を植えよう種苗店

最後まで迷ったアルバムの処分

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

人知れず重ねてこそその値打ち物

自粛中出掛けないのも努力です

金メダル努力天才運もあり

消毒の努力甲斐あり無感染

努力した皆にあげたい金メダル

品格を磨く努力に精を出す

両手に豆いっぱい出来た逆上がり

報われぬ努力もあった五十年

三樹夫

まつ子

かつ子

美千代

大子報

千鶴子

ひとみ

かつ美

正義

啓子

一文

楓楽

ちづる

よく当たる売場へ徹夜して並ぶ

下積みの見えぬ努力が花咲かす

小さな努力つなぎ合わせて生きている

天才と言うが努力も人の倍

隅っこの努力に神の目が止まる

ハニートラップ中国スパイの得意技

あの友と誘い誘われ親友に

パーゲンに誘われ山とお買物

誘われて同じ話を何度聞き

誘われてうっかり乗って丸裸

勧誘の決めて現品あと僅か

コーヒの香りが誘う喫茶店

誘われる日を待っているニールック

陽が笑う亀蛇みんな出ておいで

真心が無口な愛を誘い出す

穂すすきの手招きもう少し待って

誘うのはあなたのなにげない瞳

誘うのは一つ返事の友にする

盆梅展のぼりが誘う天満宮

雨ですね女はそっと謎かける

ブラザ川柳(大阪)

穂口 正子報

インフレが恐い徹夜たるタンス預金

見送られ就職列車のベルが鳴る

梅に小鳥林檎つえばみ我もチョコ

正子

五月

和代

コロナ禍の夜桜提灯いとさびし

投稿のチャンス逃してギブアップ

正面に威風堂々土俵入り

ドクターが正面切つて加齢です

梅愛でる心のゆとり断つコロナ

一年生の輝く瞳いつまでも

前よりも後がいいと誉められた

金メダルに翻弄される十五才

見つめあった夫婦今では睨み合い

異国から目を輝かせ介護職

川柳花の輪(大阪) 川本 信子報

亜鈍眠る霊園から臨む寝屋

マスク越しハテ貴方様誰方だっけ

寝屋川市人の聞かれば成田山

いつ迄も紙面をコロナ一人占め

普段から距離をとってる夫婦です

プーチンがたがた揺する平和論

爺婆と壁を作ったコロナです

コロナ禍も気にせず四季の花は咲く

倉吉川柳会(鳥取) 大羽 雄大報

諦めた財布が戻る凄いな

雨の日はしみりと聴く雨の音

間違つていてもわからない深刻さ

政夫 大声で怒鳴り木霊に叱られる

園子 夕暮れはしみりとする鬼の面

悦夫 時には自分怒鳴りつけたい時もある

弘光 丸くなれ怒鳴り心はマスク通す

景子 道一本間違え家が見当たらぬ

淳司 怒鳴り声猫もびつくり逃げて行く

靖子 同じ口で愛して見たり怒鳴つたり

清乃 怒鳴つてもあのプーチンに届かない

克三 駅ピアノしみり聴いて汽車を待ち

一彌 プーチンへ届け悲痛な怒鳴り声

朝食でもたもたすると怒鳴る妻

老い独りしみりなんてして居れぬ

凄いなあ逆境に金高梨沙羅

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

スマホというおもちゃを持った古希の妻

世界中の注目集めてロシアせめ

近く時の言葉集める哲学を

動物園パンダばかりが人集め

注目を集めて競うメダリスト

我が家では僕がスイープされている

コーチの手きつと出来ると背中押す

コロナでも手で食べているインド人

舐めていた鮎を差し出す三才児

空元気なんとか今日を舞い終える

照彦 靴底に蝶の亡骸詫び入れる

萩江 何足もの靴履きかけた青春期

龍枝 いい子だな靴も揃えて脱いである

恭子 玄関に靴があふれる祝い事

風露 靴音がそろりと戦前がよぎる

智恵子 乾杯の口上長いきつと下戸

日出子 接種受け嬉し若いぞ熱が出た

けいこ どんぶり飯二杯はいける食べ盛り

佑子 ありがたや偶数月の15日

麦青 私にはカニフグウナギ死語になる

道春 プーチンに神様きついお仕置きを

由紀子 歩くのが好きでいつでもスニーカー

雄大 悲しいねいくさを逃げる子どもの目

ブルタブを集めて愛の車椅子

きつと来てねと言つた店が閉まつてる

連帯感青と黄色を選つて着る

川柳ふうもん吟社(鳥取)山下 凱柳報

食べ残しだあれも問わぬ一人膳

折り曲げて謝罪できない硬い骨

集配の週末痛い締切日

ふるさとの鎧兜を脱ぐ徳利

嫉妬心芽生えてからの深い森

青空へ今日の幸せ編んでいる

食品ロス戦中派には耐えられぬ

正彦 佐和子

新録 ゆきみ

健二 紀恵

修平 千賀子

(入) 宏造

勝弘 こみつ

宏造 かずお

耕治 ヨシエ

純

久仁雄

由紀女

振作

欣之

紫陽

一平

節子

完司

醉芙蓉

玲子

雄大報

大羽

雄大報

雄大報

雄大報

やわらかい芽を摘まれたか深い闇  
蛙鳴  
失敗を聞いて貰える春の酒  
拓治

のんびりを後悔してるメ切日  
真智子  
のんびりと過ごしていたに病みがくる  
初恵

ドカ雪でのんびりできぬ朝が来る  
房江  
のんびりしたわけじゃないのに脳がさび  
門千代

母白寿無心りハビリ豆運び  
毅  
のんびりをかき消す孫とオミクロン  
八千代

いい湯だなスマホを置いて旅に出る  
隆浩  
のんびりの人に魚は食らいつく  
蟹郎

雑踏にのんびり風を送りたい  
厚子  
拉致の海半端じゃないが乗り越えろ  
金祥

原因は中途半端な返事から  
勝  
半端もの集めて部屋はゴミの山  
善平

半端ものですが自慢の野菜たち  
月満  
人生の中途半端はむなしぞ  
勲章

部屋の間角まるくまくるく掃くルンバ  
壽峰  
不揃いの茄子一山でさらす首  
久千代

十八歳僕は子供なの大人なの  
無限  
うやむやにさせてはならぬモリとカケ  
宏章

うやむやにするのが上手お役人  
みつ子  
真相は黒塗りされた会議録  
茶人

何事もうやむやにして知らぬ顔  
大  
その内に返事しますと三月たち  
千賀子

南大阪川柳会

松岡

篤

信用は有るが先立つものは無い  
在宅でほんとに仕事してますか  
パスワード根こそぎ言うてしまう癖  
もうかるで信用したらあかんでえ  
占いを信用しすぎまだ独り  
顔パスも信用されぬマスク越し  
何言うても信用のないお父ちゃん  
お腹見せ幸せそうに猫寝てる  
酒止めたら治ると主治医言ってるが  
寝静まると語りかけてくるこけし  
妻に似たふっくら顔のこけし買う  
土産にはこけしと決める宮城県  
被災地の里を案じているこけし  
手と足が時には欲しくなるこけし  
親子孫見守るこけし温かく  
ボールペンもち殴り書きするモミジの手  
筆庄も見抜くサインの裏表  
ペン持てば無口な人がよく喋る  
下手な字も温もり届くお礼状  
文春がこの頃へんにおとなしい  
紙とペンただそれだけで足りる趣味

回春子  
凱柳

松岡

篤

篤

しつかりを重ね中味のない施策  
弁解を重ね無くしている自信  
ぶ厚いなダブルバーガーどう食べる  
七重八重花に埋もれたデスマスク  
パンの上詰妻にどやされる  
同じ日に死のうと友と約束し  
ミモザあふれ笑みもこぼれて女性デー  
だんまりを決めこんでいるのが答  
ひと呼吸遅れてオチにたどりつき

敏治  
大子  
直子  
克己  
東風  
シマ子  
まゆみ  
加代  
俊雄

松岡

篤

篤

右左傾けてみる抽象画  
海峡を越えててふてふ火の鳥に  
炎天が恋しい冬の布団干し  
我が家にもやってきましたこのとり  
失敗談数数あつて今の俺  
明石海峡望む戦禍の慰霊塔  
海峡でムンクのように彼の名を  
何ひとつ変らぬ今日がありました  
八十路坂残り人生洗濯だ  
傾いた家と私は同年  
傾けると可愛く見える鬼瓦  
誕生日孫から6Bプレセント  
独り居はテレビ相手によく喋り  
傾いてからがしぶとい夫です

千賀子  
はな  
利子  
良種  
盛夫  
洋次郎  
いわゑ  
ひとみ  
みよし  
敦子  
和宏  
勝弘  
正和  
武彦

西宮北口川柳会(兵庫)

結方美津子

しつかりを重ね中味のない施策  
弁解を重ね無くしている自信  
ぶ厚いなダブルバーガーどう食べる  
七重八重花に埋もれたデスマスク  
パンの上詰妻にどやされる  
同じ日に死のうと友と約束し  
ミモザあふれ笑みもこぼれて女性デー  
だんまりを決めこんでいるのが答  
ひと呼吸遅れてオチにたどりつき

俊雄

思案癖傾く首が戻らない

喜びも悲しみも抱き海越える

海峡にボカリ本音が浮いている

マネキンは立春からは春衣装

使つても重さ変わらぬ乾電池

炎立つ心静めてくれるペン

イヤイヤでも強い流れに逆らわず

嬉しくて日付を越えた長電話

花嫁の父となれた目感無量

君となら泥船だつて心地好い

津軽の海掘つて十年夢出合う

叱る役押しつけられた男親

突き一本土俵に新風阿炎が行く

炎上げ若草山が春を呼ぶ

二月堂松明振つて春を呼ぶ

子や孫がすくすく伸びる姿みて

海峡を渡ると決めた昨日まで

若いねー言われ一瞬背すじ伸び

やるだけはやつた自負あり以下余生

炎上の過去もあつたと老夫婦

憎まれ口交わす元気がまだあつた

川柳塔さかい(大阪)

内藤

憲彦報

口止めの約束忘れついボロリ

先妻の名を呼び晩酌が出ない

うっかりでは済まぬ妻への口答え

正彦

廣光

千代

哲男

新録

恭子

富次

哲子

忠夫

光久

靖夫

一徳

邦男

野鶴

野こ

野薫

真桜子

福弘子

俊雄

堅坊

昭九朗

高くつく場所へうっかり傘忘れ

うっかりで済まされぬのが火の始末

うっかりと置き場所変えて物さがし

うっかりと相槌打つて買わされた

へましてもついうっかりで押し通す

聞き役で切るにきれない長電話

自爾の憂さ互いに晴らす長電話

日脚伸び春の息吹がそこかしこ

いつ終る長い戦い拉致家族

国境越え戦禍逃れる長い道

長い長い世界平和の遠い道

長い老後飽きずに楽しむ趣味がある

長い目で見てもトンビの子はトンビ

五十年よりつづいたと思ひます

掛け金の元を取るまで死なれへん

戦争の長い歴史は忘れられない

辛口の母の手紙がエネルギー

大事な人へ便箋をよる切手選る

紙手紙匂いも癖も詰めて来る

いつ迄も残る手紙の陰と陽

若い娘の手紙はなやか漫画です

セピア色十五の春のラブレター

手紙よりティクトックでフロポーズ

封切れば故郷の海が溢れ出る

いい時に取りに行つたようまい柿

イキイキと歳を忘れて動きたい

ひろ子

美津子

敬子

万紗子

素頓馬

朝子

敏治

八千代

志津子

和夫

としお

堅坊

雅明

勝弘

進

満知子

清

みつこ

光雄

世紀子

富夫

蕉子

憲彦

倅子

廣子

憲

いがみ合う東西溝は埋まらない

一年後父さん会える嬉しい日

いざこざをとつても嫌う梅の花

異空間へ到達目指す宇宙船

石垣は常夏の島海青し

言い訳がとつても苦手うちのババ

魔屋の軒は雀のユートピア

雀にも勞りかける一茶の句

いい朝を告げる窓辺の群ら雀

玄米をまいて雀の朝ごはん

熱がある先ずは恐れる新コロナ

先ず先ずの出来だと言われ有頂天

何がさておき先ずはごめんと言っておく

日本に生まれたことにまず感謝

グータッチピピッチと愛がかよいます

小さなごぶし一寸はにかみグータッチ

一筋を極め偉人となる没後

偉人にはなれそうもない米を研ぐ

会合に何時も遅れる偉いさん

偉人伝読んだ直後はよく励む

妻と母わが家には偉い人ふたり

宇宙ではトイレの時はどうするの

風のキス春風やさしスニーカー

耐えられずあつちこつちに貼るカイロ

時雄

舞夢

扶美代

玄也

いさお

さくら

正報

志華子

満作

肇

ルイ子

堅坊

ゆきみ

万紗子

宏造

満知子

福貴子

恭子

実博

黒兎

和夫

五月

野鶴

峰子



嘘だなど笑うしかな物忘れ

里の香もお裾分けするよもぎ餅

先ず一歩踏み出さないとコト起きぬ

オミクロン人を麻痺さす万単位

消毒を過ぎて指紋消えている

追伸に二重マスクの助言あり

春光へ希望むくむく発芽する

戦争を語る人物減るばかり

バラ五輪よそに戦争するロシア

ブーチンの思いひとつで街が消え

インフレが来るブーチンのとはつちり

思い切り笑って齢を忘れよう

ゲームではないぞ流れる血と涙

席譲るただそれだけのポランティア

焦る時先ずは座つて熱いお茶

真つ先に素足が春を見つげ出す

堂々と核を持ち出す安倍憂う

川柳 de 遊ぼう会(大阪) 小野 雅美報

東風吹いてドンと開いた狭き門

ポコポコと2歳児笑う春の道

「冷たい手」悲鳴聞きつつかおむつ替え

コンタクトブルーに変えて今日ハーフ

初デート淡いピンクに染める頬

過去ばかりみてる私に今日の風

百歳の肌に白粉忘れざる

かずお

千賀

亜成

正彦

久美子

洋志

朝子

篤

賢子

隆一

廣子

一步

星雨

郁夫

廣光

昌紀

信子

目に涙ためて可愛い時はか

マスク越し目が顔なのと語ってる

脱衣場にぬけがら二つ大と小

はだいろのクレヨン君に罪はない

母の眸の奥に住んでる冬蛸

ジャンケンボンみんなパー出す春の風

目力の弱い夫に黒マスク

子育ても味付けも皆目分量

正直な目が許せないことばかり

空爆のニュースコーヒー冷めたまま

逆風は神様からの指示ですか

握りしめ肌に食い込む爪の跡

深入りはするなど風が押し戻す

八尾市民川柳会(大阪) 山野 寿之報

人間のみんな他人でみな温い

同郷と知って親しくなる他人

酒の肴に少しこげつくあの噂

神頼み止めて努力の積み重ね

おぼろ月亡母が見えたり隠れたり

残された時を知つてか散る椿

母の祈り戦下逃れる小さき靴

他人同士横一列に立ち飲み屋

わたくしを許す野の花空の星

悲しみを包んでくれる無口な手

よしみ

康雄

えみこ

孝純

美智子

和男

敏郎

満知子

旅人

(岡)恵子

のり子

(阪)恵子

雅美

硝煙のエゴに飛び去る白い鳩

うつぶんの台詞飛び交う痴話喧嘩

これでもか追加接種は三回目

爺婆が入学祝い競い合う

合格の報告に行く梅の中

春なのに避難止むなくウクライナ

正面に戦争ぬつと現れる

反核の信念いつも真正面

正面から子にぶつかつて後でハグ

黙祷の一分めぐる走馬灯

輝く事出来ぬが老いも又楽し

輝く都を木つ端微塵にするブーチン

カーテンがふわり揺れてる春日向

ちくはくが面白そうに揺れている

あれやこれ老いの身支度今日も暮れ

日のひかり透けて雀も兎と遊ぶ

過去を消し未来も閉ざすドーピング

包容力男の器量より深く

秘め事はこっそり鬼のいないなに

賞味期限頭も顔も足元も

夢叶え大空を舞う金メダル

脚光を浴び輝いたアスリート

売り言葉さらりとかわす年の功

幹和

福子

克己

靖博

和子

おくみ

正美

直樹

孝代

正博

幸子

淳司

由夏

ヒロ

千代

澄子

邦夫

洋二

隆明

光弘

由彦

隆彦

孝

はたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

男坂女坂でも差別語に

友達がだーれも来ない坂の上

目に浮かぶオランダ坂のロマンスが

坂道が私の足を強くする

門限に慌てた坂の青春期

検査結果異常はなしに出る笑顔

笑顔には笑顔を返すウォーキング

夫とは笑いどころがかみ合わぬ

人知れぬ苦勞が滲む笑い皺

久しぶりに会えばマスクの目が笑う

赤ん坊が笑い和解の道開く

水いらずのんびり暮す老い二人

見た目には呑気に見えるお一人は

川柳塔まつえ吟社(島根)相見 柳歩報

新品のナベ探してる割れたフタ

神さまが蓋を開けると朝になる

素粒子が頭蓋の中に迷い込む

ふざけるな僕は太根足が好き

クリームを欲しがる踵農の足

結婚を君の素足を見て決めた

まだ夢を見てひた走る老いた足

歩かねば偏平足が進んでる

コロナには神様耳が遠くなる

勝弘

春代

契子

奈津子

純子

正子

宏造

順子

則彦

黒兎

堅坊

直子

一弥

柳歩報

瑞人

桂子

芳山

柳歩

米估

小鹿

豊仙

知恵子

みちを

古里が遠のいている老いの足  
指メガネしたら見えたよ一番星  
親が逝き途端に遠くなる実家  
遠かった母の背中を越えて行く  
遠回りあれば昔の話です  
イケメンには程遠いけどあつたかい  
父さんの遠い耳には謎がある  
お見舞いをお見合いと聞く遠い耳  
遠い耳確かな記憶一合目  
ねえティッシュいざという時ピンチ到来  
ままならぬピンチしばらくフリージング  
恋は直流とおせんぼ吹っ飛ばす

川柳ねやがわ(大阪) 籠島 恵子報

嘘言わぬ愚直な父の深い皺

正座から胡坐に酒が出て来ない

色々な思い行きかう交差点

政治家へ控えおろうとどやしたい

政治家は自分の嘘を信じてる

嘘だとは思っても嬉し愛してる

甘い嘘老いの心を弄ぶ

行つて見て食べて評価の星の数

子どもいろいろ差別をしない子は天使

あちこちのお札ぶら下げ手を合わす

多様化の時代生き抜くバイタリティー

邦代

モナカ

弘充

聡美

雪代

吹喜

あきら

德利

青帆

ピル

とも子

美智子

人生いろいろ歌つたよい時代  
色々な人居る世間広いんだ  
色々な資格を使い世を生きる  
色々あったわたしが愛おしい  
色々な山坂超えた現在地  
人生色々この人生の是非を問う  
何事もほどほどのが身を護る  
大方は控えて帰る好好爺  
希望ばかりになって手帳に控えてる  
妻のあとろに控えポツと立つ  
気のせいか園児の声も控え気味  
控え目な娘に惚れて今夫婦  
控え目なお人が一番怖かった  
今やマスクシートベルトと同じです  
脳トレで揺れる不安を吹き飛ばす  
趣味多彩友達ばかり増えて来る  
はてなマークがI O Cに付きまとう  
むかしむかしと読んだところで兎は眠る  
さよならと書けばベン先雨模様  
ひとり居るの夜を呉春が慰める  
職終えて生地に戻り羽繕い  
欲捨てて風の無心と会話する  
みかんむく今更焦ることもなし

川柳藤井寺(大阪) 鈴木いざお報

かすみ

さち子

ルイ子

あかり

朝子

賢子

高志

麗

銀杏

一文

博文

壽峰

亜成

勝弘

武彦

博泉

鈍甲

かずお

常男

玲子

郁夫

弘子

かずお

風評はどうあれ君を守り抜く裏付けのない風評にある悪意風評を撒いて拾つて週刊誌風評に惑わされない耳磨く風評に過敏な主婦の食選び風評がふくれあがつた立ち話風評の影で操る仕掛人

同期会むかしむかしのネタばらしせつかくのネタを大臣読みとばす嘶家は妻の涙もネタにするアータまで改ざんしてたアベ時代図書館はネタの泉というところ父親はネタを豊富に持ち合わす男ではないかと噂される美女

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報  
行列のできる店には行かぬ主義行列に食材のウソないですか手にミモザ侵略止めよ長き列おぞましいロシアの戦車列をなす何となく並んで列で芽吹く恋ワクチンに並ぶ暑い日寒い日もアモ行進の先頭を行く車椅子橋の下軍国主義の長い列  
かいがいしい嫁を演じる夫の里北の行進きびきび過ぎてちと怖い

久仁雄 まつお みつこ 大子 ちづる 倅子 ひろ子 喜代子 ダン吉 扶美代 勝弘 一歩 瑠美子 いさお

きびきびの顔が欲しくてアイライン機密費を残さず使う手際良さ手早いが何をさしても雑であるそれにしてもきびきびしてる北のアナきびきびと動いてならぬ太極拳もう少しきびきび出来るはずだった謝れば敵も柔和な顔になる敵わんなあ女と菊蕪のぐにやりひとり敵増やせば明日の絵を泣かす先人観と敵を作つていませんか敵味方も構わない年になる敵の涙勝者の胸に沁みてる八人目の敵は可愛い孫でしたライバルと作り笑いで擦れ違う一歩だけ下がって見えた敵の腹生き延びるために敵とも肩を組むちよつとした余裕さ三度目の接種小銭貯める趣味手数料取られ御三家が欠ける私の青春もガソリンが上がりおかずを減らされる淡々と自社の不祥事アナは読む水やりをさばると咲いてくれぬ花大雪に夜も湯気立つ野天風呂青と黄が品切れになる文具店ライバルとの切磋琢磨があつてこそ

朝子 太郎 麻也 保州 和郎 まつお シマ子 心咲 常男 (立)信子 三成 緑 直子 斎柳 堅坊 正明 敏子 里子 (河)恵 栄子 安保子 千代 和大 勝久 福貴子

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報  
医者と店あつて団地が住みやすいボロ家でも住む家あつて助けられ住み込んで芸仕込まれて二代目に雪深くいぶす囲炉裏が心地よく一人住む田舎暮らしもう五年古い家住み続けたが後がない過疎と言う地球のヘソに住んでいる住民票案山子にも有る過疎の村皇居より住みよいですかアメリカは帰れとは言えぬ田舎に親は住むこの件は責任持てと上司言う物忘れ責任転嫁する夫起訴されて責任あつたとやつと知る責任持つと見得を切つたが苦勞さす責任を追及している似非正義責任を取つても騙され嫁にした心根が火中の栗をまた拾う好きも嘘嫌いも嘘の無責任コロナ禍を不死身のように生きてます訳もなく美しく咲くバラの花柱には訳のわからぬ刀傷えりまきの中には秘めた訳がある弱虫が暴れる譲れない理由

宏章 かおる 蟹郎 白周 弘六 甚祿 すみれ 紫陽 孝子 楓花 静恵 俊幸 慎一 よしあき 弘子 文道 美ツ千 正昭 茜 小鹿 盛桜 八千代

妻不死身私うるちよろまびれつき

妻からの不死身の戦強すぎる

不死身だと信じた大和海の底

かなわんな卒寿じいさん梨作り

マンガの世界では不死身アンパンマン

訳は無く自然のままに好きになり

訳もなく死亡欄見て沈む日々

泣く理由ないけど涙あふれ出る

酔っているときは不死身のアンパンマン

岸和田川柳会(大阪) 石田ひろ子報

街おこしこも主力は高齢者

街角の監視カメラに睨まれる

街中から丸くて赤いポスト消え

休業と終業のピラ街に満ち

地下街を出て方角を確かめる

第六波閑古鳥啼く繁華街

いい街だ肩にこぼれる四季の花

灯火管制街の灯消えた酷い日々

街角のメロデー!今日も通りゃんせ

裏通り歩けば街の裏の顔

いい街だ弾ける子らの声がする

不満など言える苦なく年金日

愚痴ばかり言つて幸せ遠ざける

フアスナーが不満を叫ぶ試着室

大 鮎

ゆたか

恒

孔美子

照彦

草文

一平

茶子

完司

一步

玄也

みつ江

勝久

万彩

いさお

小雪

はこべ

保州

香代

航太郎

ふさゑ

ダン吉

和美

敏治

働けることの幸せ不満など

譲るなら物より軽い札が良い

一步譲るただそれだけで風は風ぐ

百歩譲つて添うていきますあと少し

一步だけ譲ろう反対の意見

派手な服譲れば案山子着てござる

譲りあうところが有れば平和です

譲れぬ一線匠の仁王立ち

譲ること覚えてからの下心

実権は妻に譲つて主夫となる

熱帯魚に見紛うような服が行く

いつまでも三日坊主が直らない

カラフルな傘の行き交う交差点

村の子へ子供狂言伝えとく

カラフルな絵より墨絵の方が好き

憧れた街でふる里恋しがる

どちらにも不満の残る妥協案

ひと言の不満も言わず逝つた母

オミクロン負けぬマスクの色多彩

プランターの花カラフルな裏通り

川柳塔なら

陽気になれば施設の友も来るはずだ

酒少少飲めば茶碗をたたく癖

次の世は陽気な人になってやる

珠子

恭子

扶美代

理恵

信子

世紀子

憲彦

恵子

優

康信

眞澄

彦弘

常男

穩夫

喜代志

朝子

俊雄

規子子

三成

ひろ子

シマ子

一步

勝弘

羅天

マスクとれたら天まで登る地にもぐろ

冬の底賦つて陽気な春の風

陽気力コロナの妖気つき飛ばす

宇宙話でも喋りたくなる日向ぼこ

百までの陽気暮らしの設計図

春や春ワルツを踊っている鼓動

万物が陽気に唄う春の森

点滅と同時に杖が走り出す

あと一人胸がとどろくパーフェクト

血管を探しあぐねる注射針

はらはらとこの世を閉じてゆく命

お互いに腹に一物いつバトル

妻の部屋にうっかり手帳置き忘れ

桜散る最終章の自分史よ

初めてのお使いママが落ちつけず

公園の死角で遊ぶ青りんご

幸せは朝日の当たる家に住む

地震予知でかいナマズに聞いてみる

陽の当たる土手に土筆が顔を出す

多数派のハズレの方にいつもいる

塩高く撒いて角番体当たり

今にしてつくづく思う夫運

新調の入歯が上顎に当たる

神棚へ上げて柏手ジャンボ籤

みつこ

寿之

淳子

敬介

優

成子

(鳥)美智子

武人

満作

雅美

昌代

行久

則彦

ダン吉

克己

みほ子

美智代

まつお

かずお

げんえい

比呂志

もと子

いさお

俊雄

和郎

由夏

この星で愛が命中した人と  
思惑がずばりずばりの有頂天  
今日の無事当り前ではない国も  
開花日を当ててごらんと桜の木  
食い意地が強くて懲りぬ食当たり

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

散髪はいつも通りで半世紀  
ポリシーが揺らぐ染めるかグレイヘア  
なぜ染める黒髪がよく似合うのに  
カラフルに髪染めあげて妻の喜寿  
逆光に母の白髪のうちつくしい  
大丈夫鍵かけるほど金がない  
気が重い彼女に鍵を持たされて  
よくなくす鍵に大きな鈴をつけ  
円満の鍵を忘れて言い過ぎる  
キーワードは「若い」老人利用術  
非常口鍵は開かない火は迫る  
胸の鍵開けてごらんよ風が吹く  
髪質が細くて柔い父に似る  
合コンは心の鍵を広く開け  
鍵の束寂しい音で鳴っている  
鍵付きの日記に恋も修羅もあり  
鍵二つかけて性善説を説く  
雑草と力比べをして負ける  
アク抜きはほどほどにしてそれも味

富子 欣之 すみ子 定生 理恵 裕之 里子 いさお まつお 理恵 としお たかこ 直子 満知子 眞澄 昌紀 雅美 民子 志津子 ゆみ子 俊雄 久仁雄 進 萌

ダイエットお昼抜いても減りません  
近道を抜けてドッキリ落とし穴  
後ろから息子黙って抜いて行く  
つかみ取り欲ばったので手が抜けぬ  
駅伝の雄姿胸すくごほう抜き  
一題目で抜けるとホツとする句会  
影法師抜きつ抜かれつ月の下  
抜擢に意気揚々の馬の足  
気に障る小言ちくりの刺を抜く  
伴走者選手とともに走り抜け  
曲がりなりに生き抜く力まだ少し  
私を美人だなんておかしいわ  
おかしいと口には出せぬ宮仕え  
おかしいと思った男だったのか  
医者も妻も急に優しくしてくれる  
人間をちよつとおかしくしたスマホ

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

うだうだと言つてもいつか通る道  
コンビニが高齢世代ターゲット  
粒よりで入学したが背くらべ  
青臭い心保って日々新た  
洗うほど色あざやかに藍の布  
桃の花活けて老女の雛祭  
ママゴトの夫婦いつしか共白髪  
粒よりの土つき匂う道の駅

勝弘 憲彦 哲夫 一步 福貴子 玄也 江里子 大子 寿之 崇明 万紗子 保州 篤 満作 ひろ子 堅坊 時子 健二 眞理子 武彦 晴子 北子 義明

大粒の汗リハビリ明日を描かせる  
てつべんでいつか飛びたいカタツムリ  
ゆつくりと洗う心の奥の奥  
日々多忙なれど昼寝は忘れない  
小粒でも花粉には泣く大男  
いつかつていつとしつこく迫る妻  
手洗いを妻がそばからチエックする  
プーチンめ胡散臭いと思つてた  
いつかでは判らん日にち言うてくれ  
伝統が一粒種にのしかかる  
口上手いつかあなたの意のままに  
好奇心プレーキ掛けず突つ走る  
ひたすらヘフォローの風も吹くだろう  
プーチンよロシア文学読み給え  
恋人に誰もが見たい春の風  
むしゃくしゃの心を洗う通り雨  
もつたれないと鬼が地べたの豆拾う  
いつくるかわからぬ事に騒ぐまい  
いつかほらあの日の君は走つてた  
ひたひたと春が湧き出る巖取り  
温かい大きな背中またねまた  
僅かだが膨らむいつか咲く蕾  
一粒の母の涙にある重み  
小粒でも私らしく生きてます  
墓洗うすつたもんだはさておいて  
春おぼろいつか会いたい人ばかり  
祖国愛赤いネールが銃を取る

憲央 野鶴 公輔 敏昭 堅坊 英旺 じゅん子 勝弘 見清 武人 満作 正彦 正彦 一歩 玲子 則彦 眞澄 美津子 黒兎 ふりこ ひとみ 亜成 千賀子 英三 洋志 ヨシエ 肇

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔打吹	14日(土) 13時30分締切 歎・揺れる・へとへと・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティーセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳ねやがわ	15日(日) 席題・アクション・勝つ つまらない・自由吟	寝屋川市民会館 京阪寝屋川駅から徒歩15分 または京阪バス市民会館前下車 〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳藤井寺	15日(日) 14時締切 かくれんぼ・ぼやく・席題共撰	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
川柳塔みちのく	15日(土) 17時締切 雑・いよいよ・歌	会場未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
南大阪川柳会	13日(金) 14時締切 無理・良い子・主婦・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中もくせい川柳会	16日(月) 13時50分締切 段差・使う・ころり・自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳さんだ	17日(火) 13時30分締切 安定・硬い・ベッド・逃げる 自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1545 三田市狭間が丘5-10-19 谷 祐康
岸和田川柳会	21日(土)14時 土・遊ぶ・見上げる・ハミング	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-13-19 中岡香代
川柳たちばな	19日(土) 13時45分締切 午後1時開場 席題・一・囲む・自由吟	尼崎市女性センター・トレピエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
はびきの市川柳会	22日(日) 14時締切 招待・裂ける・ラスト・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北東へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳ふうもん社	22日(日) 13時～ 自由吟・甘い・黒・売る	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川柳塔すみよし	28日(土) 14時締切 味・装う・しまったと思った事	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山三幸川柳会	28日(土) 13時15分締切 食器・子供・開く	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

## 5 月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳塔 さかい	6日(火) 締切 力・こつこつ・国産 折句: さ・よ・り	投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 斎藤さくら
川柳塔 なら	6日(金) 14時15分締切 パート・もこもこ・触れる 席題	奈良市中部公民館 4F 投句先 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
城北 川柳会	7日(土)14時締切 焦る・デジタル・女神・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	7日(土) 軒・潰す	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉 川柳会	7日(土) 14時締切 乱・渡る・申す・席題一題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡北栄町由良宿2072-17 谷口次男
川柳塔 まつ 吟社	7日(土) 13時30分締切 顔・古代・待つ・ほちぼち	投句先 〒690-0034 松江市古志原7-19-19 中筋弘充 会場 雑貨公民館
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(土)必着 長い・ジメジメ・紫陽花	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 「おりひめ☆ひこぼし川柳会」 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
川柳塔 わかやま 吟社	8日(日) 14時10分締切 兼題=無料・糸・スプレー 課題吟=水	和歌山商工会議所 4階 和歌山市西汀丁36 兼題 〒649-6253 岩出市紀泉台366 藤原ほのか 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 桑原道夫
西宮北口 川柳会	9日(月) 14時締切 席題・渋滞・悟る・ちょっと 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	10日(火) 13時30分締切 風・騒ぐ・なぜ	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兎
川柳 あまがさき	10日(火) 14時締切 朗らか・赤・ぎらぎら・自由吟	尼崎市女性センター・テレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
あかつき 川柳会	13日(金) 14時締切 察知・のらりくらり・視 時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳大阪	休 会	
六甲 川柳会	14日(土) 14時締切 辛抱・ごめん・飲む・自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏

# 柳界展望

フェスタ賞 石橋 芳山  
Wi・Fiを辿れば青  
白きニーチェ

特選 石橋 芳山  
どなたかと問うたこ  
ろで水水母

尼崎市 山本 百合 紹介者 澤井 敏治  
紹介者 平井美智子 高槻市 安田 啓三  
大阪市 澤田 節子 紹介者 西出 楓楽

★「番傘フェスタ2022年誌上大会」。参加者736名。同人成績。

★「第48回河北川柳投句者大会」。参加者176名。同人成績。

特選 齊尾くにこ  
言寿ぎのお鍋に入れる  
殺したて

▽各地句会賞△  
○「2021年度川柳塔わかやま賞」  
あおい賞 上田 紀子  
UFOが来そうな月夜  
石舞台

フェスタ賞 宇都満知子  
看護師の渦中極まる防護服

大会1位賞 高瀬 霜石  
特選 高瀬 霜石  
デコボコ道でしたわたしの滑走路

特選 高瀬 霜石  
つまらない大人になつてゆくおとな

▽訂正△  
4月号37頁  
○熊本県川柳研究協議会川柳大会、課題「緑」↓  
課題「緑」  
▽新誌友紹介△  
泉大津市 葛城 隆雄  
紹介者 雪本 珠子

フェスタ賞 三宅 保州  
手を振っています溺れているのです

フェスタ賞 辻内 次根  
合掌の隙間溺れていた月日

フェスタ賞 森田 旅人  
用のある顔して歩く街の人

第15回「ふるさと」川柳募集  
課題「乱」  
(1口2句提出・12人による共選・複数応募可・清記選)  
選者 伊藤寿子・渡辺松風・米山明日歌  
赤松ますみ・石橋芳山・梅崎流青他  
締切 7月31日(消印有効)  
投句料 1000円(切手不可・小為替・現金)  
〒014-0602  
秋田県仙北市ひのきない字長戸呂85  
浅利方  
第15回「ふるさと」川柳事務局 宛  
川柳「湖」

フェスタ賞 居谷真理子  
既視感の街でやっぱり一人ぼち

特選 大久保眞澄  
神様はいないみたい  
な人はいる

主催 川柳「湖」

フェスタ賞 居谷真理子  
既視感の街でやっぱり一人ぼち

特選 大久保眞澄  
神様はいないみたい  
な人はいる

主催 川柳「湖」

フェスタ賞 居谷真理子  
既視感の街でやっぱり一人ぼち

特選 大久保眞澄  
神様はいないみたい  
な人はいる

主催 川柳「湖」



# 第45回 全日本川柳2022年 富山大会 大会要項

来たる6月12日(日)に予定されていた富山大会は急遽中止をし、誌上大会に移行いたします。大変残念ですが、次のように変更させていただきます。

皆さまにはこうした状況をご賢察の上、誌上大会へ仲間を誘い合つて沢山のご投句を頂きますよう切にお願い申し上げます。

**題と選者 7月15日(金) 当日消印有効**

「氷 河」 高 鶴 礼 子 選 (埼玉)  
 「離れる」 伊 東 志 乃 選 (富山)  
 「久しい」 牧 野 芳 光 選 (鳥取)

**投句料** 一、〇〇〇円

**投句先** 〒530-0041

大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

TEL 06(6352)2210

一般社団法人全日本川柳協会 宛

郵便振替口座 009701913575

\*課題吟は未発表自作に限ります。

\*二重投句は固くお断りいたします。

\*同一作品、酷似作品が先行して発表されていた場合、入選・入賞を辞退していただくことがあります。

「川柳葦群」創立15周年記念川柳大会

日時 令和4年5月15日(日) 午前10時30分開場

会場 柳川市民文化会館 「水都やながわ」

〒832-0058 柳川市上宮永町43-1

電話 0944-731777

会費 2000円(昼食・発表誌呈)

課題と選者(投句拝辞)

各題2句 出句締切12時 開会13時

「木」 佐藤 岳俊 選

「雲」 野沢 省悟 選

「残す」 小島 蘭幸 選

「肌」 萩原奈津子 選

「糸」 黒川 孤遊 選

「草」 古谷龍太郎 選

事前投句 「雑 詠」 梅崎 流青 選

(4月15日締切りました)

懇親会 (事前申し込み)

7000円 17時から 終宴 19時15分

料亭 御花 (電話0944-7312189)

主催 「川柳葦群」

# 編集後記

★切手にも金魚が泳ぎ風  
薫る

薫風

★一日の終りに、今日一日誰とも話をしなかったな、と気づくことがある。在宅編集中ということもあるが、子供の頃から本さえあれば何日でも籠っていられた質だ。といつても孤立している訳ではない。スマホとパソコンのお陰で社会とは繋がっていると思っている。孤立はしていないが、孤独や寂しさを取って楽しんでるかもしれない。

★「淋しい時は淋しがるがいい。運命がお前を育てているのだよ」これは高校生のころに読んだ倉田百三の「出家とその弟子」のなかの、親鸞が弟子を諭した言葉である。爾來私の背骨に張りついている言葉だ。先ごろ読み返してみた。十代のころの孤独と人生も黄昏の

孤独とは、重みも質も異なるように思う。

★コロナ感染症のお陰で生き方も運命も大きく変わった人がいるだろう。自粛生活やリモートワークのせいで人との出逢いが少なくなり、自分自身を見据え改めて生き方を模索している人もいるかもしれない。私の持ち時間には残り少なくなっただけ、もう少し丁寧に生きれば良かったなと思わなくもない。ならば今一度、過去に戻って生き直すか？と問われれば、「それも何だかなあ」と尻込みしている自分がいる。

★3月18日金曜日午後3時、大阪から奈良へ出した郵便物が相手日届いたのは3月24日木曜日！間に土日祝日を含んだとはいえ6日もかかるとは！「誕生日に手紙を贈りませんか」という日本郵便のテレビCMを観た。誕生日をはるかに過

## 生涯の友

### ひとつこと

何もかもコロナでストップしてしまし巢ごもり生活が、こんなに長引くと思っていなかった最初の頃、この機会に気になったアルバムの整理や、今まで見て見ぬ振りをしてきた片付け等、張り切ってやっていた。それも終わりこのままでは認知症になってしまいかもしいれないという恐怖心が頭をよぎるようになった。

でも私には川柳という友がいた。

心の平穩を五七五と指折る事で保ち、ウオーキング中も道連れにまで深く、お陰様で今のところいつもり。

思い返せば一人暮らしになつたばかりの頃も、悲喜こももも川柳に吐き出し、どれだけ救われた事か。

川柳に出会えてよかったと、今更ながらしみじみ思います。

川柳さん本当にありがとう！

(金子美千代)

ぎて届いた手紙やカードは輝いているだろうか。レターパックや速達は翌日配達されている。働き方改革など諸事情もあるが、実質値上げは余裕なか。塔への投句は余裕をもってお願いしたい。

(朱夏)

◇今まで握手をした回数が最も多い芸能人は、浪曲師の二代目・京山幸枝若である。たぶん30回近くしている。大阪も「浪曲NIGHT」は

市千日前の上方ビルに千日亭という小劇場がある(2020年春、閉館。同年11月リニューアルオープン)。閉館するまで、幸枝若は春野恵子と弟子の幸太の3人で、毎月「浪曲NIGHT」を開催していた。トリの幸枝若は、終わると出口に行き、客と握手をして送り出すのが恒例となっていた。

◇コロナ禍で、当然のことながら握手も送り出しもない。幸枝若とまた握手ができるのは、いつのことだろうか。(道夫)

続き、今は新世界の「動楽亭」(席亭・桂ざこば)で開催している。2月22日の夜、久しぶりに「浪曲NIGHT」に行ってきた。演題は、幸太「河内百人斬り」、恵子「梅川忠兵衛」、幸枝若「会津の小鉄山崎迎え」。

# 川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名		住所	電話	紹介者
		〒 -	—	
年 年			—	
月から半年			—	
月から一年				
9800円				
5000円				
<p>該当の方に○をつけて下さい</p>				

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201  
川柳塔社 (電話 06-6779-3490)

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

## 作品募集

7月号発表 (5月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭幸選  
 水煙抄 (8句) 川上大輪選  
 愛染帖 (2句) 新家完司選  
 檸檬抄「消える」 (2句) 久保田千代共選  
 インスレクション・ナビ (2句) 大西泰世選  
 「閉じる」 小澤淳選  
 「アレンジ」 坂本加代選  
 「ポケット」 (3句) 西出楓楽担当  
 初歩教室「ポケット」は8月号発表

8月号

檸檬抄「ギブアップ」  
 一路集「ちゃらちゃら」「凄い」  
 初歩教室「塩」

## 本社5月句会

とき 5月9日(月) 13時開場・13時40分締切  
 ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間  
 天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441  
 おはなし「川柳作家 戸田古方」  
 兼題「こっそり」  
 「煙」  
 「ハードル」  
 「惜しい」  
 「関心」  
 会費 1000円  
 投句料 1000円(切手不可)  
 新川山靴石松小  
 家端野谷田原島  
 完一寿和ひろ幸  
 司歩之郎子氏  
 選選選選選選  
 (各題2句以内)

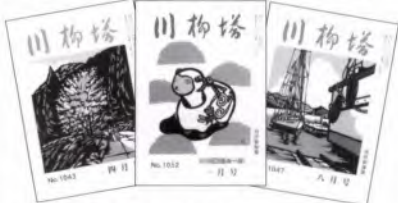
本社6月句会  
 6日(月) 午後1時から  
 兼題「痛い」「砂」「ポロリ」  
 「あっぱれ」「衣服」

## 本社句会欠席投句のお薦め

\*幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚  
 に一句ずつを書き、裏面に題とお名前  
 を記入のこと。  
 \*投句料1000円(切手不可)。  
 \*句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

## 川柳・俳句・エッセイ・小説 新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



## 美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10  
 TEL (06) 4800-3018  
 FAX (06) 4800-3028  
 Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp  
 ホームページ https://www.bikenart.com

定価 八百円(送料100円)  
 半年分 五千円(送料共)  
 一年分 九千八百円(同)  
 二〇二三年(令和四年)五月一日発行

発行人 小島和幸  
 編集人 木本朱夏  
 印刷所 美研アート

〒543-0052  
 大阪市天王寺区大道一丁目一七  
 花野ビル201号室

発行所 川柳塔社  
 電話 〇六六七七九三三四九〇番  
 振替 〇〇九八〇四一五八四七九番

# 箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、

秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE  
QRコード

舞昆のお友達に  
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで(ご試食承ります)

フリーダイヤル 0120(11)5283

自費出版

川柳・俳句・エッセイ・小説

新聞・チラシ・ポスター・伝票等

## あなたの思いを かたちにします

具体的なアイデアがある方はもちろん、「こんな出版物をつくりたい」という漠然とした思いだけでも結構です。まずはあなたの「思い」をお聞かせください。じっくりと丁寧にお話を伺いながら、それをかたちにするお手伝いをいたします。

美 研 ア ー ト

TEL 06-4800-3018 FAX 06-4800-3028

〒531-0061 大阪市北区長柄西 1-1-10

ホームページ <https://www.bikenart.com> Eメール [bikenart@ea.mbn.or.jp](mailto:bikenart@ea.mbn.or.jp)

営業時間 平日 10:00~17:00 定休日:土/日/祝